

日本気象学会 沖縄支部の50年



2022年3月
日本気象学会沖縄支部

記念誌の刊行にあたり

2022年5月に、(公社)日本気象学会沖縄支部は創設50年の節目を迎えます。これを記念して、ここまでの支部の活動を振り返るとともに、次なる時代につないでいくための糧となるよう、支部50年誌として資料を整理することといたしました。

去る2002年5月の創設30年の際も同様に記念誌が刊行されました。その中では、戦後の沖縄の日本本土への復帰を機に当支部の創設が決定したこと、また当時の気象学会理事長により、種々の困難にめげず学会の維持発展に寄与した沖縄の学会員への敬意を示す言葉が紹介されています。

太平洋戦争で国内唯一の地上戦が行われた沖縄では、沖縄地方気象台(当時)が壊滅するなど想像を絶する大きな被害を受けました。その後、気象台の再興や大学等高等教育機関の設立を経て、1972年の本土復帰を機に学会の体制を回復していくこととなりますが、これに至るまでの本土との分断の下での活動には、学術や人材の面で大きな苦労があったものと思われまます。

その後の30年誌の刊行を経て、今般、50年を経過することとなりました。この間も、観測技術の発展に裏打ちされた気象観測網の拡充や、数値予報等モデル計算技術の飛躍的な発展、地球環境にかかる知見の集積など、気象界を取り巻く技術的な環境は大きく進展しました。その一方で、世界中で激甚化する気象災害や、温室効果ガスの排出に伴う地球温暖化の進行など、対処すべき問題も増えています。国内に目を向ければ、毎年のように記録的な大雨に見舞われたり勢力の強い台風が接近・上陸したりするなど災禍が絶えません。

ここ沖縄も、我が国の台風防災の最前線として、今後とも気象分野の発展に貢献していくことが大事です。加えて、その成果を産業の発展や一般市民の安心・安全の確保につなげていくアウトリーチ活動も重要です。また、広大な海洋に囲まれる当地は、地球環境の監視拠点としても国際的に大きな役割を有します。このような広範な取り組みを進めていくにあたっては産学官の知識と人材を結集する必要があり、学術のハブとしての当学会の果たすべき役割は大きいと言えます。関係主体と連携してこの荒波を越えていければと考えます。

このような展望を描けるのも、ここまで50年の長きにわたり支部活動を繋いでいただいた先輩会員諸氏の尽力の賜物です。活動を支えていただいた、またご理解いただいたすべての会員諸氏・関係者に敬意と感謝の念を表するとともに、来たる50年も当支部がますます発展することを祈念して、刊行の挨拶といたします。

沖縄支部長 多田 英夫 (沖縄気象台長)

日本気象学会沖縄支部の 50 年

目次

記念誌の刊行にあたり（沖縄支部長）

日本気象学会沖縄支部 50 年のあゆみ …………… 1

〔寄稿〕

日本気象学会会員として 30 数年、沖縄支部で 28 年

堤 純一郎（琉球大学名誉教授）…………… 10

台風・梅雨観測と気象学会沖縄支部の活動

山田 広幸（琉球大学理学部准教授）…………… 13

日本気象学会沖縄支部での活動

伊藤 耕介（琉球大学理学部准教授）…………… 17

沖縄支部活動の思い出

田村 弘人（那覇航空測候所観測管理官）…… 19

支部研究発表会を振り返って

国吉 真昌（沖縄気象台防災調査課長）…………… 21

日本気象学会沖縄支部設立 50 周年に寄せて

島尻 勝（気象台 OB、気象予報士）…………… 23

〔資料〕

日本気象学会沖縄支部事業等概要 …………… 26

日本気象学会沖縄支部会員数 …………… 28

例会（気象研究会）開催日・場所と所属別投稿数 …………… 30

防災気象講演会 …………… 32

その他事業等 …………… 36

日本気象学会沖縄支部財政 …………… 39

日本気象学会沖縄支部役員 …………… 41

例会予稿集項目一覧 …………… 45

編集後記（沖縄支部事務局）

日本気象学会沖縄支部 50 年のあゆみ

(公社) 日本気象学会沖縄支部は、その設置が決まってから 2022 年 5 月で満 50 年を迎えることとなった。設置からの半世紀の間に、昭和、平成、令和と元号も変わり、支部を取り巻く環境や支部活動の内容も大きく変化した。ここにこれまでの活動を振り返り、次なる 50 年のために記録しておくこととする。

沖縄支部創設の決定

日本気象学会に沖縄支部を置くことについては、沖縄が本土復帰した翌日の 1972 年 5 月 16 日に気象庁講堂で開かれた総会において、「沖縄復帰に伴う措置について」の議案が審議された。

提案された議案の内容は、①沖縄支部を置くこと、及び、②沖縄地区の理事を 1 名とすることの 2 本である。総会の席上、沖縄支部の会員数はどの位あるか、また、離島が多い中で沖縄に支部を設けて運営は可能なのか、といった議論があったが、議案は無事可決され沖縄支部の設置が決定した。

本議案の成立を受けて、山本義一理事長は次のようにあいさつした。

この機会に、戦後 27 年間の長期に亘って種々の困難にめげず、本学会の会員として本学会の維持発展に寄与された沖縄の会員諸氏に対して深く敬意を表すとともに、今後は正式な支部として一層学会活動を活発にされることを希望する。

これに応え、沖縄側の代表者として、山田 一 沖縄気象台予報課長が次のようにあいさつした。

わたくしは、最近沖縄へいっていましたが、また近く赴任するが、向うの学術、研究方面といろいろコンタクトした状況によれば、学会、研究に対し若年層を中心に非常に意欲的なものがある。本土からある意味において古参スタッフが現地へ行くが、沖縄として若い人を中心に今後やっていきたい。ご承知のように中緯度の偏西風帯の南縁、台風の観測地点として積極的に活動したい。

なお、日本気象学会第 17 期の役員の立候補の締め切りは、総会前の 5 月 6 日であったが、沖縄地区理事からの立候補については総会後の 5 月 18 日まで延長され、山本 孜 沖縄気象台長が理事に当選した。なお、本総会時の沖縄支部の会員数は総勢 34 名であった。

沖縄支部発会式

沖縄支部の創設は、学会本部側の早期設置にかかる意向もあり、本土復帰の翌日に早々と決定されたが、実際の発会式は翌年の1973年2月末に持ち越された。このように遅れた理由は、支部活動の主体となる沖縄気象台が本土復帰によって誕生はしたものの、長年の行政分離の下で本土とさまざまな面で「ひずみ」が大きく、本土との格差是正に努めつつ業務の一体化を計ることが最大の急務であり、学会の活動まで手が回らなかったためである。

支部発会式は、1973年2月28日に那覇市大道の婦連会館において、第1回目の支部研究会と同時に行われた。山本 孜 沖縄支部長のあいさつ、役員紹介、規約の説明などに続き、気象学会理事長から次のような祝辞が寄せられた。

長年にわたる米軍の占領から解放され、この度新しく日本気象学会沖縄支部会員として、共に日本の気象学発展のために参加されることになられた皆さんに連帯のあいさつを送る。気象業務としては、同じくWMO観測網の中で共に今まで励んできた。しかし行政が分離されているという状況のもとでは、気象技術上で円滑が欠ける点がいろいろあり、気象学の発展にとって大いに支障があった。

日本学術会議の勧告に基づく地球大気開発計画は、来年春よりAMTEXを皮切りとして国際的な規模で広大な観測がくり広げられる。1976年にはわが国最初の静止気象衛星の打上げも計画されている。これらの計画は沖縄と本土における気象技術研究者の緊密な連携なくしては到底成功しない。その意味では、これらの観測計画は長い間断絶されていた沖縄・内地の気象人の連携を促進するまたとない機会であると共に、沖縄支部設立の良い祝賀といえよう。(中略)

今後、沖縄支部としてさらに会員拡大をはじめ、全ての方面で学会活動を活発にされることを願い、日本の気象学を全面的、多面的に発展させるよう共に努力していきたいと思う。

沖縄支部会員数の変遷

沖縄支部を置くことが決まった1972年5月の支部会員数は34名であり、それまでは全員が九州支部に属していた。支部の発会式が行われた1973年2月末時点の会員は59名(手続き中20名)であり、大部分が気象台の職員、これ以外では、琉球大学が5名、航空自衛隊が1名となっている。

その後、支部の会員数は徐々に増え、1980年代初めには150名となり、日本気象学会秋季大会が沖縄で開催された翌年の1990年にはピークとなる170名を超えた。しかし、気象台職員数の減もあり、2000年には140名台に減少。そ

の後も測候所の廃止等もあって2010年は70名台となり、2021年現在は64名にまで減少している。

なお、2010年頃以降の教育機関等の会員数は20名程で推移しているが、気象台の会員数の減少に伴い、全会員数に占める気象台職員の割合が、60パーセント台に漸減している状況にある（下図の一番上にある灰色の折れ線）。

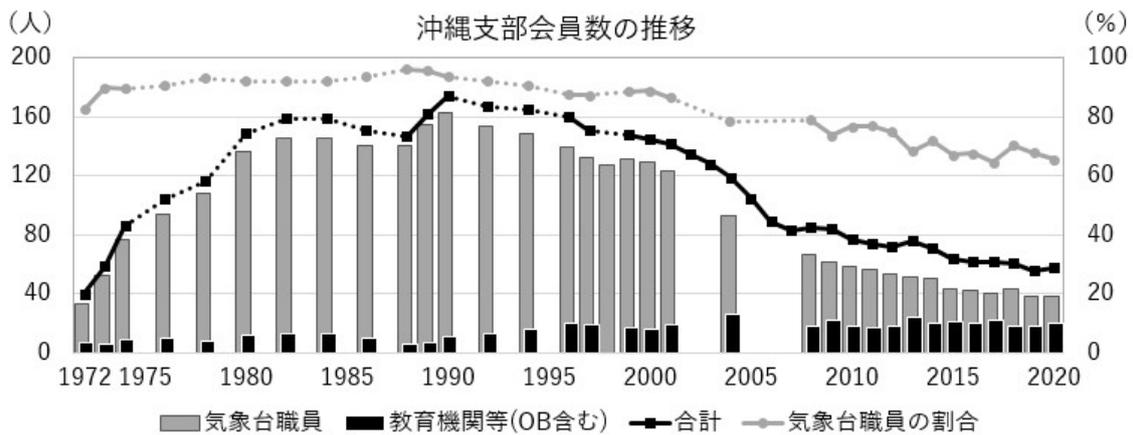


図 沖縄支部の設置が決まった1972年から2020年までの支部会員数の推移。気象台職員の会員数は1990年頃をピークに減少しているが、気象台以外の会員数は、ここ最近20名程度で推移していることが分かる。なお、2002年、2003年及び2005年～2007年は支部会員総数のみの記録となっている。

支部役員

歴代の沖縄支部長は、代々沖縄気象台長が務めている。理事については、気象台職員と琉球大学及び高等学校等の教育機関からの選出者で構成されている。支部発足当初の理事は3名、1978年には6名、1981年から2012年までは9名（南大東・宮古島・八重山の各地区それぞれ1名を加え）と増えたが、2013年に各地区の理事を廃止（3名減）したことを受け、沖縄気象台に1名を加えて7名体制となった。これ以外にも細かな変遷はあったが、理事とともに会計監査を担当する監事と事務を担当する幹事を置く体制で現在に至っている。

例会

支部発会式が行われた1973年2月の第1回例会の開催以降、沖縄気象台の管内気象研究会と共催で、毎年度1回例会を開催している。開催時期は、1995年度までは年明けの2月又は3月であったが、1996年度からは気象台職員の人事異動を考慮して、10月または11月になっている。例会の会場については、最初の4回は那覇であったが、その後は、那覇・宮古・那覇・石垣の順で持ち回り開催された。

2009年度からは沖縄気象台との共催ではなく学会単独で例会を開催している。会場も琉球大学や沖縄電磁波技術センター（NICT）、沖縄科学技術大学院大学（OIST）、国際海洋環境情報センター（GODAC）等で行い、各施設関係者からの発表も行われた。

例会への投稿数は、当初は十数題であったが、その後徐々に増え、1980年代半ばに40題を超え、1992年度にはピークの63題に達した。1題あたりの発表時間は当初15分程度を確保できたが、発表数が多くなるにつれ10分（代理発表の場合は5分）、7分と短縮され、それでも時間が足りなくなった。このため、1994年度からは代理発表を中止し、休憩時間にポスター発表やテープによる発表を試みるなど工夫している。単独開催となった2009年度以降の投稿数は6～15題程度で推移しており、開催日程もそれまでの2日間から1日に短縮されている。

最初の3回の例会には気象庁や気象研究所から指導官が派遣された。これ以降はおよそ支部会員が指導にあっている。また、例会に引き続く特別講演が、1973年と1980年代前半に4回、2009年度以降に3回実施された。

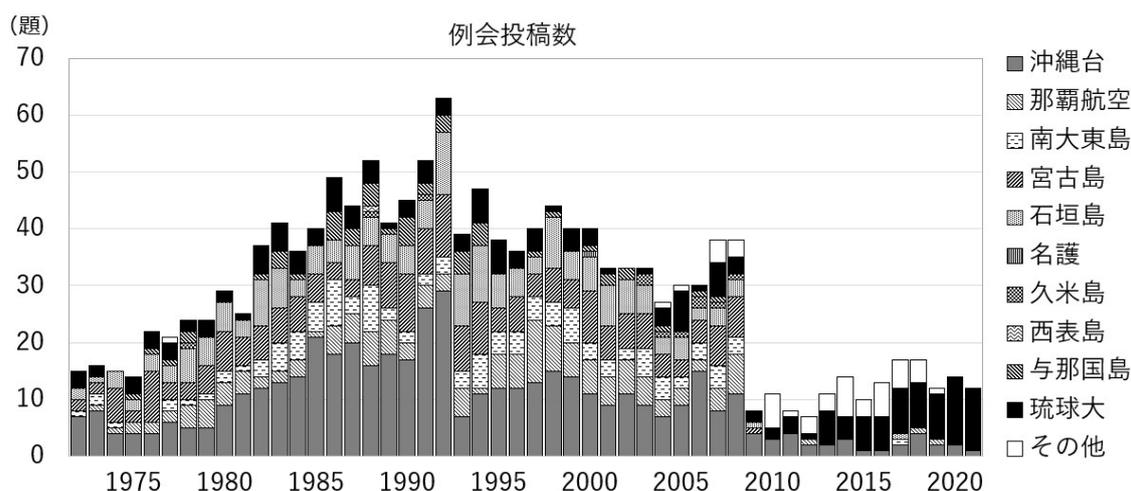


図 沖縄支部発会式のあった1972年度以降、2021年度までの例会の投稿数の推移。2009年度までは沖縄気象台の管内気象研究会との合同開催で、当該期間のピーク投稿数は1992年度の63題。

支部財政

現在、沖縄支部の収入の大部分は、日本気象学会本部から配算される支部交付金（均等割＋会員数割）が占めている。1990年までは入会金の収入があった他、学会編集による「新しい気象学」等の刊行物の売上金があった時期もある。年間の実質収入額は、1970年代は15万円、1985年以降は25万円から30万円程度である。

一方、沖縄支部の支出で最も多くを占めるのは、支部発足初期の頃は本部理事会への出席旅費補助、1980年代半ばからは例会（研究会）誌の印刷費とこれへの出席旅費であった。会議費・通信費については、毎年恒常的に2～3万円かかっており、1995年以降は防災気象講演会・親と子の天気教室に2万円程度を支出している。

2009年度に支部会計を本部会計に統合することになり、2008年度末をもって繰越金を本部に返納した。これを機に、「事業費」の支部ニュース・夏季行事開催・例会開催費・支部活動強化費と、「管理費」の総会理事会・事務費を区別して計上するようになった。

2013年以降は、支部活動強化費として、气象台以外の関係機関における例会の実施や、子ども気象学士、サイエンスカフェ、離島お天気教室等の活動を活発化させており、これに伴う支出を増やしている。

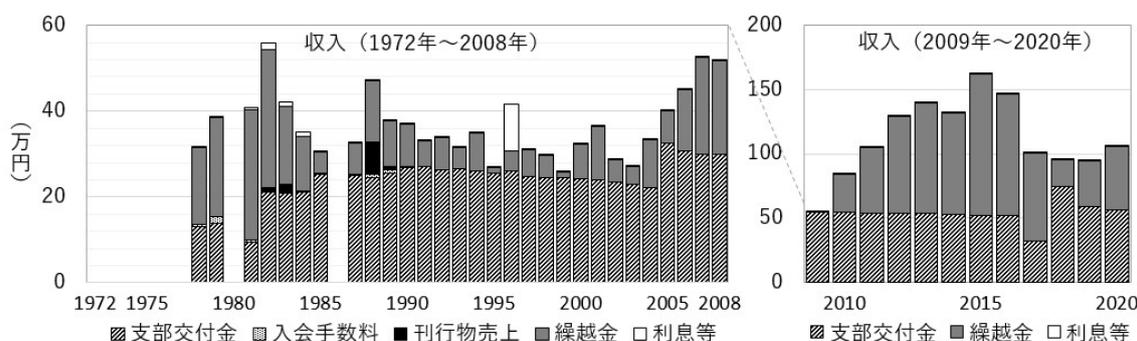


図 沖縄支部発足後の収入の推移。左は支部会計が本部会計に統合されるまでの期間。右は支部会計が本部会計に統合された後の期間のもの。縦軸の金額のスケールが左右で異なることに注意。

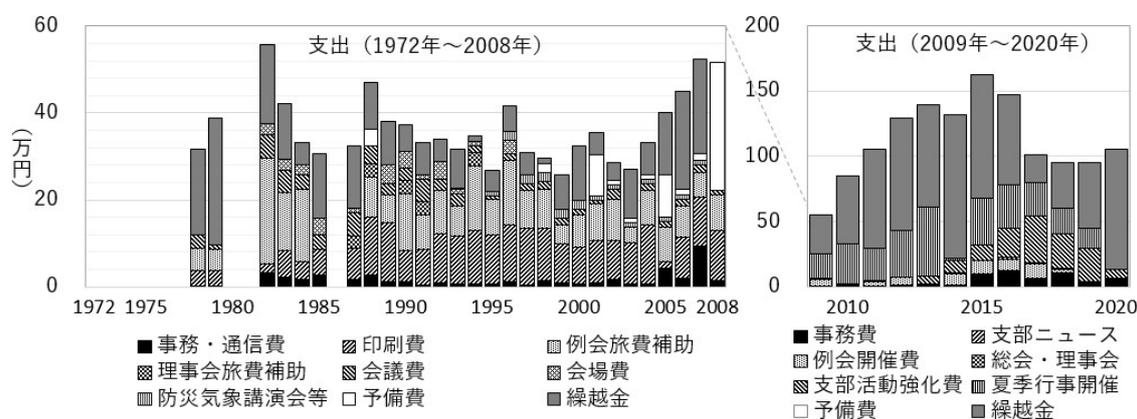


図 沖縄支部発足後の支出の推移。上図の収入と同じく、左は支部会計が本部会計に統合されるまでの期間。右は支部会計が本部会計の統合された後の期間のもの。ここでも左右の図で金額のスケールが異なる点に注意。

トピックス

○AMTEX

1974年と1975年の2月後半の2週間、南西諸島周辺でAMTEX (Air Mass Transformation EXperiment; 南西諸島周辺における気団変質観測計画) に基づく特別観測が実施された。当計画は、大気大循環の機構を明らかにし長期予報の物理的・数学的基礎を確立することを目的として、WMO(世界気象機関)とICSU(国際学術連合)が1960年代後半に提案・実施したGARP(Global Atmospheric Research Program; 地球大気開発計画(高さ30 km以下の大気大循環を研究するための具体的計画))における副計画の一つであった。

AMTEXの原案は日本学術会議で作成され、測地学審議会の審議を経て国際的な計画として取り上げられた。日本国内からは、気象庁や大学等の関係機関、国外からは米、豪、加などの研究機関が参加した。特別観測への参加者は、初年度は国内200名・国外10名、2年度目は国内95名・国外35名に上った。沖縄気象台には観測センター、宮古島地方気象台にはその副センターが置かれ、陸上はもちろん、観測船・航空機・ブイなどを総動員し、地上・高層・レーダーの大規模観測、積雲・境界層・放射・海洋などの観測が実施された。

本観測は、わが国が中心となって実施した初の大規模な国際観測であり、沖縄の本土復帰直後に実施されたこともあって、沖縄の気象界に大きなインパクトを与えた。本観測には多くの沖縄支部会員(気象庁や琉球大学の職員)が参加するとともに、沖縄支部は2年目の観測期間の後半に、那覇・宮古・石垣において延べ8日間にわたる特別講演会を主催し、大学や気象研究所の観測参加者から、AMTEXの意義、境界層観測、放射、気団変質などについて11題の講演をいただいた。

○日本気象学会秋季大会

日本気象学会は毎年春と秋に大会を開催しており、春季は東京周辺で気象庁や大学などが、秋季は北海道～九州の5地区(支部)が持ち回りで開催を担当している。沖縄支部は1989年の秋季大会を九州支部に代わって受け持ち、11月7日～9日の3日間、那覇市パシフィックホテルを会場に開催した。当大会には約350名が参加し、3会場で計227題の発表があった。大会のシンポジウムでは「台風—その最盛期における特徴と予測および防災」を取り上げた。

沖縄支部にとって秋季大会の開催は初の経験であった。1988年8月に準備委員会を設置し、1989年8月実行委員会に発展させ、会場や宿泊場所の確保、航空便の案内、補助金の依頼、広報、会場整理の配置などの入念な準備を4部門14係で分担して行い、円滑に運営することができた。

○シンポジウム

1996年～1998年の3年間、当時の文部省の科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表（B）」を活用し、産業・経済から気候までの幅広いテーマを取り上げたシンポジウムを県内の各地で開催した。当補助金は、学术界等がそれぞれの学問分野に最新の研究動向を普及させるため、青少年や社会人を対象に開催するシンポジウム・学術講演会等の実施に必要な経費を助成するものであった。各年度に受けた補助金は70万円で、テーマ及び開催地は次のとおり。いずれも各年の例会に引き続く形で開催した。

- ・1996年10月：「農業・漁業経営に及ぼす亜熱帯気候」（平良市）
- ・1997年10月：「台風と沖縄の地域経済」（那覇市）
- ・1998年11月：「気候風土から見た八重山の魅力」（石垣市）

○離島お天気教室

2009年度より、日本気象学会沖縄支部と沖縄管内の気象台が共催し、県内の離島を含む各地の小・中学生を対象に、「離島お天気教室」を実施している。これまで、沖縄本島、宮古島、石垣島の各周辺離島及び北大東島など、延べ39校で気象、防災等に関する講演や機材を用いた実験（竜巻、雨粒、雲、前線の発生、大気圧等）を行い、気象の知識普及に取り組んでいる。

○子ども気象学士教室

2014年から、沖縄気象台及び豊見城市のFMコミュニティである“（株）FMとよみ”と、小学校5、6年生を対象に、夏休み期間を利用した「子ども気象学士教室」を共催で開催している。本教室は3日～5日の期間をかけて、5題程度の気象に係る講義を持ち、多くの実験装置による体験や、気象キャスター等を招いた講話を行っている。毎回の教室の終了後は、子ども気象学士の試験を受けた結果として、子供たちに「認定書」を与えている。

○気象サイエンスカフェ

2016年度から、沖縄気象台及び日本気象予報士会沖縄支部との共催により、第一線で活躍する研究者を囲んで市民の皆さんと気軽に気象に関するトピックを語り合う「気象サイエンスカフェ」を開催している。本イベントは主に那覇市内のカフェで開催され、話し手に琉球大学や気象研究所、気象台職員を迎え、テレビでお馴染みの気象キャスターがファシリテーター（進行役）となって専門家と参加者が自由に意見交換し語り合う場となっている。

With memories of MSJ Okinawa



2014.3.9 支部研究発表会 (恩納)



2019.3.6~8 ICMCS-XIII (那覇)



2015.10.16 離島お天気教室 (伊是名)



2017.1.21 サイエンスカフェ (那覇)



2016.11.8 防災気象講演会 (与那国)



寄稿

日本気象学会会員として30数年、沖縄支部で28年

…………… 堤 純一郎（琉球大学名誉教授）

台風・梅雨観測と気象学会沖縄支部の活動

…………… 山田 広幸（琉球大学理学部准教授）

日本気象学会沖縄支部での活動

…………… 伊藤 耕介（琉球大学理学部准教授）

沖縄支部活動の思い出

…………… 田村 弘人（那覇航空測候所観測管理官）

支部研究発表会を振り返って

…………… 国吉 真昌（沖縄気象台防災調査課長）

日本気象学会沖縄支部設立50周年に寄せて

…………… 島尻 勝（気象台OB、気象予報士）

〔寄稿〕 日本気象学会会員として 30 数年、沖縄支部で 28 年

堤 純一郎（琉球大学名誉教授）

実は、日本気象学会に入会した年を正確に覚えていません。多分、まだ大学院博士課程の学生だったと記憶していますから、1985 年頃のことだったと思います。その頃は九州大学の学生でしたので、沖縄支部ではなく九州支部の所属でした。その当時からの私の研究と気象学会会員としての足跡を振り返ってみたいと思います。

大学院は建築学専攻でしたので、主に室内や建築周囲の気流に関する研究、特に、流体の数値シミュレーションを行なっていました。今では CFD シミュレータも市販され一般的な実用ツールになっていますが、当時はまだ計算式の検討から計算プログラムの作成まで全部手作りの研究レベルでした。毎日、九大の大型計算機センターに籠って計算プログラムを検討していた頃が思い出されますが、もうその箱崎キャンパス自体がなくなってしまいました。気象の分野ではその頃、既に数値予報として CFD が取り入れられていましたのでその勉強をすることも目的でしたが、もう一つの大きな目的は建築の換気や通風のための基礎となる気象データについて研究することでした。その頃、長期間の気象データを解析しようとする、東京の気象台まで行って 2400ft の大きな磁気テープにデータを移していたように記憶しています。まだインターネットのない頃、今、思い出すととても不便でしたが、研究がとても楽しかった時代でもありました。

大学院修了後、日本学術振興会特別研究員の 2 年と、東和大学助教授の 4 年半まで福岡にいましたが、1993 年 10 月に縁あって琉球大学に助教授として着任しました。ここから沖縄支部の所属になりましたが、研究グループの継続もあり、かなり頻繁に福岡へ行き、九州支部でも研究発表させていただきました。沖縄支部で最初に研究発表したのは 1995 年頃のこと、明確に覚えていませんが、その時の会場が石垣市の図書館だったことはよく覚えています。これが私の初めての沖縄島から別の島への旅行でした。研究発表はほとんど気象台の職員の皆様だけで、私は場違いなところに来てしまったのだろうかと思いましたが、皆様に温かく迎え入れていただきました。

琉球大学に着任した頃は、第 2 次ベビーブームが続いていたので、学生数や教員数の臨時増加がありました。バブル経済の名残も多少残っていたので、まだ日本経済がとても元気で、国際社会における日本の立場も非常に強かったと思います。また、1995 年末に Windows95 が発売され、インターネットが一般に広がり始め、世界がアナログからデジタルに変化し始めた頃でした。その直前の 80 年代は急成長した日本経済に対する欧米からのジャパンバッシングが起こ

り、日本製品が破壊されたりしましたが、今の中国の状況とも重なって、アナログ時代最後の懐かしい記憶になっています。

日本経済がまだバブルの残り火と製造業の優位性を保っていた時代ですから、当時の文部省も予算に余裕があったのか、海外研究動向調査在外研究員という新しい制度を1995年に始めました。その募集開始時に応募し、運良く採用されて1996年の3月末、つまり1995年度末からドイツ及び北欧と米国に合計6ヶ月滞在する機会を得ました。ドイツでは約3ヶ月間南部のフライブルク大学気象研究所で主に都市気候に関する調査研究を行い、その後、エッセン大学、北欧のデンマーク工科大学、ヘルシンキ工科大学等を回って、7月初めに次の滞在地である米国ノースカロライナ州立大学へ移動しました。ここでは主に局所循環の特性に関する研究を行いましたが、すぐに夏休みになってしまい、後半はコロラド州立大学で開催された国際会議に出席することを目的に、大陸ほぼ横断のドライブ旅行を楽しみました。約半年の海外滞在でしたが、電子メールが実用的に使えるようになっており、日本との連絡があまり苦勞なくできることに感激した反面、大学の仕事から逃れられない状況をちょっと残念に思ったこともありました。

さらに、2000年に沖縄で開催された先進7ヵ国+ロシアサミットの恩恵で、ハワイと沖縄の関係を復活させる小淵フェローシップが始まり、これにも最初に応募して採用されるという幸運に恵まれました。2001年の3月末、つまり2000年度最後にハワイへ行き、東西センターで2ヶ月だけ、環境と産業振興に関する研究を行いました。本当は1年間滞在できたのですが、その時ちょうど留学生の大学院生を抱えていたため、やむを得ず最短期間にしたことを今でも悔やんでいます。これらの欧米での海外経験は、専門知識、人脈、語学能力だけでなく、社会、経済、文化等を観る広い視点とその経験を与えてくれ、その後の留学生の受け入れや国際事業等において大いに役立ちました。

日本気象学会沖縄支部での活動は研究発表を中心に行なっていましたが、2008年の沖縄支部役員選挙の際、思いがけず理事にご推挙いただき、第19期の理事を務めることになりました。その後、第22期までの4期8年間に亘って、沖縄支部の理事を続けさせていただきました。理事として支部の研究発表会の担当を拝命しましたので、自分自身の研究発表だけでなく、主として琉球大学内に広く研究発表を呼びかけましたが、あまり成果はあげられませんでした。唯一の理事らしい仕事は、2011年度の研究発表会を2012年2月24日に琉球大学50周年記念会館で開催するように手配したことくらいです。

理事の職務ではないと思いますが、日本気象学会沖縄支部と沖縄気象台の共催で2009年2月4日に開催されたシンポジウム「豪雨・雷・竜巻等の激しい気象の実態に迫る」の一部として「現在・近未来の激しい気象の予測情報と現状で

可能な防災対応」というパネルディスカッションのコーディネータを務めました。当時は「激しい気象」に関する研究をほとんどしておりませんでしたので、このときの内容を今思い出すと汗顔の至りです。最近、気候変動に起因すると言われる集中豪雨による洪水被害や、異常高温、異常乾燥による山火事等の激しい気象のニュースを目の当たりにし、このシンポジウムを思い出すことがあります。沖縄県地球温暖化対策実行計画の策定の際に気候変動の影響に対する適応策を考えたとき、原点はこのシンポジウムにあったように思います。

顧みれば、このような役職や職務は、当時、沖縄支部の幹事をお務めであった裁吉信氏からのご推挙によるものと思われまます。その裁氏は大変残念なことに、2015年3月18日に若くして急逝されてしまいました。心からご冥福をお祈りいたします。

2019年1月12日に日本気象学会沖縄支部、沖縄気象台、沖縄県等の共催による防災・気候講演会「そのときはもう来ているのかもしれない～気候変動とそれに伴う気象災害に備えて～」において講演させていただきました。私の講演は、テレビのお天気キャスターで有名な気象予報士の森朗（もりあきら）氏による大変楽しいご講演の直後でしたので、非常にやりにくかったのですが、お陰様で重いテーマにも拘わらず馴染みやすい講演会になりました。数年前から気候変動適応九州・沖縄広域協議会のアドバイザー等を務めてきた関係から、気象台や日本気象学会が気候変動による影響を気象災害として正面から取り上げ、その適応策にまで踏み込んでいただいた意義は極めて大きいと思います。

多くの皆様に支えられて2020年3月末に、無事に26年半に亘る教員職を定年退職しましたが、現在（2021年11月）でも沖縄県等において主に環境関係の職務を続けさせていただいております。その中でも特に最近の気候危機は世界的な問題であり、気候変動の影響として現れる気象災害やそれに対する適応策は、脆弱な沖縄の環境においては特に、避けて通れない重要な課題と認識しております。このような状況に対して、今後ますます日本気象学会沖縄支部が注目され、活躍されることを祈念いたします。



(防災・気候講演会のポスター)



〔寄稿〕 台風・梅雨観測と気象学会沖縄支部の活動

山田 広幸（琉球大学理学部准教授）

1. はじめに

私が琉球大学理学部に着任したのは2012年8月です。台風や梅雨前線など、雲と降水を伴うメソスケール気象に興味を持ち、気象レーダーやラジオゾンデなどの観測手段を用いて、発達メカニズムに迫る研究を行っています。琉球大学への異動を決意したのは、南西諸島が台風や梅雨前線の現場観測に適しており、この分野の研究の最前線基地になり得るといふ思惑があったからです。この約9年間、全国の気象学者や気象庁職員と共同で観測研究を進めるとともに、東アジア各国の気象学者を集めた国際学会を開催し、沖縄と台湾で国際共同観測プロジェクトを実施する計画を進めるまでに至りました。

気象学会沖縄支部においては、防災気象講演会、離島お天気教室、子ども気象学士教室、気象サイエンスカフェ、研究発表会などを通じて、沖縄の地元の皆様や、学会員や気象庁職員の方々と多くの交流を持つ機会に恵まれました。これらの活動を少し振り返ってみたいと思います。



写真：第1回気象サイエンスカフェ那覇（2017年1月21日）

2. 台風観測

着任直後の2か月間は、台風が次々と沖縄本島に接近する特異な期間で、特に2012年台風第15～17号は強く印象に残りました。第15号は過去に例がない勢力で接近が予想されたもののそこまで強まらず、一方で第17号は沖縄本島で瞬間風速60 m/sを記録し被害をもたらすほどの勢力でした。第17号の接近時、

私は自宅のパソコンで気象庁糸数レーダーのドップラー速度データの分布をリアルタイムで監視していました。予報を上回る風が表示されるのを見て、気象レーダーが台風強度の監視と短時間の予報に役立つだろうと直感しました。このため、科学研究費助成事業（科研費）の助成を受けて、レーダーを用いた強度推定の手法の確立を目指しました。ここで共同した気象庁気象研究所の嶋田宇大さんは、この分野の第一人者に成長し、台風の強度変化に関する数多くの研究成果を創出しています。嶋田さんには2016年1月に沖縄気象台で行った台風強度解析・予報の勉強会の講師を務めて頂きました。

台風の観測については、名古屋大学の坪木和久さんとの連携も印象深いものがあります。名古屋大学は私の着任前から南西諸島での観測を独自に行っておりましたが、私の着任後に琉球大学の千原キャンパスに名古屋大学所有の X バンド偏波降雨レーダー、瀬底研究施設に Ka バンド偏波雲レーダーを設置するなど、共同した観測研究を進めてきました。2016年からは航空機を用いた台風観測を行うことになり、非常に強い勢力の2017年台風第21号の中心まで到達してドロップゾンデ観測を成功させるまでに至りました。実をいうとこの航空機観測では、当初は安全を優先して中心までは入らない計画でした。しかし、航空経路の決定を任された私は、操縦室にある航空機レーダーの画面をパイロットと見ながら、壁雲でも弱い降水域なら中心まで進入できるはずだと判断し、時間がないこともあってリーダーである坪木さんの了解を得る前に進路変更して進入してしまいました。報告しない部下の独断行動は、本来は処分の対象ですが、坪木さんは寛容な心で見守ってくれているようです。この観測プロジェクトは2回にわたる科研費の大型予算（基盤S）の支援を受け、現在はスーパー台風の強化過程を観測することが目標になっています。



写真：航空機観測で捉えた2017年台風第21号の目の様子（2017年10月21日）

3. 梅雨観測

集中豪雨が西日本で多発する梅雨末期の7月上旬、東シナ海で卓越する下層の湿潤な南西風は、梅雨前線へ水蒸気を運び、線状降水帯の発達・維持に関係します。この時期の琉球列島は、梅雨前線への水蒸気輸送過程を捉える重要な観測拠点になると私は考えています。この点で意見を共にする気象研究所の加藤輝之さんは、科研費を獲得して南西諸島の観測を強化する計画を立て、2014～15年に南大東島と奄美大島（名瀬）の高層観測の強化と、地上観測の整備を行いました。私は地上観測の担当でした。この事前説明のため、加藤さんと沖縄気象台防災調査課の国吉真昌さんと私で、各気象官署を巡りました。小型プロペラ機だけで離島を渡り歩くという、私にとって初めての経験でした。各地の現地職員との交流、特に夜の懇親会はとても楽しかったです。この科研費研究は3年間の限定でしたが、近年に梅雨期の豪雨災害が多発していることを受け、再び南西諸島で観測を強化する計画が持ち上がっています。また、沖縄の梅雨期である5～6月に、台湾と与那国島を対象として気象レーダーとラジオゾンデ観測を行う、日本・米国・台湾・韓国が参加する国際共同研究プロジェクト「PRECIP」の実施が計画されています。この観測を前に、2019年3月6～8日に、「東アジア域でのメソ対流系と顕著気象に関する国際会議」(ICMCS-XIII)を那覇市の沖縄県立博物館・美術館で開催し、東アジアの各国と米国からの研究者とともに梅雨・台風研究の最前線について語り合い、3月9日には特別観測の事前ワークショップ、翌日3月10日にはコアメンバーによる与那国島の視察も行いました。特別観測は2020年の実施予定でしたが、コロナウイルス感染拡大の影響で延期されているものの、近い将来に実施される見込みです。



写真：「東アジア域でのメソ対流系と顕著気象に関する国際会議」(ICMCS-XIII)の参加者（2019年3月6日）

4. 沖縄支部の活動など

沖縄支部内の気象に関する教育研究機関は琉球大学だけなので、支部活動への参加は必然的に多くなります。そのお陰で会員の大多数を占める気象庁職員の方々とは頻繁に顔を合わせる機会ができ、他の支部には真似できない程の親密な関係を構築できていると思います。防災気象講演会と離島お天気教室で訪れた与那国島、西表島、黒島、小浜島では、島ごと、集落ごとに防災に対する意識の違いがあることを実感するとともに、現地自治体の防災担当者の苦勞話を（主に夜の懇親会で）聞かせてもらう貴重な経験をさせていただきました。2017年から始めた気象サイエンスカフェでは、第1回目にNHK気象キャスターの斎藤綾乃さん、第5回目の2021年には那覇航空測候所の友利健さん、気象庁OBの島尻勝さん、気象予報士キャスターの井田寛子さんとともに気象・防災について楽しく語り合うことができました。気象学会のイベントに参加した琉球大学の学生には、気象庁職員と交流するのを契機に、気象庁への就職を目指して公務員試験に挑み、めでたく合格して気象庁で働いている人もいます。支部の活動を通じて人材の育成にもつながっているのではないかと考えています。また、2021年3月に琉球大学と沖縄気象台との間で包括連携協定を締結しましたが、この過程に沖縄支部の活動を通じたこれまでの連携が関係しているのは間違いのないと思っております。今後はこの協定を使っての人材育成も目指していきたいと思っております。

5. おわりに

琉球大学への着任当初の思惑であった、琉球列島を台風・梅雨前線の最前線基地と捉えた研究活動は、個人的には予想以上の発展を見せていると思います。東アジアの研究者とのつながりも深まり、琉球列島が日本の南西の端っこではなく、台風や梅雨にとって地理的に重要な地域であるとの認識を深めることになりました。また、着任当初は本土との地理的な距離もあって孤立することを懸念しましたが、沖縄支部の活動を通じた気象台職員の皆さんとの交流に加え、台風・梅雨の共同研究、2014年に台風シミュレーション・データ同化の専門家である伊藤耕介さんの琉球大学着任など、多くの人々との繋がりに恵まれ、当初の懸念は全く杞憂なものになりました。最近は遠隔会議の普及によって地理的な不利益を感じることはなく、むしろ忙しさに嬉しい悲鳴を上げることの方が多い今日この頃です。今後もこの調子で沖縄での気象研究を盛り上げていければと思います。



さて、今回の執筆にあたり、「日本気象学会沖縄支部30周年記念誌」をお送りいただきました。その中で、琉球大学で研究・教育に携わってこられた石島英先生は「沖縄支部学会活動をふりかえって」と題し、支部開設時からの様々なできごとについて書いておられます。支部開設間もない沖縄気象台では復帰後に百人近い職員を新規に採用しており、離島のへき地性もあって、研修の場をどう与えようかというのが問題であったところ、1974年と1975年にGARP(地球大気開発計画)の一環としてAMTEX(南西諸島周辺における気団変質観測計画)と呼ばれる一大観測プロジェクトの機会に恵まれました。この計画は、沖縄の様々な離島や船舶において、大規模な国際共同観測研究を実施するというもので、元気旺盛さとにぎやかなムードに満ちた様子が綴られています。国内外の著名な研究者たちと一丸となって、自分たちが住む南西諸島近海の気象場を明らかにするという絶好のチャンスに多くの職員や学生が刺激・啓発されたことは想像に難くありません。このほか、石島先生は1989年に沖縄で日本気象学会秋季大会が開かれたことやその後のシンポジウム、沖縄台風センター構想などについても書いておられます。

現代の我々は、そこからさらに20年がたち、様々な環境が変化したところに暮らしています。航空券も安価になり、コロナウィルスの影響もあって遠隔地のビデオミーティングも一気に普及しました。また、インターネットの発達により、詳細な気象データや高速な計算機に、世界中どこからでもアクセスできる時代となりました。沖縄と本州のみならず、沖縄と諸外国の垣根もだいぶ低くなり、南西諸島における大気現象の理解も大幅に進歩しています。防災・減災の面からすると、地球温暖化に代表される災害の激甚化に対する懸念などから、日本気象学会沖縄支部が担うべき一般社会への普及・啓発や会員各自の研究・研鑽という役割はその重要性を増しており、沖縄支部でも多種多様な事業が計画・実施されています。

さらに欲を言えば、気象台職員と研究者とのあいだで、AMTEXのときのような観測プロジェクトなどが、気象学会の枠組みできないものだろうか、ということも感じます。そのようなことが実現できれば、特に、若くて元気な皆さんを有機的に結び付け、将来に大きな種をまくことになるからです。ただし、沖縄支部を含めた日本気象学会の会員数は長期間で見ると減少傾向にあり、多くの方が業務過多となっている現状にあっては、新しい事業を行うのは容易なことではありません。個人的には、世の中がもっと「ゆるく」なり、業務を離れた気象学も十分に楽しむ余裕があった方が新しい考えや発見につながると思うのですが。

総じていうと、支部の活動は、会員個人々人にとって、趣味と実益を兼ねたある種の清涼剤として機能するのが望ましいと考えています。個人としても、微力ながら、支部活動を通じて様々なことに貢献していければと思います。



〔寄稿〕 沖縄支部活動の思い出

田村 弘人（那覇航空測候所観測管理官）

沖縄支部幹事を引き継ぐ時には、歴代幹事の頑張りがあった支活動は活気があった。平成27年度から3年間、ほとんどの事業に主に裏方として関わったが、新しく始めた事業もあり結構忙しかった。しかし、狭い執務室を出て本業とは違った活動ができたことや、活動を通して様々な方と出会えることもあり楽しくやっていた。ここでは特に印象が残っている活動をいくつか振り返りたい。

まずは、気象サイエンスカフェの沖縄初開催である。支部長からそろそろ沖縄でも始めようかの一言から検討は始まったが、もちろんノウハウはなかった。ネットで調べ、それなりの知識を得たが、これだけでは開催は無理なので、どなたかの「北海道の気象サイエンスカフェがいいらしいよ」という話を頼りに取り寄せた北海道支部の資料を基に、スタッフで様々な検討を行い準備した。参加者集めは、周知が広がらず苦労したが、前日には参加定員が埋まり、当日にも飛び入りの申し込みがあって、何とか成功した。

記念の第一回は、ゲストに支部理事の山田広幸琉球大学准教授を迎え、NHKの斎藤綾乃気象キャスターの進行で始まった。講演会とは違ってゲストと参加者との距離が近く、リラックスした雰囲気もあって参加者から多くの質問があった。また、コーヒータイムの最中にも気軽に質疑応答が交わされる様子を見ると、気象の知識普及のための手段として新鮮で、来年も是非やりたいと思えた。



次に、独自事業の離島お天気教室である。沖縄本島周辺離島では実施できずにいたところ、知り合いの伊是名小学校教諭を頼り3年ぶりの開催に漕ぎつけた。私以外に3名を選抜する際、学会の活動を知るせっかくの機会なので琉球大学の学生会員を誘った。実験機材をびっしり詰めたワンボックスカーで朝早く出発し、旅行気分ですてん港までドライブ後、フェリーで伊是名島へ向かった。

伊是名小学校では5、6年生対象に単元に沿った「天気の変化」の解説と気象実験の予定だったが、気象実験の際に他の学年や幼稚園から参加の申し出があり総勢80名の全校生徒が対象になった。実験機材が6種類あるため急きょ教諭方に協力いただいたが、長丁場は逃れられず最後はへトへトになった。理科の教諭から「来年の予約は可能か」との質問や、見学された伊是名中学校の校長先生からは、次回行う場合は中学校も合わせる形で行ってほしいとの要望をいただく等、子供たちの笑顔を含め達成感ある活動だった。



離島お天気教室（平成27年）

最後は離島防災気象講演会である。地方気象台が離島お天気教室にあわせて行う業務だが、地方気象台としては目新しい講師が欲しい、沖縄支部としては気象学会をアピールしたい思いが合致し、講師を支部から派遣し共催することになった。あわせて、地方気象台での講演も依頼された。講師は、ともに支部理事、琉球大学准教授である山田広幸及び伊藤耕介氏をローテーションさせていた。

おおまかな旅程はこうである。1日目は、午前現地到着後、離島お天気教室の荷物搬入及び会場下見、午後は防災気象講演会の会場準備、夜に防災気象講演会を行い、その後慰労会で終了。2日目は、午前離島お天気教室、移動して午後は地方気象台で職員相手に講演、その後帰路に就くため帰宅は遅い時間になった。私は弾丸ツアーと呼んでいた。支部理事は2回の講演以外にも一作業員として活動するので一番重労働だったと思うが、常に快く引き受けてくれた。

訪れた場所は与那国島（3回）、西表島、黒島で、最初の与那国を訪れたときは、日最大瞬間風速81.1m/sを記録した台風第21号の接近から約2か月後であった。至る所で台風の傷跡が残る状況の中、第21号含め台風に関する講演ができたことは良かったし、真剣に聴講する参加者の姿は印象に残っている。



離島防災気象講演会（平成27年）



〔寄稿〕 支部研究発表会を振り返って

国吉 真昌（沖縄気象台防災調査課長）

沖縄支部の研究発表会は、長く沖縄気象台もしくは琉球大学で開催されてきた。そこで、平成 23、24 年度に支部長をされていた横山辰夫氏（沖縄気象台長；当時）が支部活動の活性化を図る目的から、支部会員が所属していた NICT（国立研究開発法人 情報通信研究機構 沖縄電磁波技術センター）を会場としてバスツアーと施設見学も同時に行うという新たな試みを提案し、平成 24 年度からこのツアーが始まった。これを皮切りに、OIST（沖縄科学技術大学院大学）や GODAC（国際海洋環境情報センター）という関係機関での研究発表会の開催が続いた。

この取り組みにより、それまで気象台職員や琉球大学の先生方に偏りがちであった発表者についても、各施設関係者や琉球大学並びに球陽高校などの学生へと広がっていくなどさまざまな好循環があった（下右写真）。



写真：沖縄気象台庁舎前に横付けされた
研究発表会ツアー用のバス（平成
24年度）



写真：研究発表会で発表する球陽高校の
生徒たち（平成25年度）

平成 24 年度の支部研究発表会は、NICT 手前の狭い農道を如何にして大型バスを通過させるかに苦労した記憶が残っている（上左写真：このときに用意したバス）。ドライバーの絶妙なハンドリングでどうにか到着させることができた。また、NICT の沖縄電磁波技術センターは町外れにあるため、昼食を採る場所の確保や弁当の手配にも困っていたが、事前に NICT に相談したところ、快く準備に対応していただき、参加者は無事昼食に有り付くことができた。

平成 25 年度の支部研究発表会は、OIST のご厚意で、150 名収容のセミナー
ルームをゆったりと使用して開催することができた（下写真）。昼休みの時間帯
は、OIST 関係者にセミナールームを開放することを条件に借りていたので、昼
休みには関係者（外国人）が楽器のセッションをするなど、思い思いの時間を過
ごしており、日本で開催しているとは思えない光景を見ることもできた。



写真：研究発表会の会場として使用した150名収容のセミナー
ルーム（平成25年度；沖縄科学技術大学院大学）

平成 26 年度の支部研究発表会
は、再び NICT にお世話になった
が、今度は 24 年度に使用した農道
を農作業車が塞いでいたため、ま
たしても会場の到着まで難を要し
た。この年は、沖縄電磁波技術セン
ター内にあるフェーズドアレイレ
ーダーの見学会も設定し、NICT 職
員のご案内で塔の上部まで登り間
近で機器を見て説明を受けること
ができるなど充実した内容になっ
た（右写真）。



写真：フェーズドアレイレーダーの見学
（平成26年度；沖縄電磁波技術センター）

平成 27 年度の支部研究発表会からは事務局を後任者に引き継いだ
が、その年に OIST で開催された際は、当時大学生だった娘と一緒に参加したことも良い
思い出となっている。

この場を借りて、これまで支部研究会の開催にご協力いただいた関係機関の
すべての皆様に感謝申し上げます。



〔寄稿〕 日本気象学会沖縄支部設立 50 周年に寄せて

島尻 勝（気象台 OB、気象予報士）

日本気象学会沖縄支部の設立 50 周年おめでとうございます。当支部は沖縄が本土に復帰した年に設立されたので、もう 50 年ですか。早いですね。

私が気象学会に関わったのは、大学生の頃、気象専門の中村功先生のゼミをとっていたので、卒業研究の発表代わりに気象学会で発表したのが最初です。45 年前です。卒業するのがやっとの学生でしたから、中村先生には本当にお世話になりました。最初勤務した石垣島地方気象台の頃は、学会の調査研究とは無縁でした。しかし、宮古島地方気象台で勤務して、気象大学校出身の三上正男さんとの出会いから刺激をもらい、学会の調査研究に毎年投稿するようになりました。いま振り返っても、よく学び、よく遊んでいました。また、当時から、気象学会に投稿する方が少ないので、調査研究の数を増やそうと、みんなに調査研究をアピールしました。

ところが、沖縄気象台予報課で防災業務を担当するようになってからは、防災への関わりが多くなり、その後は調査研究には疎くなってしまいました。2010 年度から 2012 年度に気象学会沖縄支部の監事をやらせていただきましたが、調査研究には投稿できませんでした。沖縄支部の調査研究の投稿量が増えたのは、やっぱり裁吉信さん（沖縄気象台予報課予報官；当時）の功績が大きいです。同時に調査研究のレベルも高くなりました。感謝です。もう一つ嬉しいのは、琉球大学に山田先生と伊藤先生が赴任して、熱意を持った大学生の学会発表の参加が増えたことです。今後も、継続的に参加していただけることを願っています。



写真：琉球大学の学生を含む学会員による研究発表会の様子（平成28年度）

ここから、研究発表会に対し2つ要望します。沖縄管内の気象台では、2009年度から気象台職員のみでの調査研究発表を行い、その中からレベルの高い(?)、注目される(?) 調査研究を沖縄支部で発表する形式にしています。特に異論がある訳ではありません。ただ、気象台職員のみで発表した調査研究はどのようなテーマだったのか、部外者にも興味があります。これから県内の気象予報士も増えてくる筈です。せっきくの調査研究なので部外者にも閲覧できるようにしていただくとありがたいです。そしてできれば統一して、予稿集のような形式にしてくださいと読みやすいです。

もう一つの要望ですが、沖縄支部気象学会の研究発表会は、気象学会に入会していない気象予報士や気象に興味のある一般の方にとっても興味のある発表会だと思いますので、マスコミに積極的に広報して、学会員でなくても聴講できるような形にしては如何でしょうか。機会をとらえて気象学会沖縄支部の活動を社会に広報することも大事だと思います。

以上です。沖縄支部は他の支部と違って少人数の支部ですが、これまで活発に活動しています。これからもさらなる活動の継続に向けて頑張ってください。



資 料

日本気象学会沖縄支部事業等概要

日本気象学会沖縄支部会員数

例会（気象研究会）開催日・場所と所属別投稿数

防災気象講演会

その他事業等

日本気象学会沖縄支部財政

日本気象学会沖縄支部役員

例会予稿集項目一覧

日本気象学会沖縄支部 事業等概要

年度	会員数	総会	例会 (研究会)			防災気象講演会			天気教室		その他	備考	支部長		
			月日	場所	題数	月日	場所	人数	月日	場所					
1972 (昭和47)	40		2.28~3.1*	那覇	15						2.28* 2.28*	沖縄支部発会式 特別講演		山本	
1973 (昭和48)	59		3.14*	那覇	16						2.24~3.3*	アムテックス関係特別講演会		〃	
1974 (昭和49)	94				15									〃	
1975 (昭和50)			3.10*	那覇	14						10.27	地球科学に関する座談会		〃	
1976 (昭和51)	104		3.10~11*	宮古	22									内川	
1977 (昭和52)			3.10~11*	那覇	21									〃	
1978 (昭和53)	116		2.28~3.1*	石垣	18						11.30	座談会	奨励金：伊豆味正吉・春日信	森安	
1979 (昭和54)			2.27~28*	那覇	24									〃	
1980 (昭和55)	149		2.26~27*	宮古	29									〃	
1981 (昭和56)			2.25~26*	那覇	25	8.27	那覇	300			8.28	講演会	防災講演会共催開始	高良	
1982 (昭和57)	159		2.24~26*	石垣	37	6.10	那覇	250			6.11	講演会		〃	
1983 (昭和58)			2.15~16*	那覇	41	6.7	那覇	200			6.8	講演会		浅田	
1984 (昭和59)	159		2.26~27*	宮古	36	6.15	那覇	230			10.29	講演会		〃	
1985 (昭和60)			2.27~28*	那覇	40	6.14	那覇				1.27*	講演会		〃	
1986 (昭和61)	151		1.28~29*	石垣	49	6.26	那覇							山崎	
1987 (昭和62)			2.25~26*	那覇	44	6.26	那覇							〃	
1988 (昭和63)	147	7.28	2.27~28*	宮古	52	6.29	那覇	180					奨励金：銘苺真正・金城勝重	新田	
1989 (平成1)	162	7.26	2.22~23*	那覇	41	7.12	那覇				11.7~9	気象学会秋季大会	奨励金：西銘宜正	〃	
1990 (平成2)	174	7.30	2.21~22*	石垣	45	7.24	那覇	115						高谷	
1991 (平成3)		7.31	2.27~28*	那覇	52	12.3	那覇	138						小野	
1992 (平成4)	167	9.16	2.24~25*	宮古	63	9.22	那覇	110						〃	
1993 (平成5)		8.23	3.8~9*	那覇	39	8.2	名護	79						野瀬	
1994 (平成6)	166	8.17	3.9~10*	石垣	47	7.14	具志川								櫃間
						8.23	那覇								
1995 (平成7)		8.18	3.6~7*	那覇	38	7.28	那覇							〃	
1996 (平成8)	161	9.6	10.29~30	宮古	36	10.4	那覇				10.30	シンポジウム(宮古)		椎野	
1997 (平成9)	161	8.29	10.27~28	那覇	40	7.31	名護	150	7.31	名護	10.28	シンポジウム(那覇)	天気教室共催開始	〃	
						8.1	那覇		8.1	那覇					
1998 (平成10)		8.28	11.5~6	石垣	44	8.1	宜野湾	115	8.1	宜野湾	11.6	シンポジウム(石垣)		内池	
1999 (平成11)	148		11.10~11	那覇	40	9.7	那覇	180	7.31	糸満				〃	
2000 (平成12)	145	7.27	11.9~10	宮古	40	9.21	那覇	230	7.29	沖縄				春日	
2001 (平成13)	142	7.19	11.8~9	那覇	33	8.10	那覇	175	8.10	那覇			天気教室、天気フェアと同時	〃	

年度	会員数	総会	例会 (研究会)			防災気象講演会			天気教室		その他	備考	支部長	
			月日	場所	題数	月日	場所	人数	月日	場所				
2002 (平成14)		7.23	11.13~14	石垣	33	1.20*	那覇	119	7.27	嘉手納			白木	
2003 (平成15)		6.27	11.13~14	那覇	33	7.14	名護	143	7.31	名護			澤田	
2004 (平成16)	119	7.13	11.25~26	宮古	25	7.13	豊見城	-	8.3	豊見城			竹内	
2005 (平成17)	105	7.5	11.24~25	那覇	29	2.22*	那覇	352	7.22	浦添			佐伯	
2006 (平成18)	89	6.20	11.21~22	石垣	24	1.19*	那覇	320	8.15	糸満			〃	
2007 (平成19)	83	6.19	11.29~30	那覇	24	1.15*	那覇	380	8.10	沖縄市			伊藤	
2008 (平成20)	85	6.25	11.27~28	宮古	28	1.20*	那覇	290	8.22	那覇	2.4*	シンポジウム	離島お天気教室開催3校	鉢嶺
2009 (平成21)	84	6.30	3.9*	琉大	6	1.21*	那覇	210	中止	中止			例会講演2、発表6、ポスター6 お天気教室台風接近により中止	加納
2010 (平成22)	78	6.29	3.25*	那覇	7	1.18*	那覇	266	8.20	大里	8.4	子供向けワークショップ	離島お天気教室開催10校	栗原
2011 (平成23)	74	6.29	2.24*	琉大	8	1.24*	那覇	363	7.20	宜野湾			離島お天気教室開催3校 台風ワークショップ	横山
2012 (平成24)	75	6.26	2.19*	NICT	5	3.18*	那覇	307	8.10	南風原			離島お天気教室開催6校	〃
2013 (平成25)	65	6.17	3.4*	OIST	9	1.16*	那覇	308	8.2	沖縄市	3.4*	OIST施設見学	離島お天気教室開催3校	北村
2014 (平成26)	71	6.18	3.9*	NICT	9	1.24*	那覇	223	8.6	豊見城	8.11~15 3.9*	子ども気象学士 NICT施設見学	離島お天気教室開催1校	赤枝
2015 (平成27)	64	6.24	3.9*	OIST	10	11.25 1.15*	与那国 西原	26	8.13	沖縄市	8.10~12	子ども気象学士	離島お天気教室開催4校	横山
2016 (平成28)	62	6.17	3.2*	GODAC	8	10.13 11.10 1.25*	与那国 竹富 那覇	30 30 160	8.10	那覇	8.3~5 1.21* 3.2*	子ども気象学士 サイエンスカフェ GODAC施設見学	離島お天気教室開催3校	大島
2017 (平成29)	62	6.14	3.7*	NICT	13	7.12 11.10 1.23*	竹富 与那国 浦添	20 20 130	8.2	西原	8.7~9 9.9 12.16 3.2* 3.7*	子ども気象学士 サイエンスカフェ 凌風丸見学 気象講演会 NICT施設見学	離島お天気教室開催4校	矢野
2018 (平成30)	61	6.28	2.28*	琉大	15	9.11 1.12*	波照間 那覇	27 160	7.27	宜野湾	8.1~3 12.15	子ども気象学士 サイエンスカフェ	離島お天気教室開催3校	〃
2019 (令和1)	56	6.20	2.27*	OIST	12	12.12 1.11* 19*	北大東 那覇 竹富	23 170 10	8.20	豊見城	7.31~8.2 2.1*	子ども気象学士 サイエンスカフェ	離島お天気教室開催2校	葦澤
2020 (令和2)	58	10.21	2.24*	オンライン	14	1.12*	オンライン	—	中止	—	2.6*	サイエンスカフェ	防災気象講演会YouTube配信	吉田
2021 (令和3)	63	8.18	2.24*	オンライン	12	3.13*	オンライン	—	8.13	那覇	8.13	子供向け気象台オンラインツアー	離島お天気教室開催1校	多田

(注)・開催日の「*」は、各年度の年明け以降に開催したものの。

・2021年度は2022年1月末時点の実施状況を記載。2月以降のスケジュールは予定。

日本気象学会沖縄支部会員数

年度	気象台									教育・研究等機関			その他	計	備考
	沖台	那航	南大東	宮古島	石垣島	名護	久米島	西表島	与那国島	琉大	協会	電波			
1972 (昭和47)	15	6	1	3	7	1	0	0	0	5	0	0	2	40	
1973 (昭和48)	26	8	4	3	11	1	0	0	0	5	0	0	1	59	
1974 (昭和49)	32	16	0	9	16	1	0	0	3	5	1	0	3	86	
1975 (昭和50)															不明
1976 (昭和51)	39	19	5	8	15	1	1	2	4	5	0	0	5	104	
1977 (昭和52)															不明
1978 (昭和53)	37	26	8	13	20	1	1	0	2	4	1	0	3	116	
1979 (昭和54)															不明
1980 (昭和55)	43	26	16	20	26	1	2	0	3	4	1	0	7	149	
1981 (昭和56)															不明
1982 (昭和57)	50	24	11	22	27	1	2	2	7	4	1	0	8	159	
1983 (昭和58)															不明
1984 (昭和59)	52	24	11	27	24	0	0	1	7	2	0	0	11	159	
1985 (昭和60)															不明
1986 (昭和61)	54	23	14	20	22	1	0	0	7	2	1	0	7	151	
1987 (昭和62)															不明
1988 (昭和63)	52	25	7	22	25	1	3	0	6	2	1	0	3	147	
1989 (平成1)	55	25	8	21	34	1	3	1	7	3	1	0	3	162	
1990 (平成2)	62	21	17	21	31	2	3	1	5	3	0	1	7	174	
1991 (平成3)															不明
1992 (平成4)	56	25	13	25	22	2	3	1	7	3	0	2	8	167	
1993 (平成5)															不明
1994 (平成6)	59	22	14	21	20	3	2	3	5	4	0	1	11	165	
1995 (平成7)															不明
1996 (平成8)	57	20	14	19	22	1	4	0	3	4	0	0	16	160	
1997 (平成9)	59	20	6	18	19	1	4	0	5	4	0	0	15	151	
1998 (平成10)	55	18	7	18	18	0	5	0	6						気象台以外の会員数不明
1999 (平成11)	55	22	12	17	11	1	5	0	8	5	2	2	8	148	
2000 (平成12)	54	20	13	19	11	1	4	1	6	6	2	2	6	145	

年度	気象台									教育・研究等機関			その他	計	備考
	沖台	那航	南大東	宮古島	石垣島	名護	久米島	西表島	与那国島	琉大	協会	電波			
2001 (平成13)	53	19	11	16	13	1	5	1	4	6	4	2	7	142	
2002 (平成14)						平14.3●		平14.3●						135	機関、官署別会員数不明
2003 (平成15)														128	機関、官署別会員数不明
2004 (平成16)	41	13	9	11	16		1 平16.10●		2				# 26	119	気象台以外の会員数集約
2005 (平成17)														105	機関、官署別会員数不明
2006 (平成18)									平18.3◆					89	機関、官署別会員数不明
2007 (平成19)														83	機関、官署別会員数不明
2008 (平成20)	36	11	2	9	8		1		平20.10●				# 18	85	
2009 (平成21)	*62						平21.12◆						# 22	84	
2010 (平成22)	32	7	2	8	10								# 18	77	
2011 (平成23)	*57												# 17	74	
2012 (平成24)	34	4	2	7	7								# 18	72	
2013 (平成25)	24	9	4	7	8								# 24	76	
2014 (平成26)	*51												# 20	71	
2015 (平成27)	*43												# 21	64	
2016 (平成28)	*42												# 20	62	
2017 (平成29)	*40												# 22	62	
2018 (平成30)	*43												# 18	61	
2019 (令和1)	*38												# 18	56	
2020 (令和2)	*38												# 20	58	
2021 (令和3)	*42												#22	64	

(注) ・何れの数字も年度末時点（機関紙「天気」、支部だより、理事会・総会資料等により把握）。

・1995年度までは資料を確認できない年がある。

・1998年度は気象台以外の会員数を確認できないため、総数に反映されていない可能性あり。

・2002年度、2003年度、2005年度から2007年度は支部会員総数のみ把握。機関および気象台官署別の人数は不明。

・2004年度以降の「その他」の「#」印は気象台以外の会員数を集約した数字。

・2009年度以降の沖縄気象台（沖台）の人数の「*」印は管内官署分の合計で把握しているもの。各官署の人数を確認できる年はそれぞれ記載。

・●：沖縄管内の測候所廃止、◆：沖縄管内の空港出張所廃止。

例会（気象研究会）開催日・開催場所と所属別投稿数

号	開催年度・月日		開催場所		気象台								琉大	その他	発表件数 (機関計)	備考	
					沖台	那航	南大東島	宮古島	石垣島	名護	久米島	西表島					与那国島
1	1972 (昭和47)	2.28~3.1*	那覇	婦連会館	7		1	2	2					3		15(〃)	支部発足会、特別講演
2	1973 (昭和48)	3.14*	那覇	中小企業中央会館	8	1	2	2	1					2		16(〃)	
3	1974 (昭和49)				4	1	1	6	3							15(〃)	
4	1975 (昭和50)	3.10*	那覇	気象台会議室	4	2		2	2				1	3		14(〃)	
5	1976 (昭和51)	3.10~11*	宮古	気象台会議室	4	2		9	3				1	3		22(〃)	
6	1977 (昭和52)	3.10~11*	那覇	気象台会議室	6	2	2	3	3				1	3	1	21(〃)	
7	1978 (昭和53)	2.28~3.1*	石垣	八重山職員会館	5	4	1	3	6		1		2	2		24(〃)	
8	1979 (昭和54)	2.27~28*	那覇	気象台会議室	5	5	1	5	5					3		24(〃)	
9	1980 (昭和55)	2.26~27*	宮古	気象台会議室	9	4	2	7	5					2		29(〃)	
10	1981 (昭和56)	2.25~26*	那覇	気象台会議室	11	4	1	5	3					1		25(〃)	特別講演：野本真一
11	1982 (昭和57)	2.24~26*	石垣	八重山職員会館	12	2	3	6	8				1	5		37(〃)	特別講演：高良初喜
12	1983 (昭和58)	2.15~16*	那覇	気象台会議室	13	2	5	6	7				3	5		41(〃)	
13	1984 (昭和59)	2.26~27*	宮古	気象台会議室	14	3	5	6	3				1	4		36(〃)	特別講演：石島 英
14	1985 (昭和60)	2.27~28*	那覇	気象台会議室	21	1	5	5	5					3		40(〃)	
15	1986 (昭和61)	1.28~29*	石垣	八重山職員会館	18	5	8	3	4				5	6		49(〃)	
16	1987 (昭和62)	2.25~26*	那覇	気象台会議室	20	5	3	3	6				3	4		44(〃)	
17	1988 (昭和63)	2.27~28*	宮古	気象台会議室	16	6	8	7	5		1	1	4	4		52(〃)	
18	1989 (平成1)	2.22~23*	那覇	気象台会議室	18	6	2	8	5				1	1		41(〃)	
19	1990 (平成2)	2.21~22*	石垣	八重山職員会館	17	3	2	10	5				5	3		45(〃)	
20	1991 (平成3)	2.27~28*	那覇	合同庁舎会議室	26	4	2	8	5		1		2	4		52(〃)	
21	1992 (平成4)	2.24~25*	宮古	気象台会議室	29	3	3	11	11				3	3		63(〃)	
22	1993 (平成5)	3.8~9*	那覇	気象台会議室	7	5	3	8	9				4	3		39(〃)	代理発表廃止：ポスター
23	1994 (平成6)	3.9~10*	石垣	市立図書館	11	1	6	9	10				4	6		47(〃)	
24	1995 (平成7)	3.6~7*	那覇	合同庁舎会議室	12	6	4	4	6					6		38(〃)	
1995年度まで各年度の翌年に開催																	
1996年度から2008年度まで沖縄気象台と共催																	
25	1996 (平成8)	10.29~30	宮古	アートエメラルド宮古島	12	6	4	6	5					3		36(〃)	同時：シンポジウム
26	1997 (平成9)	10.27~28	那覇	県女性総合センター	13	11	4	4	3				1	4		40(〃)	同時：シンポジウム
27	1998 (平成10)	11.5~6	石垣	ホテル日航八重山	15	8	4	6	9				1	1		44(〃)	同時：シンポジウム
28	1999 (平成11)	11.10~11	那覇	気象台会議室	14	6	6	5	5					4		40(〃)	
29	2000 (平成12)	11.9~10	宮古	気象台会議室	11	6	3	9	6	1			1	3		40(〃)	

号	開催年度・月日		開催場所		気象台							琉大	その他	発表件数 (機関計)	備考		
					沖台	那航	南大東島	宮古島	石垣島	名護	久米島					西表島	与那国島
30	2001 (平成13)	11.8~9	那覇	合同庁舎会議室	9	5	3	6	7				2	1		33(〃)	
31	2002 (平成14)	11.13~14	石垣	大濱信泉記念館	11	6	2	6	6				2			33(〃)	
32	2003 (平成15)	11.13~14	那覇	気象台会議室	9	5	5	6	5		2			1		33(〃)	
33	2004 (平成16)	11.25~26	宮古	気象台会議室	7	3	4	4	3		1		1	3	1	25(27)	共同2件
34	2005 (平成17)	11.24~25	那覇	合同庁舎会議室	9	3	2	3	4		1			7	1	29(30)	共同1件
35	2006 (平成18)	11.21~22	石垣	大濱信泉記念館	15	2	3	4	2		2		1	1		24(30)	共同5件(3機関以上1件)
36	2007 (平成19)	11.29~30	那覇	合同庁舎会議室	8	4	4	7	3		1		1	6	4	24(38)	共同10件(3機関以上4件)
37	2008 (平成20)	11.27~28	宮古	気象台会議室	11	7	3	7	3		1			3	3	28(38)	共同9件(3機関以上3件)
2008年度まで沖縄気象台と共催 2009年度以降沖縄支部単独開催																	
	2009 (平成21)	3.9*	西原	琉球大学	4			1	1					2		6(8)	講演2件、ポスター6件、共同2件
	2010 (平成22)	3.25*	那覇	気象台会議室	3									2	6	7(11)	共同1件(3機関以上1件)
	2011 (平成23)	2.24*	西原	琉球大学	4									3	1	8(〃)	
	2012 (平成24)	2.19*	恩納	NICT	2	1								1	3	5(7)	講演1件、共同1件(3機関以上1件)
	2013 (平成25)	3.4*	恩納	OIST	2									6	3	9(11)	共同2件
	2014 (平成26)	3.9*	恩納	NICT	3									4	7	9(14)	共同4件(3機関以上1件)
	2015 (平成27)	3.9*	恩納	OIST	1									6	3	10(〃)	
	2016 (平成28)	3.2*	名護	GODAC	1									6	6	8(13)	講演1件、共同1件(3機関以上1件)
	2017 (平成29)	3.7*	恩納	NICT	2		1		1					8	5	13(17)	共同3件
	2018 (平成30)	2.28*	西原	琉球大学	4	1								8	4	15(17)	共同2件
	2019 (令和1)	2.27*	発表会中止		2	1								8	1	12(〃)	
	2020 (令和2)	2.24*	オンライン		2									12		14(〃)	
	2021 (令和3)	2.24*	オンライン		1									11		12(〃)	2022年1月末時点の予定

- (注) ・1996年度から2008年度は沖縄気象台と共催。2009年度以降は学会単独開催。
・1995年度まで及び2009年度以降の開催日の「*」は、各年度の年明け以降に開催したもの。
・空港出張所・分室の分は親官署分に含む。
・閉鎖 2002.3：名護・西表島測候所、2004.10：久米島測候所、2006.3：与那国空港出張所、2008.10：与那国測候所、2009.12：久米島空港出張所
・発表件数(機関計)の「機関計」は、共同発表がある場合(備考に記載)の関係機関数の合計(=各欄の数字の合計)。

防災気象講演会

実施年度・月日	開催地・会場	参加数	講演		映画・ビデオ	備考		
			演題	講演者				
1980 (昭和55)	8.27	那覇	ゆうな荘	230	・沖縄の干ばつ ・台風予想の現状	城間 理夫 (琉球大学) 野本 真一 (沖縄気象台)	・宇宙の気象台"ひまわり" ・気象観測船同乗記	
1981 (昭和56)	8.27	那覇	ゆうな荘	300	・沖縄と台風 ・台風と災害	鈴木 義男 (沖縄気象台) 倉島 厚 (気象庁)	・台風	学会との共催開始
1982 (昭和57)	6.10	那覇	ゆうな荘	250	・近年における沖縄の台風 ・気候変動と渇水	鈴木 義男 (沖縄気象台) 朝倉 正 (気象庁)	・地震とエネルギー	
1983 (昭和58)	6.7	那覇	ゆうな荘	200	・台風予報 (沖縄の役割) ・台風情報の有効利用	藤井 久治郎 (沖縄気象台) 立平 良三 (福岡管区気象台)	・台風	
1984 (昭和59)	6.15	那覇	ゆうな荘	230	・去年の台風10号 ・沖縄の地震と津波	藤井 久治郎 (沖縄気象台) 木村 政昭 (琉球大学)	・天気予報は今 ・地震の知識と対策	
1985 (昭和60)	6.14	那覇	ゆうな荘		・台風情報の上手な利用 ・今日的な防災意識について	仲吉 良好 (沖縄気象台) 石島 英 (琉球大学)	・情報を正しく伝える ・大地震マグニチュード7の証言	
1986 (昭和61)	6.26	那覇	ゆうな荘		・台風進路予報と情報 ・農業災害と気象	仲吉 良好 (沖縄気象台) 城間 理夫 (琉球大学)	・天気の変化「台風」 ・気象衛星から見る四季の天気	
1987 (昭和62)	6.26	那覇	ゆうな荘		・台風予報と情報 一台風8613号 ・防災行政の現状	仲吉 良好 (沖縄気象台) 島袋 春夫 (沖縄県)	・土砂災害 ・雨や雪のでき方	
1988 (昭和63)	6.29	那覇	パシフィックホテル	180	・台風を追って ・地震と津波 一いまむかし	仲吉 良好 (沖縄気象台) 長田 正 (沖縄気象台)	・異常気象	
1989 (平成1)	7.12	那覇	パシフィックホテル		・気象・予警報 ・地震津波情報 ・水資源としての気象	大城 繁三 (沖縄気象台) 平良 進 (沖縄気象台) 宮沢 清治 (日本気象協会)	・ゆるる大地	
1990 (平成2)	7.24	那覇	第一地方合同庁舎	115	・沖縄の建築物における防災の手法 ・波浪予報の実際 ・沖縄の竜巻	森田 大 (琉球大学) 大城 繁三 (沖縄気象台) 平良 進 (沖縄気象台)	・日本の気候	
1991 (平成3)	12.3	那覇	第一地方合同庁舎	138	・航空機の台風避難対策 ・近年の台風の特徴 ・地震と津波	角田 昌男 (南西航空) 小禄 昌男 (沖縄気象台) 松島 寛 (沖縄気象台)	・地震に備えて	
1992 (平成4)	9.22	那覇	第一地方合同庁舎	110	・船舶の台風対策 ・台風情報とその利用	後藤 義文 (第十一管区海上保安本部) 恩納 則光 (沖縄気象台)		同時： 測器展示
1993 (平成5)	8.2	名護	市民ホール	79	・大雨と雷の知識と対策 ・地震津波の災害と防災	城戸 邦夫 (日本気象協会) 渡久地 尚 (沖縄気象台)	・揺れ動く大地	

(防災気象講演会：続き)

実施年度・月日	開催地・会場		参加数	講演		映画・ビデオ	備考	
				演題	講演者			
1994 (平成6)	7.14	具志川	農業観光センター		・近年久米島における自然災害 ・近年の台風災害と防災	上江洲 勝志 (久米島消防本部) 恩納 則光 (沖縄気象台)	・北太平洋の低気圧2 (台風)	
	8.23	那覇	第一地方合同庁舎		・沖縄農業と気象災害 ・台風と航空機の安全	安谷屋 隆志 (沖縄総合事務局) 小禄 昌男 (那覇航空測候所)	・気候とその変動	
1995 (平成7)	7.28	那覇	第一地方合同庁舎		・鉄筋コンクリート建造物の震害と ・耐震設計	渡久地 尚 (沖縄気象台) 森下 陽一 (琉球大学)		同時： 気象フェア
1996 (平成8)	10.4	那覇	ゆうな荘		・明治にもあった大地震 ・国が取組む地震・津波監視システム ・国が取組む地震・津波防災対策	加藤 祐三 (琉球大学) 屋良 善福 (沖縄気象台) 稲嶺 勇 (沖縄県)		
1997 (平成9)	7.31	名護	名護市民会館	両計 150	・風の脅威 ・津波災害に備える	椎野 純一 (沖縄気象台) 横山 博文 (沖縄気象台)		
	8.1	那覇	県女性総合センター		・オゾンと有害紫外線 ・紫外線と人間の皮膚 ・津波災害に備える	真栄田 潔志 (沖縄気象台) 高宮城 敦 (琉球大学) 横山 博文 (沖縄気象台)		
1998 (平成10)	8.1	宜野湾	中央公民館	115	・津波災害に備える ・異常気象・災害時の緊急報道の現状とその利用	横山 博文 (沖縄気象台) 樋口 昌之 (NHK沖縄放送局)		
1999 (平成11)	9.7	那覇	沖縄県庁講堂	182	・県内の土砂崩れ・山崩れの危険地帯とその対策 ・土壌雨量指数 ・石垣島南方沖地震とパプアニューギニア地震	上原 方成 (琉球大学) 斎藤 優 (沖縄気象台) 岸尾 政弘 (沖縄気象台)	・急襲 津波に備える	
2000 (平成12)	9.21	那覇	沖縄県庁講堂	232	・台風接近時における高潮災害 ・平成11年台湾中部地震の被害状況 ・南西諸島周辺域における最近の地震活動	日野 修 (沖縄気象台) 城田 盛吉 (沖縄県) 岸尾 政弘 (沖縄気象台)	・津波	
2001 (平成13)	8.1	那覇	パレット久茂地	175	・災害と情報	藤吉 洋一郎 (NHK解説委員室)	・より早く、より正確に、より わかりやすい気象業務をめざ して	同時： 天気教室、 気象フェア
2002 (平成14)	1.20*	那覇	沖縄県庁講堂	119	・防災対策について ・津波災害について	竹内 孝夫 (沖縄県) 神林 幸夫 (沖縄気象台)		
2003 (平成15)	7.14	名護	名護市民会館	143	・津波地震災害について ・防災対策について ・台風情報の見方について	澤田 可洋 (沖縄気象台) 竹内 孝夫 (沖縄県) 岩下 剛己 (沖縄気象台)		
2004 (平成16)	7.13	豊見城	中央公民館		・台風に備える (台風による災害と防災情報) ・防災対策について ・地震・津波情報について	中村 誠臣 (沖縄気象台) 武内 孝夫 (沖縄県) 藤井 幹雄 (沖縄気象台)		
2005 (平成17)	2.22*	那覇	沖縄県庁講堂	352	・TSUNAMIから生き残るために ・災害報道現場から見た地域防災	藤川 格司 (富士常葉大学) 川端 義明 (NHK沖縄)	・スマトラ島沖地震	

実施年度・月日		開催地・会場		参加数	講演		映画・ビデオ	備考
					演題	講演者		
2006 (平成18)	1.19*	那覇	沖縄県庁講堂	320	・自然を正しく恐れる ・沖縄県の防災対応 ・宜野湾市における災害時要援護者支援の活動	佐伯 理郎 (沖縄気象台) 梶原 芳也 (沖縄県) 仲村渠 満 (宜野湾市)		
2007 (平成19)	1.15*	那覇	沖縄県庁講堂	380	・沖縄における地震・津波災害を防ぐには ・災害に強い社会とは ・報道現場からみた地域防災	伊藤 秀美 (沖縄気象台) 神谷 大介 (琉球大学) 武田 真一 (NHK沖縄)		
2008 (平成20)	1.20*	那覇	沖縄県庁講堂	290	・気象台の情報－その使い方－ ・大学における防災研究最前線 ・自主防災力の育成に向けて	鉢嶺 猛 (沖縄気象台) 仲座 栄三 (琉球大学) 坂本 津留代 (神戸市井吹台自治会)	・緊急地震速報のしくみと心得 －その時、あなたはどうする！	
2009 (平成21)	1.21*	那覇	沖縄県庁講堂	210	・大雨災害から身を守るためには／地震・津波から 身を守るためには ・糸満市における防災の取り組み ・西崎ニュータウン自治会自主防災西崎ニュータウ ン自治会自主防災会結成への取り組み ・地域防災対策における自助・共助・公助の連携	赤枝 健治 (沖縄気象台) 玉城 幸輝 (糸満市) 古我 知進 (西崎ニュータウン自治会) 室崎 益輝 (関西学院大学)	・緊急地震速報のしくみと心得 －その時、あなたはどうする！	
2010 (平成22)	1.18*	那覇	沖縄県庁講堂	266	・防災気象情報の利活用について ・災害から命を守るために ・楽しい防災まちづくりで「自主防災会」	佐々木 喜一 (沖縄気象台) 神谷 大介 (琉球大学) 大西 賞典 (加古川グリーンシティ防災会)		
2011 (平成23)	1.24*	那覇	沖縄県庁講堂	363	・想定を超える災害にどう備えるか ・自分の命地域の命どう守る？ ・伊佐区民の減災への取り組み	松本 浩司 (NHK解説委員室) 稲垣 暁 (琉球大学) 宮城奈々子 (宜野湾市伊佐自治会)		
2012 (平成24)	3.16*	那覇	パレット市民 劇場	307	・学校・家庭・地域で取り組む防災教育 ～釜石市の防災教育に学ぶ～	片田 敏孝 (群馬大学大学院)		
2013 (平成25)	1.16*	那覇	沖縄県男女共 同参画センタ ー	308	・沖縄地方は地震が少ない？ ～ 地震津波災害で犠牲にならないために～ ・沖縄県の地震災害とこれからの防災教育	川上 徹人 (沖縄気象台) 大木 聖子 (慶應義塾大学)		
2014 (平成26)	1.24*	那覇	沖縄タイムス ホール	223	・災害現場からみた公助の在り方 ・高めよう地域の防災力	金城 竜人 (那覇市) 鍵屋 一 (東京都板橋区議会)		
2015 (平成27)	11.25	与那国	与那国町保健 センター	26	・西原台団地自治会の防災活動 ・自主防災活動の現状と課題 地震、津波、台風は 災害か	田頭 史郎 (与那国町) 山田 広幸 (琉球大学)		
	1.15*	西原	ふじさわ未来 ホール			・西原台団地自治会の防災活動 ・自主防災活動の現状と課題 ・地震、津波、台風は災害か	波平 常則 (西原町西原台団地自治会) 新城 格 (西原町西原台団地自治会) 神谷 大介 (琉球大学)	

実施年度・月日	開催地・会場		参加数	講演		映画・ビデオ	備考
				演題	講演者		
2016 (平成28)	10.13	与那国 与那国町保健センター	30	・台風の予報と防災	伊藤 耕介 (琉球大学)		
	11.10	竹富 西表離島振興総合センター	30	・気象ドップラーレーダーが捉えた台風の暴風域	山田 広幸 (琉球大学)		
	1.25*	那覇 沖縄県立博物館・美術館	160	・沖縄地方の地震活動 ・熊本地震被害と沖縄県へのその教訓 ・避難所に入れない～阪神・東北・熊本の現場から	神谷 晃 (沖縄気象台) 藍檀 オメル (琉球大学) 稲垣 暁 (なは市民活動支援センター)		
2017 (平成29)	7.12	竹富 黒島伝統芸能館	20	・台風とうまく付き合う方法	山田 広幸 (琉球大学)		
	11.6	与那国 与那国町保健センター	20	・台風と航空機観測	伊藤 耕介 (琉球大学)		
	1.23*	浦添 てだこホール	130	・新たなステージに対応した防災気象情報 ・テレビ・ラジオ・インターネットを味方に！ ・自治体における防災業務支援の課題と役割	平野 喜芳 (沖縄気象台) 斎藤 綾乃 (NHK沖縄) 坂本 京子 (山口大学大学院)		
2018 (平成30)	9.11	竹富 波照間村農村集落センター	27	・2017 年台風第21号の航空機観測を用いた強度解析と予測	伊藤 耕介 (琉球大学)		
	1.12*	那覇 沖縄産業支援センター	160	・世界、日本、沖縄県の気候変化と将来予測 ・温暖化に対応した防災気象情報の活用 ・気候変動の原因・影響・対策・適応	前田 修平 (気象庁) 森 朗 (株ウェザーマップ) 堤 純一郎 (琉球大学)		合同： 防災・気候 講演会
2019 (令和1)	12.12	北大東 大東村人材交流センター	23	・防災気象情報と警戒レベルについて ・大東島地方における浸水害と竜巻による突風被害 ・沖縄の気候変動と将来予測	與儀 実祥 (北大東村) 大城 隆 (南大東島地方気象台) 河原 恭一 (沖縄気象台)		合同： 防災・気候 講演会
	1.11*	那覇 沖縄産業支援センター	170	・いのちを守る気象情報 ・地球温暖化で台風はどうか ・津波と沿岸防災	齊田 季実治 (NHK気象キャスター) 杉 正人 (気象研究所) 中 村衛 (琉球大学)		
	2.19*	竹富 小浜島公民館	10	・警戒レベルとは ・航空機観測を用いた台風の強度解析と予測	福原 義通 (石垣島地方気象台) 山田 広幸 (琉球大学)		
2020 (令和2)	1.12*	オンライン配信 (YouTube)		・コトバと気象 ・近年の気象災害と地球温暖化	土方 浄 (合名会社「浄」) 井田 寛子 (キャスター)		
2021 (令和3)	3.13*	オンライン配信 (YouTube)		・気象情報、使ってますか？ ・沖縄県民の地震・津波リスクを考える	多田 英夫 (沖縄気象台) カストロ ホワンホセ (島嶼防災研究センター)		仮題 (編集 時に開催前)

(注) ・いずれの防災気象講演会も、沖縄気象災害防止協議会、沖縄気象台と共催。

・開催月日の「*」印は、各年度の年明け以降に開催したもの。

・2021年度は2022年1月末時点の予定。

その他事業等

年 度	月日	事 項	場 所	会 場	講 演		備 考
					演 題	講 演 者 等	
1972 (昭和47)	2.28* 2.28*	沖縄支部発足会 特別講演	那覇 那覇	婦連会館 婦連会館	・パラメタリゼーション	窪田 正八 (気象庁)	主催
1973 (昭和48)							
1974 (昭和49)	2.24* 2.24* 2.25* 2.26* 2.27* 2.27* 2.28* 3.1* 2.25* 2.25* 3.3*	特別講演 (アムテックス関係)	那覇 那覇 那覇 那覇 那覇 那覇 那覇 那覇 宮古 宮古 石垣	気象台 気象台 気象台 気象台 琉球大学 琉球大学 気象台 気象台 気象台 気象台 気象台	・放射 ・アムテックと天気予報 ・大気大循環とアムテック ・中間規模低気圧 ・境界層観測 ・冬期南西諸島に現れる対流雲 ・気団変質と積雲対流 ・アムテック観測概要 ・降水とレーダー ・境界層 ・アムテックと天気予報	山本 義一 (東北大学) 斎藤 直輔 (気象研究所) 片山 昭 (気象研究所) 浅井 富雄 (東京大学) 光田 寧 (東京大学) 浅井 富雄 (東京大学) 二宮 光三 (気象研究所) 光田 寧 (京都大学) 武田 喬男 (名古屋大学) 竹内 清秀 (気象研究所) 斎藤 直輔 (気象研究所)	主催
1975 (昭和50)	10.27	地球科学に関する座談会	那覇	琉球大学	・今年の台風	安里 尚肇 (沖縄気象台)	主催
1976 (昭和51)	10.19	講演会	那覇	気象台	・気象静止衛星	山下 洋 (気象庁)	共催
1977 (昭和52)							
1978 (昭和53)	11.30	座談会			・異気象に関する気候変動 ・東シナ海の海況	朝倉 正 (気象庁) 森安 茂雄 (沖縄気象台)	主催
1979 (昭和54)							
1980 (昭和55)							
1981 (昭和56)	8.28	講演会			・生物季節観測の気候解析への応用	河村 武 (筑波大学)	主催
1982 (昭和57)	6.11	講演会			・気候変動と炭酸ガス	朝倉 正 (気象庁)	主催
1983 (昭和58)	6.8	講演会			・短時間予測法の現状と展望	立平良三 (福岡管区気象台)	主催
1984 (昭和59)	10.29	講演会			・風の量的予報	野本 真一 (気象研究所)	主催
1985 (昭和60)	1.27*	講演会			・最近のCO2の動向	田中 正之 (東北大学)	主催
1986 (昭和61)							
1987 (昭和62)							
1988 (昭和63)							
1989 (平成1)	11.7~9	気象学会秋季大会	那覇	パシフィックホテル	シンポジウム「台風」	講演227件、参加350名	主催
1990 (平成2)							
1991 (平成3)							
1992 (平成4)							

年度	月日	事項	場所	会場	講演		備考
					演題5	講演者等	
1993 (平成5)							
1994 (平成6)							
1995 (平成7)	11.18	シンポジウム 「熱帯の器を考える」	那覇	琉球大学 大学会館3階ホール	・熱帯の気候 ・熱帯の海洋 ・熱帯の海底 ・熱帯の上層大気	松本 淳 (東京大学) 花輪 公雄 (東北大学) 木村 政昭 (琉球大学) 丸山 健人 (気象研究所)	後援
1996 (平成8)	10.3	シンポジウム 「農業・漁業経営に及ぼす亜熱帯気候」	宮古	アトールエメラルド 宮古島	・沖縄の気候 ・宮古島地下水の硝酸負荷 ・農業経営に及ぼす亜熱帯気候 ・沖縄周辺漁場の気象・海況とパヤオ産業	金城 博明 (元沖縄気象台) 中西 康博 (東京農業大学) 高江洲 賢文 (県農業試験場) 鹿熊 信一郎 (県水産試験場)	主催
1997 (平成9)	10.28	シンポジウム 「台風と沖縄の地域経済」	那覇	県女性総合センター	・沖縄に影響を与える台風 ・台風と沖縄 ・台風と沖縄観光 ・台風と野菜の生産流通	村松 照男 (気象大学校) 宮城 義明 ((株)リウエン) 洲鎌 孝 (沖縄コンベンションセンター) 安谷屋 隆司 (総合事務局)	主催
1998 (平成10)	11.6	シンポジウム 「気候風土から見た八重山の魅力」	石垣	ホテル日航八重山	・八重山群島の気候 ・沖ノ神島における海鳥の繁殖生態と渡り ・石垣市の観光行政	正木 謙 (元沖縄気象台) 河野 裕美 (東海大学) 久場 良淳 (石垣市)	主催
1999 (平成11)							
2000 (平成12)							
2001 (平成13)							
2002 (平成14)							
2003 (平成15)							
2004 (平成16)							
2005 (平成17)							
2006 (平成18)							
2007 (平成19)							
2008 (平成20)	2.4*	シンポジウム 「豪雨・雷・竜巻等の激しい気象の実態に迫る」	那覇	沖電ホール	・豪雨・雷・竜巻等の激しい気象の発生メカニズム ・激しい気象の監視と予測 ・沖縄電力における台風対応	加藤 輝之 (気象研究所) 赤枝 健治 (沖縄気象台) 喜久山 一史 (沖縄電力)	主催
2009 (平成21)							
2010 (平成22)	8.4	子供向けワークショップ	那覇	桜坂劇場	・気象の不思議/気象実験/お天気クイズ	照屋 学/大塩 健志/津島 俊介 (沖縄気象台)	
2011 (平成23)							
2012 (平成24)	2.19*	NICT施設見学	恩納	NICT			発表会に合せ33名

年度	月日	事項	場所	会場	講演		備考
					演題	講演者等	
2013 (平成25)	3.4*	OIST施設見学	恩納	OIST			発表会に合せ31名
2014 (平成26)	8.11～15	子ども気象学士	那覇/ 恩納	合同庁舎会議室 沖縄宇宙通信所	・6 講義、実験、施設見学、認定試験他	裁 吉信/佐藤 幸隆/田中 孝(気象台)、 永井 秀行(球陽高校)、渡邊 正俊 (美里中学校)、藤間 弘敬(琉大院生)	講義約40名参加、 沖縄宇宙通信所見学
	3.9*	NICT施設見学	恩納	NICT			発表会に合わせ27名
2015 (平成27)	8.10～12	子ども気象学士	那覇	気象台防災連絡室	・5 講義、実験、施設見学、認定試験他 ・本物の気象予報士のはなしを聞こう!	仲宗根朋美 (QABお天気キャスター)	講義約35名参加
	3.9*	OIST施設見学	恩納	OIST			発表会に合わせ35名
2016 (平成28)	8.3～5	子ども気象学士	那覇	気象台防災連絡室	・5 講義、実験、施設見学、認定試験他 ・本物の気象予報士のはなしを聞こう!	斎藤 綾乃 (NHK気象キャスター)	講義約30名参加
	1.21*	サイエンスカフェ	那覇	museum café 茶花 (ちゃか)	・2016年の台風の特徴 ・台風とのお付き合いのコツについて	山田 広幸 (琉球大学) 斉藤 綾乃 (NHK気象キャスター)	52名
	3.2*	GODAC施設見学	名護	GODAC			発表会に合わせ36名
2017 (平成29)	8.7～9	子ども気象学士	那覇	気象台防災連絡室	・5 講義、実験、施設見学、認定試験他 ・気象予報士のはなしを聞こう!	田地 香織 (琉球放送お天気キャスター)	講義約22名参加 (保護者含む)
	9.9	サイエンスカフェ	那覇	Café Vento (ダイ ワロイネットホテル 沖縄県庁前)	・空を楽しむための雲科学	荒木 健太郎 (気象研究所)	41名 (ゲスト含む)
	12.16	凌風丸見学	那覇	那覇港新港			17名
	3.2*	気象講演会	那覇	気象台防災連絡室	・台風第21号の航空機観測の概要	山田 広幸 (琉球大学)	53名
	3.7*	NICT施設見学	恩納	NICT			発表会に合わせ32名
2018 (平成30)	8.1～3	子ども気象学士	那覇	気象台防災連絡室	・5 講義、実験、施設見学、認定試験他 ・気象予報士のはなしを聞こう!	崎濱 綾子 (気象予報士)	講義約45名参加
	12.15	子ども気象学士 サイエンスカフェ	那覇	Café Vento (ダイ ワロイネットホテル 沖縄県庁前)	・航空機による台風観測で見たもの	伊藤 耕介 (琉球大学)	42名 進行役：斎藤綾乃 (NHK気象キャスター)
2019 (令和1)	7.31～8.2	子ども気象学士	那覇	気象台防災連絡室	・気象予報士のはなしを聞こう!	結野 亜希 (NHK気象キャスター)	講義約25名参加
	2.1*	サイエンスカフェ	那覇	Bistro YOSHIHIKO (グリーンリッチホ テル那覇)	・不思議な気象現象を映像で考える	武田 康男 (空の探検家)	41名
2020 (令和2)	2.6*	サイエンスカフェ	那覇	Café Vento (ダイ ワロイネットホテル 沖縄県庁前)	・2020年の沖縄の天気をふりかえる	山田 広幸 (琉球大学) 友利 健 (沖縄気象台) 島尻 勝 (気象予報士)	31名 進行役：井田 寛子気象 予報士・キャスター

(注) 開催月日の「*」は各年度の年明けに開催したものを。

日本気象学会沖縄支部 財政

区分	年度	1972 (昭47)	1973 (昭48)	1974 (昭49)	1975 (昭50)	1976 (昭51)	1977 (昭52)	1978 (昭53)	1979 (昭54)	1980 (昭55)	1981 (昭56)	1982 (昭57)	1983 (昭58)	1984 (昭59)	1985 (昭60)	1986 (昭61)
収入	繰越金							178,539	232,683		303,444	321,742	182,322	128,423	49,634	
	支部交付金							131,000	138,500		94,700	211,300	209,900	210,600	253,450	
	入会手数料							5,500	14,975		4,500			2,000	1,500	
	刊行物売上											10,800	18,400			
	利息等							2,624	2,509		7,087	14,100	11,321	10,221	2,244	
	計							317,663	388,667		409,731	557,942	421,943	351,244	306,828	
支出	事務・通信費							3,080	2,600			32,200	23,420	18,390	27,250	
	会議費							29,900	8,415			53,920	52,830	33,000	31,130	
	印刷費							35,000	35,000			20,000	60,000	40,000	60,000	
	例会出席旅費補助							52,000	49,660			244,500	132,220	165,220		
	理事会出席旅費補助															
	会場費											25,000	25,000	25,000	40,000	
	防災気象講演会等															
	予備費															
	繰越金							197,683	292,992			182,322	128,473	49,634	148,448	
計							317,663	388,667			557,942	421,943	331,244	306,828		

区分	年度	1987 (昭62)	1988 (昭63)	1989 (平1)	1990 (平2)	1991 (平3)	1992 (平4)	1993 (平5)	1994 (平6)	1995 (平7)	1996 (平8)	1997 (平9)	1998 (平10)	1999 (平11)	2000 (平12)	2001 (平13)
収入	繰越金	72,629	143,500	107,429	98,053	59,734	75,143	51,431	88,263	13,923	47,921	60,419	49,826	12,800	80,010	124,451
	支部交付金	249,200	245,800	254,300	268,750	270,450	263,650	264,500	259,400	254,300	260,250	248,350	245,800	245,800	243,250	239,850
	入会手数料	2,500	7,500	9,500	2,500											
	刊行物売上		74,290	7,300												
	利息等	481	419	1,191	2,757	2,899	695	462	432	158	109,349	71	79	53	101	37
	計	324,810	471,509	379,720	372,060	333,083	339,488	316,393	348,095	268,381	417,520	308,840	295,705	258,653	323,361	364,338
支出	事務・通信費	17,810	28,160	10,987	12,526	5,220	10,051	7,390	6,020	6,540	12,781	3,300	13,680	8,968	6,910	10,610
	会議費	53,500	41,500	24,720	26,780	52,660	26,400	28,600	15,600	10,000	16,800	15,925	18,075	15,275	13,800	8,350
	印刷費	70,000	133,000	137,100	72,100	80,000	111,606	110,000	123,000	114,300	129,780	132,300	120,750	90,300	84,000	97,125
	例会出席旅費補助	0	91,420	63,860	130,920	80,060	100,000	68,860	149,140	79,620	147,740	86,760	90,400	44,100	74,200	82,500
	理事会出席旅費補助	30,000	30,000		30,000	30,000			30,412							
	会場費	10,000		45,000	40,000	10,000	40,000	10,000	10,000		30,000					
	防災気象講演会等									10,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	10,000
	予備費		40,000					3,180				729	20,000			94,815
	繰越金	143,500	107,429	98,053	59,734	75,143	51,431	88,263	13,923	47,921	60,419	49,826	12,800	80,010	124,451	50,938
計	324,810	471,509	379,720	372,060	333,083	339,488	316,293	348,095	268,381	417,520	308,840	295,705	258,653	323,361	354,338	

区分	年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	(注) 2009年度より区分の変更等実施 ・支部会計の本部会計への統合に伴い2008年度の繰越金を本部返納 ・「事業費」の支部ニュース・夏季行事開催・例会開催費・支部活動強化費と、「管理費」の総会理事会・事務費を区別
		(平14)	(平15)	(平16)	(平17)	(平18)	(平19)	(平20)	
収入	繰越金	50,938	41,316	111,789	75,393	143,453	225,149	217,532	
	支部交付金	234,750	228,800	221,150	326,000	306,800	299,600	299,600	
	入会手数料								
	刊行物売上								
	利息等	512	3	4	3	76	339	340	
	計	286,200	270,119	332,943	401,396	450,329	525,088	517,472	

支出	事務・通信費	16,884	6,530	7,350	43,830	19,060	93,040	15,474
	会議費	24,300	0	14,500	13,700	15,600	17,200	10,400
	印刷費	90,000	94,500	136,500	14,868	94,500	114,450	113,400
	例会出席旅費補助	93,700	37,300	79,200	79,100	72,000	56,100	82,280
	理事会出席旅費補助							
	会場費							
	防災気象講演会等	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	0
	予備費	10,000	10,000	10,000	96,445	14,020	16,766	295,918
	繰越金	41,316	111,789	75,393	143,453	225,149	217,532	0
	計	286,200	270,119	332,943	401,396	450,329	525,088	517,472

区分	年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		(平21)	(平22)	(平23)	(平24)	(平25)	(平26)	(平27)	(平28)	(平29)	(平30)	(平31/令1)	(令2)
収入	繰越金	0	300,218	516,352	754,430	858,079	791,225	1,098,606	947,258	689,214	212,835	357,002	498,246
	支部交付金	548,400	544,800	536,400	536,400	540,000	528,000	524,400	522,000	320,000	741,965	590,598	559,600
	利息等	138	132	126	155	165	172	183	23	5	5	6	8
	計	548,538	845,150	1,052,878	1,290,985	1,398,244	1,319,397	1,623,189	1,469,281	1,009,219	954,805	947,606	1,057,854
支出	支部ニュース	0	0	0	1,750	4,230	1,558	328	0	0	0	0	0
	夏季行事開催	183,405	310,728	248,068	357,026	527,928	16,889	353,238	334,361	255,479	191,518	153,221	0
	例会開催費	51,185	1,800	34,970	62,800	2,220	87,640	102,139	85,843	106,961	26,001	165	0
	支部活動強化費	0	0	0	0	60,350	100,000	117,510	222,070	353,292	262,450	257,065	70,330
	総会・理事会	6,000	4,620	6,900	3,580	6,334	6,223	4,007	15,507	12,615	8,491	11,161	1,588
	事務費	7,730	11,650	8,510	7,750	5,957	8,481	98,709	122,286	68,037	109,343	27,748	62,224
	予備費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	繰越金	300,218	516,352	754,430	858,079	791,225	1,098,606	947,258	689,214	212,835	357,002	498,246	923,712
	計	548,538	845,150	1,052,878	1,290,985	1,398,244	1,319,397	1,623,189	1,469,281	1,009,219	954,805	947,606	1,057,854

日本気象学会沖縄支部 役員

年度 役職	1972 (昭和47)	1973 (昭和48)	1974 (昭和49)	1975 (昭和50)	1976 (昭和51)	1977 (昭和52)	1978 (昭和53)	1979 (昭和54)	1980 (昭和55)	1981 (昭和56)	1982 (昭和57)	1983 (昭和58)	1984 (昭和59)
支部長	山本 敦		山本 敦		内川 規一		森安 茂雄	森安 茂雄	森安 茂雄	高良 初喜	高良 初喜	浅田 暢彦	浅田 暢彦
理事													
沖縄地区	山田 一 高良 初喜 石島 英		山田 一 高良 初喜 石島 英		百足 虎治 石垣 和雄 石島 英 中村 功		野村 真一 石垣 和雄 折田 栄徳 宮良 孫好 石島 英 中村 功	野村 真一 石垣 和雄 折田 栄徳 宮良 孫好 石島 英 中村 功	野村 真一 宮良 孫好 折田 栄徳 与座 朝睦 石島 英 中村 功	仲吉 良功 鈴木 義男 平良 昌弘 石島 英 中村 功	鈴木 義男 堀 建二 金城 保利 石島 英 中村 功	藤井 久治郎 正木 讓 石島 英 中村 功	藤井 久治郎 松島 寛 正木 讓 石島 英 中村 功
南大東地区										安里 尚肇	安里 尚肇	安里 尚肇	菊池 健晴
宮古島地区										本村 隆俊	平良 昌弘	金城 保利	金城 保利
八重山地区										金城 博明	金城 博明	金城 博明	富川 盛八
監 事 (会計監査)							松島 寛	松島 寛	豊見山 浩	豊見山 浩	玉城 眞通	玉城 眞通	金城 文正
幹 事 (事務局)	糸数 昌丈 砂川 玄蔵		糸数 昌丈 許田 重憲		宮良 孫好 松村 彰		平敷 兼義 糸数 昌丈	玉城 眞通 糸数 昌丈	石垣 和雄 玉城 眞通	石垣 和雄 玉城 眞通	仲吉 良功 座間味 忠	仲吉 良功 座間味 忠	仲吉 良功 座間味 忠
会 計													
全国理事	山本 敦	山本 敦	山本 敦	山本 敦	内川 規一	内川 規一	森安 茂雄	森安 茂雄	森安 茂雄	森安 茂雄	高良 初喜	高良 初喜	石島 英
天気編集委員				糸数 昌丈	糸数 昌丈	糸数 昌丈	糸数 昌丈	糸数 昌丈	石垣 和雄	石垣 和雄	仲吉 良功	仲吉 良功	仲吉 良功
備 考	・理事のうち最上段は常任理事、他は理事						・常任理事・理事の区別を廃止 ・地区別に理事を選出						

年度 役職	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
	(平成10)	(平成11)	(平成12)	(平成13)	(平成14)	(平成15)	(平成16)	(平成17)	(平成18)	(平成19)	(平成20)	(平成21)	(平成22)
支部長 理事	内池 浩生	内池 浩生	春日 信	春日 信	白木 正規	澤田 可洋		佐伯 理郎	佐伯 理郎	伊藤 秀美	赤枝 健治	加納 裕二	栗原 弘一
沖縄地区	吉永 泰裕	吉永 泰裕	日野 修	日野 修	木村 吉宏	木村 吉宏		中村 誠臣	久木 幸治	久木 幸治	喜納 宏之	益子 直文	有銘 功
	齋藤 優	齋藤 優	仲大 安英	与那覇 勲	日野 修	岩下 剛己		岩下 剛己	角村 悟	角村 悟	金城 文正	有銘 功	佐々木 喜一
	豊見山 浩	豊見山 浩	亀谷 長勇	玉城 眞通	我謝 良弘	我謝 良弘		新里 博美	新里 博美	高嶺 武	高嶺 武	宮里 勝男	新屋 勉
	与那覇 勲	座間味 忠	座間味 忠	小賀 百樹	宮良 武男	高嶺 武		天久 建二	杉山 卓也	杉山 卓也	堤 純一郎	赤枝 健治	堤 純一郎
	石島 英	石島 英	小賀 百樹		小賀 百樹	小賀 百樹		小賀 百樹	喜納 宏之	喜納 宏之	鉢嶺 猛	堤 純一郎	益子 直文
	小賀 百樹	小賀 百樹	木村 玲二						天久 建二	金城 文正	久木 幸治	久木 幸治	渡邊 正俊
南大東地区	糸数 俊一	糸数 俊一	松岡 定征	松岡 定征	久根次 清一	久根次 清一		高嶺 武	高嶺 武	新屋 勉	新屋 勉	新屋 勉	仲間 昇
宮古島地区	山川 武夫	山川 武夫	諸見里 安三	諸見里 安三	諸見里 安三	比嘉 恒貞		金城 勝重	金城 勝重	野村 島夫	野村 島夫	小山 克人	小山 克人
八重山地区	玉城 眞通	玉城 眞通	我謝 良弘	座間味 忠	座間味 忠	座間味 忠		宮里 彦一	宮里 彦一	比嘉 正則	比嘉 正則	石垣 雅和	石垣 雅和
監 事 (会計監査)	亀谷 長勇	亀谷 長勇	洲鎌 昭雄	洲鎌 昭雄	根間 俊明	新里 博美		比嘉 正則	神谷 保	神谷 保	大城 貞昭	大城 貞昭	島尻 勝
	下地 幸雄	下地 幸雄	宮良 武男	宮良 武男	新屋 盛進	新屋 盛進		神谷 保	比嘉 正則	天久 建二	玉城 和男	玉城 和男	玉城 和男
幹 事 (事務局)	白石 幸嗣	白石 幸嗣	白石 幸嗣	白石 幸嗣	玉城 眞通	宮良 武男		上原 清	上原 清	金城 勝重	宮里 勝男	上江洲 久雄	嶺井 政康
	松長 猛	安田 修	安田 修	筒井 祐次	高嶺 武	垣花 和夫		玉城 和男	裁 吉信	裁 吉信	裁 吉信	浅見 幸宏	浅見 幸宏
	安田 修	松原 富夫	伊藤 明	玉城 和男	玉城 和男	玉城 和男		裁 吉信	宮里 智裕				
会 計													
全国理事	石島 英	石島 英	春日 信	春日 信		米谷恒春		中村 誠臣	久木 幸治	久木 幸治	赤枝 健治	赤枝 健治	
天気編集委員	豊見山 浩	豊見山 浩	豊見山 浩	仲大 安英	与那覇 勲	我謝 良弘	宮良 武男	新里 博美	新里 博美	高嶺 武	高嶺 武	宮里 勝男	新屋 勉
備 考													

(役員：続き)

役職	年度										
	2011 (平成23)	2012 (平成24)	2013 (平成25)	2014 (平成26)	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)	2019 (令和1)	2020 (令和2)	2021 (令和3)
支部長	横山 辰夫	横山 辰夫	北村 佳照	赤枝 健治	横山 博文	大島 広美	矢野 敏彦	矢野 敏彦	蕪澤 浩	吉田 隆	多田 英夫
理事											
沖繩地区	有銘 功	山田 雄二	山田 雄二	中野 尚	中野 尚	若山 晶彦	益子 直文	益子 直文	水野 孝則	水野 孝則	杉浦 伊織
	重村 尚秀	重村 尚秀	木村 陽一	裁 吉信	知念 浄	松田 博之	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀
	新屋 勉	仲間 昇	仲間 昇	木村 陽一	高橋 清和	高橋 清和	平野 喜芳	山下 順也	志堅原 透	志堅原 透	金城 康広
	堤 純一郎	島尻 勝	上江洌 司	堤 純一郎	堤 純一郎	山田 広幸	山田 広幸	山田 広幸	山田 広幸	山田 広幸	山田 広幸
	山田 雄二	堤 純一郎	堤 純一郎	山田 広幸	山田 広幸	伊藤 耕介	伊藤 耕介	伊藤 耕介	伊藤 耕介	伊藤 耕介	伊藤 耕介
	渡邊 正俊	渡邊 正俊	渡邊 正俊	永井 秀行	永井 秀行	永井 秀行	永井 秀行				
南大東地区	仲間 昇	知念 浄									
宮古島地区	砂川 徳松	砂川 徳松									
八重山地区	下里 明次	下里 明次									
監 事	島尻 勝	玉城 和男	玉城 和男	比屋定 弘康	比屋定 弘康	比屋定 弘康	比屋定 弘康	宮里 智裕	宮里 智裕	上原 政博	上原 政博
(会計監査)	玉城 和男	比屋定 弘康	比屋定 弘康	宮里 智裕	宮里 智裕	宮里 智裕	宮里 智裕	田村 弘人	田村 弘人	新垣 秀治	新垣 秀治
幹 事	嶺井 政康	嶺井 政康	裁 吉信	知念 浄	當眞 辰彦	當眞 辰彦	當眞 辰彦	當眞 辰彦	翁長 自俊	翁長 自俊	国吉 真昌
(事務局)	浅見 幸宏	国吉 真昌	国吉 真昌	国吉 真昌	田村 弘人	田村 弘人	田村 弘人	山口 直輝	山口 直輝	山口 直輝	大城 隆
	宮里 智裕	照屋 学								田村 一卓	田村 一卓
会 計			大城 広志	大城 広志	大城 広志	田村 弘人	田村 弘人	新垣 秀治	新垣 秀治	寄合 一男	福原 義通
全国理事		山田 雄二	山田 雄二								
天気編集委員	新屋 勉	仲間 昇	仲間 昇	仲間 昇	知念 浄	松田 博之	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀	重村 尚秀
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・公益社団法人化 ・本部地区理事、離島地区理事廃止 										

例会予稿項目一覧

第1回～第49回（1973年～2021年）の沖縄支部例会（研究会）予稿集に掲載された調査・研究項目の一覧を示す。表記方法の注意点は以下のとおり。

表示欄	注意点
項目	約半数の発表題目に付されている「…について」を、ページ節約の観点からすべて省略。
所属	気象台関係は、沖縄気象台→「沖縄台」、南大東島地方気象台→「南大東」など省略表記。「空」は空港の出張所又は分室を示す。琉球大学は「琉大」とし、農学部・短大部等が明記されている場合は「農」「短」等を付記。複数著者の所属が異なる場合は筆頭著者の所属のみを記し、二人目以降の所属は「他」と表記。
著者	複数著者の場合は筆頭著者氏名のみを記し、二人目以降は「他」と表記。「他2」のように数字が付されていれば数字人数分の共著者がいることを示す。また、「G」はレーダー班などグループの発表であることを示す。

号・年月	項目	所属	著者
第1号 1973.2 昭和48	日本付近における日射量	琉大農	城間理夫
	安定度を考慮した乱流輸送量の計算図	琉大短	石島英
	台風域内の海面付近の風速分布	琉大短	石島英
	台湾低気圧の発生予想（第1報）	沖縄台	真喜屋実彦
	沖縄地方に於ける1969年10月豪雨の総観解析	沖縄台	伊豆味正吉
	小低気圧に関する若干の解析例	沖縄台	嘉味田宗治
	宮古島近海をとる台風（基礎調査第1報）	宮古島	本村隆俊
	20mm以上の降雨をもたらした寒冷前線と石垣島のタイムセクション	宮古島	垣花吉彦
	梅雨期における雨	南大東	技術課
	沖縄地方のたつ巻	沖縄台	富川盛八・他
	たつまきに伴うレーダーエコーの観測例 －寒冷前線に伴うヘルムホルツ不安定波によるレーダーエコー観測例－	沖縄台	大田喬
	海流と海洋汚染	沖縄台	伊志嶺安進
	天気の代表性（1）	沖縄台	許田重憲
	久松五勇士と当時の気象	石垣島	北村伸治
冬期沖縄に於ける異常高温・異常低温の出現機構	石垣島	北村伸治	

号・年月	項目	所属	著者
第2号 1974.3 昭和49	沖縄における農作物の気象災害	琉大農	城間理夫
	沖縄本島付近の降水分布の特性及びその季節変化	琉大短	石島英
	渡瀬線の気候	那覇航	駒田暢男
	台湾低気圧の発生予想（第2報）	沖縄台	真喜屋実彦
	先行雨量	沖縄台	許田重憲・他
	沖縄地方における1969年10月豪雨の総観解析（その2）	沖縄台	伊豆味正吉
	前線通過の雨量予想	沖縄台	源河博・他5
	沖縄本島北部の河川流域における既往降水指数の減衰係数	沖縄台	平良昌弘
	沖縄近海における波浪予報	沖縄台	波浪技術調査G
	台風に伴うエコーパターン	宮古島	本村隆俊
	宮古島に於ける4月の大雨	宮古島	池村恵治
	春と秋における500mb troughと先島の雨	石垣島	金城博明
	寒冷前線通過時の低気圧の位置と雨量	南大東	折田栄徳
	南大東島における台風の最大風速	南大東	菊池健晴
沖縄本島周辺の海洋水の特性	沖縄台	伊志嶺安進・他2	
沖縄周辺の地震活動（第1報）琉球列島の地体構造と地震分布	沖縄台	金沢茂夫	

号・年月	項目	所属	著者
第3号 1975.3 昭和50	台風14号に伴う台湾山脈の石垣島付近におよぼす気象的影響	石垣島	北村伸治
	Ri数と沖縄近海に発生する低気圧の2.3の試行	石垣島	仲吉良功
	電計（プリミティブモデル）による低気圧発生と前線停滞の予想	宮古島	平岡秀康
	沖縄近海における低気圧（特に冬期を中心）発生の調査 - 第1報 -	沖縄台・他	井田哲哉・他7
	電計資料（24時間雨量予想図）の検証	宮古島	垣花吉彦
	寒冷前線通過前後における降雨継続時間	南大東	折田栄徳
	沖縄の月雨量に関する2.3の検討	沖縄台	平良昌弘
	1974年9月18日の局地的雷雨	石垣島	長田正
	1974年4月28日の雷雨の考察	那覇航	仲本正隆
	宮古島レーダーで観測したエコー頂高度の10ヶ年統計 - その1 -	宮古島	下地朝勇・他
	宮古島における沿岸水温とエコーの消長など	宮古島	本村隆俊
	台風により生起する脈動	宮古島	根間俊明
	沿岸波浪に関する基礎調査	波浪技術調査G	波浪技術調査G
スコール	宮古空	大山春明	
沖縄周辺の地震活動（第2報）地震エネルギーの考察	沖縄台	金沢茂夫	

号・年月	項目	所属	著者
第4号 1976.3 昭和51	発達する東シナ海低気圧の構造	沖縄台	長浜宗政
	電計資料と実測雨量の対応	宮古島	本村隆俊
	台風中心およびスパイラルバンドの動向	宮古島	赤羽俊朗
	冬期台湾東方で発生する帯状エコー	石垣島	折田栄徳・他
	気温、湿度に対する大気境界層の安定度関数	琉大短	石島英
	台風進路の統計的予報法	琉大教	中村功・他2
	沖縄における確率降雨強度	琉大農	城間理夫・他
	降水継続と無降水継続から見た石垣島の天気	石垣島	北村伸治・他
	那覇空港における冬季の雲分布	那覇航	恩納則光
	南西諸島域における温暖前線の雲構造と天気現象	那覇航	仲本正隆
	沿岸波浪予報の基礎調査	沖縄台	波浪技術作業委員会
	古記録の気象災害資料利用のための新暦換算法	与那国	伊志嶺安進
	沖縄における植物季節観測の種目	沖縄台	宮良孫好
	沖縄における地震災害	沖縄台	金沢茂夫

号・年月	項目	所属	著者
第5号 1977.3 昭和52	沖縄本島における山（がけ）崩れと先行雨量	沖縄台	真喜屋実彦
	1976年7月29日の偏東風波動の解析	沖縄台	玉城眞通
	台風域内の風速の予想	宮古島	赤羽俊朗
	宮古島における冬季の天候ベースの波数とパターン	宮古島	平岡秀康
	石垣島と宮古島の大雨	宮古島	本村隆俊
	700mb湿数および鉛直流と石垣島の天気	石垣島	正木謙・他
	平良港における季節風時の沿岸波浪と風	宮古島	根間俊明
	宮古島の強風に関する統計	宮古島	根間俊明
	宮古島レーダーによる平均エコー量分布	宮古島	下地朝勇・他G
	宮古島における線状エコー	宮古島	立津元信・他
	冬期、先島近海に発生する低気圧、波動のレーダーエコーパターン	宮古島	下地朝勇
	小エコーの移動から台風の中心を求める方法	石垣島	山川武夫
	石垣島における台風エコーのZ-R関係の測定	石垣島	石原正仁
	那覇空港における春先から梅雨期の雲分布	那覇航	恩納則光
	南西諸島域を通過する寒冷前線の雲構造	那覇航	仲本正隆・他
	気象庁のマグニチュードと沖縄三官署におけるマグニチュードの比較	宮古島	細野耕司
	流れの可視化（Tornado-like Vortex）	琉大教	中村功
	北太平洋西部海域の表面水温及び気温の季節変化	琉大短	石島英
台風周辺場の客観解析法による外挿	琉大教	中村功・他2	

第5号	1976年10月23日沖縄本島地方における大雨の解析	沖縄台	金城博明
1977.3	1976年10月23日の竜巻	沖縄台	上原清
昭和52	台湾の見える諸条件の検討	与那国	伊志嶺安進

号・年月	項目	所属	著者
第6号 1978.3 昭和53	沖縄本島における大雨注意報、警報及び洪水注意報警報の基準値	沖縄台	百足虎治・他2
	沖縄本島地方の洪水予報	沖縄台	上原清
	電計資料による冬期の悪天予想	宮古島	平岡秀康
	石垣島の台風による高潮の実態	石垣島	正木讓・他
	昭和52年5号台風による八重山地方の住家被害	石垣島	崎原一哲
	台風域内の傾角の変化	石垣島	正木讓・他
	沖縄レーダーによるエコーの探知能力とエコー量分布	沖縄台	比嘉良明・他2
	寒冷前線ともなうエコーの特徴	沖縄台	川津拓幸
	先島近海を通過した寒冷前線とその前後の線状エコー	宮古島	下地朝勇
	那覇空港において発生する層雲の予想の基礎調査	那覇航	恩納則光
	雷雨予報のための基礎調査	那覇航	長田正・他
	与那国島における2日連続降水量	与那国	野呂恒夫
	南大東島の脈動と波浪	南大東	伊志嶺安進・他2
	地震波のFourier解析	宮古島	細野耕司
	台風情報提供方法の改善	琉大短	石島英
	Tornado-like Vortexの観察	琉大教・他	中村功・他
	北太平洋西部海域の気圧のスペクトル解析	琉大短・他	石島英・他
	台風進路の統計的予報法(第2報)	南大東・他	天久建二・他
	台風の長期予報	沖縄台	与座朝睦
	沖縄県地方の気候変動	沖縄台	糸数昌丈
那覇における日最高及び最低気温の再現期間	気象協会	赤津邦夫	

号・年月	項目	所属	著者
第7号 1979.2 昭和54	沖縄付近における台風域内の風速及び降雨分布	沖縄台	仲吉良功・他
	南西諸島における台風予報法(PC)の検証	沖縄台	大磯礼
	宮古島付近を通過した台風の最大風速	宮古島	平岡秀康・他
	南海上を西進する台風と宮古島の降雨	宮古島	垣花吉彦・他
	台風の長期的予想進路	久米島	金城政康
	アメダス、レーダーを利用した短時間雨量予報(第1報)	沖縄台	伊豆味正吉・他2
	沖縄レーダーに現れる線状エコー	沖縄台	我那覇正則・他
	レーダー雨量係数(fR)	沖縄台	レーダー現業班
	宮古島付近の雷雨エコー	宮古島	下地朝勇・他
	1973年5月27日夜の長続きした雷雨の解析例	那覇航	大田喬
	判別解析法による夏期(7、8、9月)の雷雨予報法	那覇航	長田正・他
	与那国島の雷	与那国	野呂恒夫
	与那国島における前線通過パターン解析	与那国	仲島用尚
	那覇空港における層雲の発生予想(3、4月)	那覇航	恩納則光
	南西諸島における大気構造(第1報)	那覇航	石垣雅和・他
	異常乾燥の出現確率	石垣島	渡久地尚
	気球の上昇速度と湿度	石垣島	真玉橋長紀
	回転および上昇速度の変化に伴うTornado-like Vortexの遷移	琉大	仲間昇・他
	複数吸上げによるTornado-like Vortex	琉大	中村功・他
	1~2月の月平均気温と5~6月の降水量	石垣島	大仲浩夫
	放射の数値実験とその検証	南大東	伊志嶺安進
	沖縄における桜前線の南下	石垣島・他	宮良孫好・他
	石垣島における有感地震	石垣島	上地清市
台湾付近の地震の一調査	石垣島	正木讓・他	

号・年月	項目	所属	著者
第8号 1980.2 昭和55	降水による沖縄本島地方の地域細分	沖縄台	佐々木正和
	対流性雲の伝播速度	那覇航	大田喬
	那航測における夏場の海陸風	那覇航	平良哲二
	海陸風による積乱雲発生	那覇航	平良哲二
	雷雨に伴う諸量の予測式	那覇航	長田正・他
	冬期の季節風予測法（基礎調査）	那覇航・他	石垣和雄・他2
	寒冷前線通過時の風速	宮古島	根間俊明
	1979年6月15日の局地的大雨	宮古島	下地朝勇・他
	寒冷前線通過予想	宮古島	平岡秀康
	石垣島地方における5-6月の降雨特性	石垣島	大仲浩夫
	石垣島における安定指数（SSI）	石垣島	仲嵩滋
	南西諸島付近での台風進路の回帰予報式	琉大教・他	中村功・他
	沖縄における偏東風波動のモデル	沖縄台	仲本正隆
	偏東風波動のエコーパターン	宮古島	垣花吉彦
	レーダーエコーと地上風系場の発散、うず度の関係	沖縄台	伊豆味正吉
	レーダー雨量係数 レーダー相当雨量強度とアメダス雨量との関係	沖縄台	権藤光宏
	移動性高気圧後面のエコーパターン	宮古島	与那城重雄・他
	沖縄上空における気象要素のスペクトル解析（第1報）	南大東・他	上江洌司・他2
	4～6月の北太平洋南西海域における気圧スペクトル	琉大・他	石島英・他
	那覇における冬期天気のIndex化の試み	琉大	中村功・他
石垣空港における視程と雲高	石垣空	安次嶺一彦	
南西諸島の上層風の特徴（その1）	石垣島	真玉橋長紀	
那覇港と石垣港の高潮	沖縄台	森安茂雄	
旧暦日による潮汐の満干時刻	石垣島	宮良孫好	

号・年月	項目	所属	著者
第9号 1981.2 昭和56	台風の鉛直構造（高度場と温度場）	沖縄台	野本真一・他2
	台風の鉛直構造（風の場）	沖縄台	野本真一・他2
	台風の発達と海面水温	沖縄台	野本真一
	タイ8013の中心 - 2つの渦の存在の可能性 -	南大東	大島広美
	台風の風特性	石垣島	大仲浩夫
	メソスケール地形による気流擾乱に関する数値実験	琉大短	石島英
	発散の鉛直分布と面積平均雨量との関係	沖縄台	座間味忠・他
	宮古島地方の大雨	宮古島	平岡秀康・他
	1980年4月19～20日の大雨	宮古島	三上正男
	宮古島地方における降雨特性	宮古島	根間俊明
	石垣島における年降水量の変動	石垣島	宮里彦一・他
	寒冷前線前面の降雨	宮古島	島尻勝・他
	前線通過前後の宮古島の風の経過	宮古島	下地利長
	あられの降る時の気象特性	沖縄台	仲本正隆
	東支那海低気圧の発生に伴う雲パターン	石垣島	正木讓
	前線および高気圧前面における沿岸波浪	沖縄台	長田正
	梅雨前線帯内の帯状エコーの形成及び分裂	南大東・他	下地朝勇・他
	エコー合流と総観場	宮古島	垣花吉彦
	低気圧及び寒冷前線に伴うRadar Echoの発達域	那覇航	仲吉良功・他
	レーダー・エコーの発達・衰弱	石垣島	渡邊典昭
	アメダスによるじょう乱の周期とエコーの消長	那覇航	大田喬
	南西諸島を中心とした地上気圧配置	沖縄台	大城繁三・他2
	南西諸島の気象特性	沖縄台	座間味忠
	南西諸島における気象要素のスペクトル解析	沖縄台	野本真一・他2
	石垣島地方の消費電力と最高気温の相関関係	石垣島	宮沢勇・他
	那覇空港における短時間の気温の予測	那覇航	本間實
	那覇空港における視程の変化傾向	那覇航	新屋勉

	平板に垂直な円柱による伴流の視察	琉大教	塚本勝二・他
	惑星接近が地球に及ぼす異常効果（潮汐の立場から）	宮古島	伊志嶺安進

号・年月	項目	所属	著者
第10号 1982.2 昭和57	気候変動の立場から見た沖縄県地方に接近した強い台風（第1報）	沖縄台	鈴木義男・他
	新平年値と宮古島の降水量	宮古島	根間俊明
	昭和56年7月22日の石垣島における大雨の解析	石垣島	平敷兼義
	大雨と雲域パターン	宮古島	平岡秀康・他
	雲解析図の大雨予測への利用	石垣島	正木譲
	雷雲の通過に伴う気象要素（主として風）の解析	那覇航	下地恒彦・他2
	アメダスの代表性	沖縄台	佐々木正和
	沖縄本島地方における降雨の空間分布と各地点における雨の降り方の関係	沖縄台	金城保利
	石垣島、与那国島地方のアメダスによる風の比較	石垣島	渡久山春夫
	レーダーエコーの補外による雨量予測の検証	沖縄台	新里博美・他2
	冬期季節風における宮古島と下地島の風の比較	宮古島	仲間昇
	豪雨時におけるレーダーエコーの振舞いとその消長	沖縄台	権藤光宏・他2
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動静	沖縄台	仲本正隆
	偏東風波動による天気	南大東	下地朝勇
	島上観測データによる台風中心付近の地上風構造の解析	琉大	石島英
	レーダーエコーのデジタル化による補外	那覇航	大田喬・他2
	判別解析法による3～6月の雷雨予報法	沖縄台・他	長田正・他
	宮古島レーダーによる短時間雨量予測実験（第一報）	宮古島	三上正男・他
	類似台風選別法による台風進路予想（第1報）	沖縄台	与那嶺実
	うず度、発散を利用した大雨の予測	沖縄台	武村啓太郎
風資料と雨量との関係	沖縄台	天久建二	
沖縄本島における濃霧の調査	那覇航	渡久地尚・他5	
有効風速と波浪との関係	沖縄台	座間味忠	
史料にみる沖縄の干ばつ	沖縄台	高良初喜	
沖縄の生物季節から - 生物現象と気象条件 -	宮古島	市成隆	

号・年月	項目	所属	著者
第11号 1983.2 昭和58	気象衛星の半旬雲量からみた沖縄地方の入梅	沖縄台	仲吉良功
	沖縄の天気および亜熱帯高気圧の動静（第2報） （気象衛星の雲から見た梅雨前線の活動と亜熱帯高気圧の振るまい）	沖縄台	仲本正隆・他2
	寒冷前線による大雨の総観的モデル	沖縄台	長田正・他3
	大雨時における降水強度の周期性	沖縄台	長田正・他
	判別解析法による夏期（7、8、9月）の雷雨予報法（第2報）	沖縄台	長田正・他
	850mb温度及び500mb高度と強雨の関係	石垣島	正木譲・他
	波動性低気圧のエコーパターン（冬期の発達する型）	宮古島	小禄昌男・他
	波動性低気圧のエコーパターン（冬期の発達しない型）	宮古島	平岡秀康・他
	波動性低気圧のエコーパターン（春期の発達型）	宮古島	池村恵治・他
	寒冷前線、温暖前線に伴うエコーパターン （エコー発達域の平均的な卓越波）	石垣島	大田喬・他
	宮古島レーダーによる短時間雨量予測実験（第2報）	宮古島	島尻勝
	レーダーエコーの発達と衰弱	沖縄台	大島広美・他G
	台風に伴う雨	石垣島	糸数昌文
	沖縄地方における台風の進路別降雨と最大風の分布	沖縄台	鈴木義男・他
	台風に伴うレーダーエコーの分布	沖縄台	恩納則光・他3
	弱い熱帯低気圧および偏東風波動に伴うレーダーエコー分布	沖縄台	恩納則光・他3
	台風経路と与那国島の降水量	与那国	砂川徳松・他
	台風8211（CECIL）の発達とそのエコー	石垣島	渡邊典昭
	着氷予報の定量的表示と事例解析	那覇航	下地朝勇
	1982年9月10日の風の不連続	宮古島	市成隆・他

第11号 1983.2 昭和58	1982年11月19日に那覇空港付近で発生した突風	那覇航	与那覇定吉
	宮古島地方の雷	宮古島	根間俊明
	南大東島の最低気温出現の特性と霧	南大東	源河博・他
	沖縄における気候変動	沖縄台	高良初喜
	沖縄地方における強い台風の経年変化	沖縄台	天久建二・他
	高層資料から見た石垣島の気候（第一報）	石垣島	河野敦
	南西諸島の上層風の特性（その2）	南大東	真玉橋長紀
	那覇における春から初夏にかけての降水量の予測	琉大	朝倉明・他
	高層資料から見た南大東島の入・出梅	石垣島	菊池健晴
	日照時間と雲量との関係	沖縄台	座間味忠
	Druyan Instability Indexと那覇の天気	琉大	中村功
	那覇の冬期雲量	琉大	知念良和・他
	石垣島地方における波浪注・警報と風の比較	石垣島	金城博明
	南大東島における塩風害	南大東	大城尚
	台風接近時の潮汐及び波浪	琉大	柴山拓也・他
	中城湾泡瀬沖における潮流の構造	琉大	風間洋・他
	那覇におけるオゾン全量の季節変化（第1報）	石垣島	外間寛喜

号・年月	項目	所属	著者
第12号 1984.2 昭和59	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第3報） （気象衛星からみた盛夏期の雲の分布）	沖縄台	仲本正隆・他3
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第4報） （鉛直断面図からみた亜熱帯高気圧の特徴）	沖縄台	仲本正隆・他3
	亜熱帯高気圧の動向（那覇の多雨年・1975年夏期）その1 （高度・気温の偏差及び湿数の東西断面解析）	宮古島	平岡秀康・他
	亜熱帯高気圧の動向（那覇の多雨年・1975年夏期）その2 （那覇及び石垣の高度・気温偏差と湿数の時系列解析）	宮古島	小禄昌男・他
	亜熱帯高気圧の動向（那覇の多雨年・1975年夏期）その3 （多雨半旬と少雨半旬の高度・気温の偏差及びT-Tdの断面解析）	宮古島	下地利長・他
	亜熱帯高気圧の動向（梅雨期の多雨年）	与那国	宮平操・他2
	亜熱帯高気圧の動向（梅雨期の多雨年の最少雨量半旬）	与那国	玉城潤二・他3
	亜熱帯高気圧の動向（少雨年）	石垣島	屋良善福・他
	亜熱帯高気圧の動向（梅雨期の少雨）	南大東	東江秀明・他
	南西諸島の季節風エコー	沖縄台・他	下地朝勇・他2
	エコーパターン	宮古島	島尻勝・他G
	合流現象を伴うエコーのQ分布	沖縄台	大島広美
	台風の中心付近のエコーの振舞い	宮古島	市成隆・他G
	南西諸島域における冬期900mb面の強風	南大東	真玉橋長紀
	先島地方の季節風	石垣島	大仲浩夫
	与那国島の冬期季節風の吹き出しの予測法	与那国	宮平操・他
	昭和58年3月20日の大雨	宮古島	島尻勝・他G
	雲解析図にみられるトランスバース・ラインの出現特性	那覇航	正木譲・他
	衛星画像（SDUS）とレーダーエコーの対応	沖縄台	仲吉良功・他
	ゾンデ観測気球のB.B（破裂）点	石垣島	菊池健晴
	大東島地方の風の特徴	南大東	東江秀明
	南大東島における最大風速と最大瞬間風速	南大東	平良隆明・他
	沖縄県地方の大雨時（主に梅雨期）の総観場の特徴	南大東	与座朝睦・他
	低気圧に伴う大雨の総観モデル（梅雨期を中心とした）	沖縄台	長田正・他3
	沖縄本島地方における大雨の短期間予測式	沖縄台	恩納則光・他4
	那覇における降雨特性とその予報（第二報）	琉大	朝倉明・他
	雲解析とアメダスによる石垣島の大雨の短時間予測	石垣島	大田喬・他2
	Abe & Nakazawa（1982）の方法による台風予報	琉大	楠本和則・他
台風の接近と相当温位	石垣島	渡邊典昭	
衛星画像（SDUS）からみた台風8305	沖縄台	仲吉良功・他	
台風8310号に伴うたつ巻の解析	沖縄台	嶺井政康・他2	

第12号 1984.2 昭和59	那覇空港における雷電	那覇航	亀谷長勇・他
	沖縄本島地方における冬期の曇雨天	沖縄台	下地朝勇・他3
	沖縄本島地方における冬期の曇雨天予測	沖縄台	下地朝勇・他3
	冬期の沖縄地方の特徴的な天候	沖縄台	下地朝勇・他3
	名護の気候	琉大	石島英
	名護市街地の大気境界層の気象観測	琉大	松谷昌享・他
	石垣島地方の雨量分布	石垣島	金城博明
	石垣における水の収支	石垣島	糸数昌文
	沖縄本島における面積雨量の地域別評価	琉大	宇栄原齊・他
沖縄本島沿岸における有義波高の推算	沖縄台	座間味忠	

号・年月	項目	所属	著者
第13号 1985.2 昭和60	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第5報） （沖縄の梅雨の天候と梅雨型）	沖縄台	仲本正隆・他3
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第6報） （平均雲量の示す亜熱帯高気圧の領域と季節変動）	沖縄台	仲本正隆・他3
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第7報） （気象衛星の雲域からみた亜熱帯高気圧の変動）	沖縄台	仲本正隆・他3
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第8報） （高層風ベクトル平均場と亜熱帯高気圧の動向）	沖縄台	仲本正隆・他5
	亜熱帯高気圧の構造解析（1963年夏期・少雨年）	石垣島	仲大底安英・他
	亜熱帯高気圧の構造解析（梅雨期の多雨年の風の鉛直断面図解析）	与那国	宮平操・他
	亜熱帯高気圧の動向（那覇の多雨年、1975年夏期）その4 （南北断面の特徴）	宮古島	小禄昌男・他
	夏期の沖縄地方における短時間強雨	沖縄台・他	下地朝勇・他2
	上層寒冷渦の構造（事例解析）	沖縄台	下地朝勇
	台風8410号	沖縄台	上江洌司・他2
	アメダス資料を用いたの発散・うず度・気温偏差とレーダーエコーとの対応	沖縄台	天久建二
	日本における風のベクトル平均値	石垣島	河野敦・他
	宮古島地方における台風域内の風速予測	宮古島	島尻勝
	宮古島地方の強雨の特性	宮古島	下地利長
	那覇空港における風向・風速の変化特性	那覇航	玉那覇正繁・他
	宮古島レーダーで観測された異常伝搬に伴うエンゼルエコー	宮古島	島尻勝・他G
	パソコンを使った沖縄レーダーのデジタル化	沖縄台	佐々木正和
	気象衛星資料に見られる活発な対流雲と上層資料の対応	沖縄台	金城博明・他3
	SDUSデータを利用した雨予報のための基礎調査	沖縄台	金城博明・他3
	降雨水膜による減衰とビーム高度の影響	沖縄台	与那城重雄・他G
	レーダーエコーの出現分布	沖縄台	富村盛宏・他G
	アメダス日照とジョルダン日照	南大東	平良隆明・他
	短時間強雨と潮の干満、及びレーダーエコー	石垣島	大仲浩夫・他
	夏期のわか雨	南大東	東江秀明
	低い雲底高度の判別解析による予測	那覇航	与那嶺実・他
	南大東島における「きび収穫」と雨量	南大東	菊池健晴
	夏期の雷電（熱雷）	那覇航	亀谷長勇
	南大東島における雷雨	南大東	志堅原健
	宮古空港における低シーリング	宮古空	根間俊明・他
	宮古島レーダードームの降水皮膜による受信電力の減衰	宮古島	上地正秀・他G
	南大東島における地震	南大東	棚原勝・他2
	沖縄本島の降水量と水蒸気輸送量	琉大	石島英
	主成分解析による慶良間列島付近の潮流構造に関する研究	琉大	小平進・他
球後琉渦の定常から乱流域への遷移	琉大	山下徹浩・他	
那覇における降雨特性とその予報（第三報）	琉大	松川宗夫・他	
GMS半月平均雲量によるITCZに関する若干の統計（中間報告）	沖縄台	仲吉良功	

号・年月	項目	所属	著者
第14号 1986.2 昭和61	気象衛星画像の短時間予報（雨）への利用方	沖縄台	下里明次・他6
	気象衛星画像（赤外強調）による降水量の大まかな予測	沖縄台	喜納宏之・他6
	気象衛星赤外画像を用いた大雨（全域的な雨）の事例解析	沖縄台	新里博美・他6
	TAPERING CLOUDの発生源の分布	沖縄台	下地朝勇
	TAPERING CLOUD SYSTEMの構造と大雨（1985年4月6～7の事例）	沖縄台	下地朝勇
	シビアー・ウェザーを誘発するテイパリングクラウドの発生と持続性	沖縄台	大田喬・他2
	大雨注・警報の地域細分発表の可能性	沖縄台	小禄昌男・他
	1985年7月18日の落雷	沖縄台	新里博美・他
	1985年9月26日の大雨	沖縄台	新屋勉
	短時間強雨の特性	南大東	東江秀明
	昭和60年4月16日の大雨	南大東	菊池健晴
	降雨に伴うレドーム水膜によって生じる受信電力の減衰（第2報）	宮古島	上地正秀、他G
	宮古島におけるレーダーエコーの出現分布	宮古島	島尻勝、他G
	レーダーエコーの走向と高層風との関係	石垣島	比嘉恒貞・他
	寒冷前線に伴うレーダーエコーの発達・衰弱とその移動	沖縄台	大島広美
	降雨水膜による受信電力の減衰	沖縄台	与那城重雄、他G
	1984年4月8日に宮古島で観測された突風とレーダーエコー	宮古島	島尻勝、他G
	石垣島で観測されたエンゼルエコー	石垣島	土井元久
	レーダーエコーの出現分布（沖縄、宮古島、石垣島、3レーダーの合成）	沖縄台	大島広美、他G
	組織化されたレーダーエコー（大雨時）とアメダス風との関係	沖縄台	上江洌司・他
	沖縄本島地方の風の特性	沖縄台	洲鎌昭雄・他2
	宮古島の弱風時の突風	宮古島	下地利長・他
	南大東島の地台と空港の風の比較	南大東	宇江城香・他
	石垣島地方における風の地域特性	石垣島	崎原一哲・他2
	宮古島の冬期季節風の予測	宮古島	豊見山浩・他
	神山島の風向風速と沖縄気象台及び泊浄水場の風向風速	沖縄台	平良隆明・他
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第9報） （亜熱帯高気圧の鉛直軸とその季節変動）	沖縄台・他	仲本正隆・他6
	沖縄地方の天気および亜熱帯高気圧の動向（第10報） （多雨涼夏年と少雨暑夏年におけるうず度と水平発散の特徴）	沖縄台	仲本正隆・他5
	東太平洋赤道海面水温と沖縄地方の天候	沖縄台	大城繁三・他7
	北太平洋海面水温と那覇の夏期気温との関係および長期予報への利用法	沖縄台	瀬良垣均
	那覇上高層の平年の状態	沖縄台	平良昌弘、他
	石垣空港の低い層雲（霧を含む）	石垣空	安次嶺一彦
	南大東島の移流霧	南大東	東江秀明・他
那覇空港におけるマイクロバースト	那覇航	宮平操・他	
南大東島における台風による総降水量の統計	南大東	座間味忠	
COMPUTER CONTOUR ANALYSISから見た台風の進路特性	琉大	上間博・他2	
那覇における天気のINDEX化（第3報）	琉大	宮城浩美・他2	
アデス～パソコンのオンライン化	沖縄台	佐々木正和・他2	
気温、露点、およびT-TDの2階差分と降水	石垣島	渡邊典昭	
石垣島と西表島の降水特性と下層水蒸気輸送におよぼす地形効果	琉大	石島英・他	

号・年月	項目	所属	著者
第15号 1987.1 昭和62	沖縄地方の大気および亜熱帯高気圧の動向（第11報）	沖縄台	大城繁三・他10
	沖縄地方の大気および亜熱帯高気圧の動向（第12報）	沖縄台	大城繁三・他10
	沖縄地方における冬期（1月）の高温多雨年と低温少雨年	沖縄台	大城繁三・他10
	偏東風波動による悪天（基礎的調査）	石垣島	砂川信広・他
	沖縄地方の異常天候と亜熱帯高気圧に関する解析的研究 （季節別に見た南西諸島の少雨出現パターン）	宮古島	垣花吉彦・他2
	北西太平洋海面水温による台風接近数の予想	沖縄台	瀬良垣均
	南西諸島の冬期の異常高温・低温	与那国	与那覇勲・他
	与那国島の風の特性第1報（平均及び最大風速）	与那国	喜納宏之・他

第15号 1987.1 昭和62	南西季節風時の与那国島の風	与那国	喜納宏之・他
	台湾島地形による西進台風地上構造変容の数値実験	琉大	石島英
	台風8613号の台風域内における地上風速分布の解析	那覇航	浜里芳光・他2
	台風に伴うレーダーエコー分布	宮古島	島尻勝、他G
	台風指向流の電算機による客観化	琉大	松田直・他
	台風接近に関する知られざる特徴	沖縄台	新里博美・他2
	北風及び南風による那覇の気温	沖縄台	東政秀
	850mb気温と日平均気温の関係	沖縄台	神谷保・他4
	500mb高度と日平均気温との関係	沖縄台	神谷保・他4
	島上の水資源（降水）の推測の試み	琉大	石島英・他
	レーダーエコーを利用した視程のBM予報法	那覇航	宮平操・他2
	沖縄本島における大雨の地域特性	沖縄台	亀谷長勇
	与那国島の降雨特性	与那国	与那覇勲・他3
	那覇における降雨量の500MB高度への依存性	琉大	仲原満・他
	1986年5月13日の沖縄地方の大雨	沖縄台	新屋勉
	1986年9月23・24日の豪雨による那覇市の水害	沖縄台	下地朝勇
	移動平均半旬降水量から見た南西諸島の降雨特性（1）	南大東	与那嶺実・他
	移動平均半旬降水量から見た南西諸島の降雨特性（2）	南大東	与那嶺実・他
	宮古島地方の降雨特性	宮古島	豊見山浩・他2
	南大東島における冬季季節風の一特性	南大東	与那嶺実
	南大東島における最高気温予測の予備調査	南大東	座間味忠
	南大東島と北大東島の風の比較	南大東	伊良皆邦夫・他
	デジタルレーダーエコーの補外による細分域内の雨量予測（その1）	沖縄台	大田喬・他2
	デジタルレーダーエコーの補外による細分域内の雨量予測（その2）	沖縄台	大田喬・他2
	デジタルレーダーエコーの補外による細分域内の雨量予測（その3）	沖縄台	大田喬・他3
	測器変更および高さの変更に伴う風速観測値の検討	南大東	山川武夫・他
	前線通過予想	南大東	山田貞光
	南大東島の放射霧	琉大	石島英・他
	南大東島における地霧（低霧）	南大東	菊池健晴・他
	那覇空港における移流霧の発生と海水温度の関係	那覇航・他	与儀実・他
	与那国島近海における低気圧発生の事例	与那国	金城博明・他
	那覇における天気のINDEX化（第四報）	琉大	宮城浩美・他
	沖縄本島地方における異常乾燥注意報の基準値の代表性	沖縄台	玉那覇正繁・他2
	1986年3月7日の異常乾燥（沖縄全域）	沖縄台	慶世村清記・他
相当温位から見た石垣島の気象	石垣空	洲鎌昭雄・他	
異常伝搬における屈折率	沖縄台	与那城重雄	
レードーム水膜による発信電力の減衰に関する調査用装置	石垣島	福原兼明・他	
気象と蝶の移動--（海を渡る蝶）--	沖縄台	嶺井政康・他	
石垣島上層における極大風速面	石垣島	石垣正祐・他G	
宮古島上空で観測された顕著な晴天乱気流の解析	那覇航	久根次清一	
那覇空港付近における乱気流	那覇航	仲本正隆	

号・年月	項目	所属	著者
第16号 1988.2 昭和63	沖縄本島地方の霧	沖縄台	下里明次・他4
	1987年3月29日～30日にかけての濃霧の事例解析	沖縄台	下里明次・他4
	春から梅雨にかけての天候	沖縄台	東政秀
	半旬降水量からみた南西諸島の降雨特性（3）	南大東	与那嶺実・他
	宮古島地方の寒候期の雨天	宮古島	下地利長・他
	南西諸島の少雨の地域特性	宮古島	亀谷長勇・他2
	航空機の離着陸に大きな影響を与える風	那覇航	与儀実・他2
	前線通過時におけるRVRの変化傾向	那覇航	仲間昇
	那覇空港のWIND SHEAR	那覇航	新垣勝久・他2
	那覇空港周辺の低層乱気流、ウィンドシャー	那覇航	宮平操・他2
	那覇空港周辺の低層乱気流、ウィンドシャー（その2）	那覇航	宮平操・他2
	雲画像情報図を利用した降水予報のための基礎調査（その1）	沖縄台	正木謙・他4

第16号 1988.2 昭和63	雲画像情報図を利用した降水予報のための基礎調査（その2）	沖縄台	正木讓・他4
	1987年5月11日、5月22日の大雨	沖縄台	正木讓・他4
	強風継続時のじょう乱別アメダス風モデルと高層天気図モデル	沖縄台	東江秀明・他2
	神山島における強風の特徴	沖縄台	源河博・他3
	与那国島における風と日照の関係	与那国	平良繁典・他
	石垣島地方の強風の特徴	石垣島	仲大底安英・他2
	じょう乱別の強風継続時間	沖縄台	銘苺真正・他2
	沖縄本島地方に於ける強風出現の地域性	沖縄台	玉那覇正繁・他3
	南大東島における地上風と海上風の比較	南大東	浜里芳光・他3
	大東島地方における強風の統計的調査	南大東	与那嶺実・他G
	与那国島の風の特徴 第2報（台風による風）	与那国	喜納宏之・他2
	与那国島測候所と同空港出張所の風の比較	与那国	根間俊明・他2
	東シナ海南部で発生したMeso- α -cloud systemの周辺	沖縄台	下地朝勇
	東シナ海の冬期季節風吹き出し方向に直交するロール状対流雲の発生	沖縄台	高嶺武
	雲発生源の移動	沖縄台	正木讓・他4
	南西諸島の多雨と500mb月平均図の特徴	石垣島	崎原一哲・他
	南西諸島の多雨と500mb月平均図の特徴（その2）	石垣島	崎原一哲・他
	那覇における降雨の500MB高度への依存性	琉大	下地正樹・他
	エコー出現率と探知率の距離による低下	沖縄台	与那城重雄・他G
	レーダーエコーの出現分布	宮古島	比嘉正則・他G
	レーダーエコー分布のビーム障害補正	石垣島	福原兼明
	沖縄本島沿岸の潮時差に関する一考察	琉大	比嘉貴一・他
	ジョルダン式日照計と回転式日照計の比較	沖縄台	田場勝一・他2
	移動性高気圧と石垣島の天気（第1報）	石垣島	洲鎌昭雄・他
	偏東風波動による悪天の予測（第2報）	石垣島	屋良善福・他2
	赤道対流活動が及ぼす沖縄地方の夏期の天候	沖縄台	佐々木正和・他
	寒冬・暖冬年と低緯度循環の特徴	沖縄台	平敷兼義・他
	沖縄の梅雨期における亜熱帯高気圧の動向	沖縄台	平沼洋司・他
	沖縄地方の春期の天候に及ぼす亜熱帯高気圧の影響	沖縄台	上江洌司・他2
	沖縄地方における秋期（10・11月）の多雨年と少雨年の特徴	沖縄台	上江洌司・他2
台風指向流算出の電計算機による客観化（第二報）	琉大	下田昭郎・他	
台湾地形による台風地上構造変容の数値シミュレーション	琉大	石島英	

号・年月	項目	所属	著者
第17号 1989.2 平成1	熱帯域（主に西部・中部太平洋）の海面水温と沖縄地方の天候	沖縄台	比嘉貞夫・他2
	冬期熱帯における対流活動と沖縄地方の天候	沖縄台	佐々木正和・他2
	冬期の沖縄地方における高温多（少）雨月・低温少（多）雨月の環境解析	沖縄台	下地朝勇・他2
	地上気象要素からみた梅雨の入りと明け（第1報）	那覇航	慶世村清記・他
	週間降水予報の基礎調査	沖縄台	當間浩・他
	亜熱帯地方における降雨と静止気象衛星から見た積乱雲やそのクラスターの振舞（第1報）	南大東	銘苺真正・他
	那覇における天気INDEXの利用	琉大	瑞慶覧勝利・他
	台風周辺の客観的タイプ分け予報精度	琉大	川口慎二・他
	移動性高気圧の北偏等による東風の最大風速の予測	沖縄台	平沼洋司・他3
	東シナ海低気圧などによる南風の最大風速の予測	沖縄台	平沼洋司・他3
	大陸高気圧による北風の最大風速の予測	沖縄台	平沼洋司・他3
	南大東島における地上風と海上風の比較（第2報）	南大東	浜里芳光・他
	南大東島における地上風と海上風の比較（第3報）	南大東	浜里芳光・他
	宮古島地方における風の地域特性	宮古島	真木永作・他
	与那国島における風の予測 - 主に冬季の季節風 -	与那国	根間俊明
	宮古島地方の寒候期の雨天（2）	宮古島	下地利長・他
	1988年4月28日宮古島地方の集中豪雨	宮古島	亀谷長勇・他
	日本域モデル（JSM）の予想雨量	沖縄台	大城尚・他3
	JSM予想雨量を利用した降水短時間予報の予備調査	南大東	金城勝重・他
	高層資料から見た与那国島の日照	与那国	平良繁典・他

第17号 1989.2 平成1	宮古島に接近した台風の特性	宮古島	東政秀・他
	台風の気象特性	石垣島	仲大底安英・他2
	台風の経路別雨量（ひと雨）	石垣島	喜屋武一盛・他
	台風8824号周辺部の鉛直構造	沖縄台	正木譲・他3
	台風8824号の降雨帯周辺の構造	沖縄台	高嶺武・他3
	台風8804号と8824号の水平収束・発散の鉛直分布の比較	沖縄台	正木譲・他2
	T8824のレーダーエコーの鉛直分布	沖縄台	与那覇定吉・他G
	マイクロバーストを伴ったテイパリングクラウドの環境解析	南大東	仲本正隆
	沖縄本島地方における風の地形効果	沖縄台	源河博・他3
	久米島測候所と空港出張所の風の比較	久米島	比嘉正弘・他2
	1988年9月7日石垣島に発生した竜巻	石垣島	洲鎌昭雄・他
	南大東島における航空便の欠航と気象	南大東空	宮里勝男
	那覇空港における低層の乱気流とウィンドシアア（第1報）	那覇航	座間味忠・他2
	那覇空港における低層の乱気流とウィンドシアア（第2報）	那覇航	座間味忠・他2
	那覇空港と粟国空港の風の比較	那覇航	新屋盛進・他
	南大東空港と北大東空港の風の特性	南大東空	浜里親久
	ガストフロント - WINDSHEAR遭遇機報告から -	那覇航	与那覇勲・他
	寒冷前線の南側（暖域）で発生した突風	下地空	与那城重雄・他G
	雷雨時の気象解析	那覇航	東江秀明
	レーダーエコーとアメダス降水量の比較	沖縄台	白石幸嗣
	降雨に伴うレドーム水膜によって生じる受信電力の減衰	宮古島	神谷保・他G
	レドーム水膜による受信電力の減衰	石垣島	福原兼明・他
	南大東島におけるサトウキビ生産高と気象	南大東	仲本正隆・他
	桜の開花と気温との関係の一考察	与那国	前鹿川勇明・他
	東アジアの季節観	琉大	石島英
	西表島における年・月降水量の「平年値」	西表島・他	前津正雄・他2
	石垣島上空の気温較差	石垣島	石垣正祐・他2
与那国島から台湾の見える条件	与那国	佐々木靖	
季節風と大航海時代の航海	琉大	石島英	
与那国島の有感地震	沖縄台	立津秀樹・他	
与那国島で観測される最近の地震	沖縄台	新垣盛真・他	
宮古島における脈動及び波高の関係	宮古島	池間英世・他G	

号・年月	項目	所属	著者
第18号 1990.2 平成2	熱帯の対流活動と沖縄地方の天候	沖縄台	大田喬・他2
	熱帯の上層雲量と沖縄地方の梅雨入り	沖縄台	比嘉貞夫
	週間降水予報の基礎調査（その2）	沖縄台	具志堅全盛・他
	上空エコーの出現	沖縄台	山田貞光・他
	GPVを組み込んだレーダーエコー予想図	沖縄台	佐々木正和・他2
	レーダーエコー予想図	沖縄台	島尻勝・他2
	JSM・降水GPVのMOS的活用	宮古島	根間俊明
	南大東島における冬季の放射冷却に伴う最低気温ガイダンスの補正方法（第1報）	南大東	糸数俊一・他3
	宮古島における暖候期の大雨（短時間の降雨特性）	宮古島	宮平操・他
	宮古島における暖候期の大雨（その経験的再現期間）	宮古島	宮平操・他
	石垣島地方の気温特性（第1報）	石垣島	小成英造・他
	与那国島の日照	与那国	砂川信広
	与那国島の日照・降水に及ぼす台湾山脈の影響の一考察	石垣島・他	前泊正純・他
	台風の経路	石垣島	三蔵永助
	台風の経路別雨量（第2報）	石垣島	与儀実
	T8919による先島地方の風速の南北分布	沖縄台	下地朝勇・他8
	T8919の雲分布と沖縄地方の雨量分布およびその中心近傍の雲頂温度（TBB）分布	沖縄台	下地朝勇・他6
	T8919の中心およびその周辺のRADAR ECHOの時間変化や各STAGEにおけるGMS画像による雲分布の特徴	沖縄台	下地朝勇・他6

第18号 1990.2 平成2	T8919の北～東象限、T8921の北東と南西象限の鉛直構造	沖縄台	下地朝勇・他8
	T8824の中心付近の雲頂温度（TBB）の変化およびその北東～北西象限における風速・雨量等の時系列	沖縄台	下地朝勇・他6
	台風周辺におけるAMeDASによる風速・雨量等の分布（中間報告）	沖縄台	下地朝勇・他8
	T8824のレーダーエコー、アメダスによる推定雨量の分布	沖縄台	与那覇定吉・他6
	電波の降水通過による減衰の補正（T8824のレーダーエコー）	沖縄台	白石幸嗣
	弱い台風8922号のSPA-WINDとらせんエコーの形成	宮古島	技術課レーダー班
	上層寒冷渦が弱い熱帯低気圧（TD）に発達したじょう乱周辺の降雨状況とその構造（その1）	沖縄台	下地朝勇・他3
	上層寒冷渦が弱い熱帯低気圧（TD）に発達したじょう乱周辺の降雨状況とその構造（その2）	沖縄台	下地朝勇・他3
	南大東島の霧の統計的特性	南大東	銘苅真正・他2
	1989年5月11日～13日にかけての濃霧の事例解析	那覇航	赤嶺昇・他2
	那覇空港における強風	那覇航・他	仲大底安英・他4
	1989年5月11日・12日の石垣島付近でのSt発生状況とその雲底の傾き	石垣空	嶺井政康・他
	那覇空港における強風の吹き始めと終わりの予測	那覇航	豊見山浩・他
	那覇空港における低層の乱気流とウィンドシア（第3報）	那覇航	座間味忠・他
	那覇FIRの乱気流	那覇航	宇江城香・他
	航空機からの雲の観測	那覇航	友利健・他2
	那覇における冬期の地上気象要素と量的天気評価	琉大	矢部健・他
	宮古島における梅雨期の降水量の変動	宮古島	浜里恒幸・他
	雨日数からみた宮古島の気候特性及び降水量の経年変化	宮古島	玉城善伸・他
	宮古島の天候と甘藷への影響	宮古島	東政秀・他
沖縄上空のオゾン全量と気温変化	沖縄台	知念浄・他	
波浪注意報	沖縄台	喜納宏之・他	
宮古島近海における地震活動の特徴	宮古島	下地政永・他	

号・年月	項目	所属	著者
第19号 1991.2 平成3	熱帯の対流活動と沖縄地方の天候（その2）	沖縄台	大田喬・他2
	グローバルに見る低緯度帯の大気還流構造	琉大	仙波淳・他
	宮古島の夏期（7、8、9月）の降雨時間	宮古島	宮平操・他2
	週間降水予報の基礎調査（その3）	沖縄台	大仲浩夫・他
	降水短時間予報の基礎知識	沖縄台	仲本正隆・他2
	寒冷前線の降雨モデル	沖縄台	新屋勉
	ガイダンス（最少湿度）の検証	沖縄台	大城盛
	南大東島における冬季の放射冷却に伴う最低気温ガイダンスの補正方法（第2報）	南大東	糸数俊一・他3
	石垣島地方の気温の地域特性	石垣島	与儀実・他
	与那国島の風に及ぼす台湾山脈の影響の一考察	与那国・他	大浜長剛・他
	与那国島における強雨特性	与那国	砂川信広・他2
	台風発生数の時空間変動	琉大	石島英
	台風9015号の地上要素と雲画像情報図からみた特徴	宮古島	石垣雅和・他
	台風9015号のアイウォール付近のエコー	宮古島	高嶺武・他8
	T9015の南、T9019の西象限内の風と相当温位の鉛直構造	沖縄台	下地朝勇・他9
	T9015の北西～南東象限及びT9019の東・西象限内の風速・雨量分布	沖縄台	下地朝勇・他9
	沖縄地方を通過した台風の風・時間雨量分布	沖縄台	下地朝勇・他9
	先島地方を通過した強い台風のRadar Echo分布とAMeDAS雨量分布の対応	沖縄台	下地朝勇・他7
	Radarで見たT9015とT9019の眼及びその周辺の変化	沖縄台	下地朝勇・他7
	T9015とT9019の中心付近における東西断面の雲頂温度分布の鉛直時間変化	沖縄台	下地朝勇・他7
沖縄地方を通過あるいは転向した台風の中心及びその周辺の雲分布（TBB）	沖縄台	下地朝勇・他7	
CHARACTER DISPLYによるT9015・T9019の中心付近の水平温度分布及び眼の形状の時間的変化	沖縄台	下地朝勇・他7	

第19号 1991.2 平成3	総観規模のCLOUD VOLTEXとそれを構成するCLOUD BAND内に発生したT8912の合体過程やその後の振る舞い	沖縄台	下地朝勇・他
	T8613の周辺における風及び相当温位の鉛直時間変化	沖縄台	下地朝勇・他
	1989年8月10日に那覇空港で発生した突風	那覇航	仲大底安英・他2
	逆転層 - 主としてBriefingのために -	那覇航	銘苺真正
	じょう乱度エコー情報の基礎調査 (空港気象レーダー)	那覇航	比嘉正則
	下地島空港における寒冷前線通過時の突風	下地島空	下地島空出
	与那国島における航空便の欠航と気象	与那国空	下里明次
	メソ擾乱の事例解析	石垣島	洲鎌昭雄
	赤外線放射温度計による海表面水温の観測	琉大	古堅雅章・他
	先島地方の黄砂	与那国空	真栄里玄光・他
	レーダーエコーの統計 (エコー頂高度の度数分布)	石垣島	福原兼明・他3
	宮古島近海のTapering cloud	宮古島	新垣勝久・他
	南大東島における安定度の季節変化	南大東	比嘉恒貞・他
	沖縄県地方へのミカンコミバエの侵入と気象の影響	石垣島	嶺井政康
	モクマオウの偏形から見た宮古島の局地気流の特性	宮古島	正木譲・他
	那覇におけるオゾンの鉛直分布	沖縄台	野口貢・他2
	12月中の大陸高気圧と季節風吹き出し時の最大風速	宮古島	大浜賢全
	沿岸波浪モデルを用いた波浪注・警報の検討	宮古島	根間俊明・他
	塩分溶解による感雨器の作動 (事例解析)	与那国	平良隆明・他2
	津波伝搬図の作成 (与那国島・西表島)	石垣島	新垣昭二・他
	1986年11月15日の花蓮港沖 (台湾) の地震と津波	沖縄台・他	新垣和夫・他
宮古島北西沖の地震の特徴	宮古島	石垣雅和・他	
宮古島における有感地震	宮古島	玉城善伸	

号・年月	項目	所属	著者
第20号 1992.2 平成4	最近12年間の台風接近と災害	沖縄台・他	下地朝勇・他2
	複雑な動きをした台風の統計	沖縄台・他	下地朝勇・他2
	1991年中に接近した台風による沖縄本島付近の降水量分布	沖縄台	野村竜一
	南大東島における台風用ノモグラムの作成	南大東・他	比嘉恒貞・他2
	台風の突風率	宮古島	根間俊明・他
	宮古島地方の台風による降水量	宮古島	洲鎌昭雄・他3
	類似台風抽出等台風検索データベースの試作	琉大	福田和信・他
	台風境界層内の風速分布モデル	琉大	石島英
	台風時における潮位の変化	宮古島	大浜賢全
	沖縄地方における週間天気予報 (降水) の精度評価	沖縄台	下地朝勇・他2
	週間天気予報 (気温) の精度評価	沖縄台	下地朝勇・他2
	1990年2月21日の事例解析	沖縄台	大仲浩夫・他3
	1991年4月6日から7日のメソ天気解析	沖縄台	源河博・他2
	1991年8月10日のメソ擾乱の事例解析	沖縄台	大仲浩夫・他3
	メソ擾乱の解析 (1991年8月27日の大雨)	石垣島	小成英造・他
	冬期 (1, 2月) の強雨をもたらしたじょう乱の解析的調査	石垣島	喜友名正義・他
	東シナ海におけるCBクラスターの追跡	沖縄台	大仲浩夫・他3
	沖縄地方の短時間強雨	沖縄台	大仲浩夫・他3
	1991年8月31日の記録的な大雨	宮古島	洲鎌昭雄・他3
	1990年1月14日の大雨と台湾沖低気圧発生	与那国	玉城潤二・他
	降水短時間予報の基礎知識 (その2) 台風9119号の降雨帯の盛衰	沖縄台	仲本正隆・他3
	降水短時間予報の基礎知識 (その3) 台風9121号のアウトバンドの盛衰	沖縄台	仲本正隆・他3
	宮古島地方における夏場の短時間強雨	宮古島	根間俊明・他3
	停滞前線の暖気側における強雨	沖縄台	白石幸嗣・他
	沖縄地方における暖域内の降雨の特性	沖縄台	下地利長・他
	低気圧の暖域内における強雨	沖縄台	上江洲久雄・他
	デジタル化レーダーサイト近傍におけるエコー強度特性	沖縄台	石川徹
レーダーエコーから見た1991年8月31日の大雨	宮古島	レーダー班	
レーダーエコーの統計 (エコーの移動と高層風の対応)	石垣島	レーダー班	

第20号 1992.2 平成4	1990年3月24日に与那国島で大雨を降らしたテーパリングクラウド	石垣島	嶺井政康
	レーダーエコーの移動速度を利用した地上風及び地上気温の事例解析	那覇航	比嘉正則
	那覇空港における風の急変（第1報）	那覇航	座間味忠・他
	寒冷前線に伴う積乱雲の分布	那覇航	宮平操・他
	粟国空港における月別風向の出現率	那覇航	下地幸雄・他
	移動性高気圧の中心付近の通過に伴う露点温度の急降下現象	宮古空	与那覇勲・他7
	久米島空港の風の特徴	沖縄台	大城武夫・他2
	南大東新漁港の風速と気象台の風速との関係	南大東	玉城真人・他
	与那国島の強風と突風率	与那国	玉城潤二・他5
	沖縄のたつ巻（第1報）	沖縄台	裁吉信
	1991年4月7日久米島具志川村に発生したたつ巻	久米島	松田博之・他2
	宮古島地方気象台で観測される霧	宮古島	志堅原透
	沖縄本島沿岸の波浪の気候学的特性	沖縄台	浜里和男・他
	黒潮上流域における海面熱フラックス I. 定期フェリーの航海日誌資料による海面熱フラックス推算	琉大・他	小賀百樹・他2
	黒潮上流域における海面熱フラックス II. 定期フェリー搭載の自動気象ステーションによる海面熱フラックス推算	琉大・他	小賀百樹・他
	那覇の高層気象の特徴	沖縄台	玉城和男
	ライダー観測	沖縄台	野村竜一・他3
	微弱風時における低高度・角度	石垣島	山田貞光・他
	バナナセセリの大発生と気候的特徴	沖縄台	宮城邦昌
	1990年12月14日花蓮港沖の地震と津波	沖縄台	伊良皆邦夫・他
震源要素の比較（沖縄L-ADESSとISC）	沖縄台	神谷晃・他	
西表島群発地震と潮の干満	沖縄台・他	新垣昭二・他	
那覇における百年間の天候	沖縄台	裁吉信	

号・年月	項目	所属	著者
第21号 1993.2 平成5	沖縄地方における暖域内の強雨	宮古島	根間俊明・他2
	沖縄本島地方の暖域内の降雨帯（その1） 1992年3月4日の事例解析	沖縄台	下地利長・他2
	沖縄本島地方の暖域内の降雨帯（その2） 1992年3月31日の事例解析	沖縄台	下地利長・他2
	暖域内の大雨時のメソじょう乱	宮古島	洲鎌昭雄・他2
	暖域内の強雨（1990年4月11日の事例）	沖縄台	豊見山浩
	東シナ海南部で発生するテーパリングクラウドの概念モデル	沖縄台	白石幸嗣
	テーパリングクラウドの微細構造	沖縄台	源河博・他
	暖域内の雷雨に伴う突風（その1） 1992年4月9日の事例解析	沖縄台	石川徹・他2
	暖域内の雷雨に伴う突風（その2） 1990年5月12日の事例解析	沖縄台	与儀実・他2
	暖域内の雷雨の事例解析（1992年2月15日の事例解析）	南大東	松岡定征・他2
	1992年2月15日の低気圧による強雨	沖縄台	亀谷長勇・他
	寒冷前線に伴う降水 - 前線上に発生するメソじょう乱の振舞い -	沖縄台	天久建二・他
	1992年10月27日～28日にかけてのクラスターの振舞い	石垣島	新里博美・他2
	クラウドクラスターから発生した小規模低気圧 （1992年5月15日の事例解析）	石垣島	笹本豊
	偏東風波動による強雨（1992年7月24日から25日の事例解析）	石垣島	安次嶺一彦
	台湾低気圧発生時の強雨	与那国	宮良武男・他
	台風検索データベースの試作（第二報）	琉大	中島淳志・他2
	台風検索データベースの利用例	琉大	江口晃・他2
	”台風”発生・襲来の季節分布	琉大	石島英・他
	台風9209号と切離寒気コアの干渉現象	宮古島	下地朝勇
	宮古島地方の台風による風	宮古島	小成英造・他8
	台風9120号のアウトターバンドによる降雨	宮古島	石垣雅和・他G
	台風通過に伴う東シナ海ブイロケットの水温変化	沖縄台	新屋盛進・他
台風9119号による喜屋武岬における沿岸波浪の特異な変化	沖縄台	新屋盛進・他	
1992年2月15日の下地島空港の突風	宮古島	石垣雅和・他4	
突風現象とレーダーエコーに関する予備調査 - 平成2年12月31日に暖域内で発生した突風 -	那覇航	砂川友一・他	

第21号 1993.2 平成5	多良間空港における月別風向の出現率	宮古空	真栄里玄光・他2
	石垣空港における横風の影響	石垣空	佐々木靖・他6
	石垣空港における飛行気象状態の調査	石垣空	佐々木靖・他2
	那覇空港における風の急変（第2報）	那覇航	座間味忠・他
	那覇空港と粟国空港における冬期の風	那覇航	神里寛明・他
	下地島空港における低シーリングの出現	下地島空	大城貞昭・他G
	与那国空港における雲高の出現率	与那国空	西銘勇・他2
	レーダーサイト近傍に出現する強いエコー強度	沖縄台	野村竜一・他
	沖縄気象台の新旧両庁舎における風の比較	沖縄台	宮里彦一・他
	沖縄気象台周辺の気温分布	沖縄台	慶世村清記・他
	南大東L/A衛星回線の瞬断と気象	沖縄台	与那城重雄・他2
	沖縄上空における火山噴火の影響度	沖縄台	玉城和男・他3
	沖縄における紫外域日射量とオゾン量との関連性	沖縄台	知念浄
	ピナトゥポ火山噴火以前・以降の那覇の混濁係数	沖縄台	野村竜一
	ピナトゥポ火山噴火による気圧波	沖縄台	野村竜一
	ピナトゥポ火山噴火後の沖縄地方の異常光象	沖縄台	野村竜一
	ライダー観測 第2報	沖縄台	裁吉信・他
	南大東島における放射霧の予測方法（第1報）	南大東	諸見里安三・他2
	石垣島地方の梅雨の特性	石垣島	新里博美・他
	石垣島地方の梅雨の特性－主として期間－	石垣島	真栄田潔志・他
	梅雨期における石垣島の上層の昇温	石垣島	石川三雄・他4
	石垣島上空の圏界面	石垣島	山田貞光・他4
	地域細分のための調査Ⅰ（雨）	宮古島・他G	洲鎌昭雄・他3
	地域細分のための調査Ⅱ（風）	宮古島	洲鎌昭雄・他4
	沖縄本島における局地風の調査（第1報）	沖縄台	浜里芳光・他2
	八重山地方の『片降り（かたぶい）』時における気温の変化	石垣島	嶺井政康・他
	与那国島の気温の地域特性	与那国	宮良武男・他5
	フラクタル解析による宮古島地方の降水の特徴	宮古島	志堅原透・他
	主成分分析から見た気象要素の地域特性	沖縄台	裁吉信
	1992年石垣島近海（西表島近海）の群発地震活動	沖縄台	松島寛・他
	計測報による西表島付近の群発地震	石垣島	真栄田潔志・他
	1992年西表島群発地震のb値と地震による放出エネルギー	沖縄台	上地清市・他
	波照間島、西表島の地震検知力	沖縄台	新垣和夫・他2
南大東島における61A型直視式電磁地震計の地震感知範囲	南大東	佐々木正和・他	
「八重山地震津波」の古文書による遡上高の検討 －1771年（明和8年）4月24日－	沖縄台	大仲浩夫	
沖縄における気温の経年変化	沖縄台	宮里彦一・他	
那覇における100年間の気候解析（第2報）	沖縄台	裁吉信	

号・年月	項目	所属	著者
第22号 1994.3 平成6	石垣空港におけるスコール（第1報）	石垣空	親富祖努・他2
	1993年11月21日のダウンバースト（PIREP）	石垣空	上原修・他
	与那国空港における横風	与那国・他	佐々木靖・他
	那覇空港における横風	那覇航	比嘉恒貞・他2
	那覇空港における冬季の強風	那覇航	諸見里安三・他
	那覇空港における風速の日変化	那覇航	野嵩樹
	与那国島における強風（GPV検証）	与那国	宮良武男・他5
	沖縄本島における局地風の調査（第2報）	沖縄台	豊見山浩・他3
	地域細分のための調査（風）	宮古島	洲鎌昭雄・他3
	地域気象観測所の風－主として風向－	沖縄台	真栄田潔志
	梅雨前線に伴う雲バンドの分裂現象	宮古島	下地朝勇・他
	北太平洋北西海域の上層寒冷渦の発生状況	宮古島	下地朝勇・他2
	地域細分のための調査Ⅱ（雨）	宮古島	洲鎌昭雄・他7
	石垣島の気温変化（ヒートアイランド現象の検証）	石垣島	嶺井政康・他
	乾燥域の流入	石垣島	新里博美・他2

第22号 1994.3 平成6	圏界面と台風	石垣島	山田貞光・他
	台風経路に関する気候学的研究	琉大	朴崙錫・他
	TORNADO-LIKE VORTEXの観察	琉大	津山啓之・他
	黒潮上流域における海面熱フラックス	琉大	小賀百樹・他2
	Ⅲ. 雲分布と海上日射量に対する黒潮の存在効果		
	喜屋武岬波浪計の指向性とその補正	沖縄台	森田穰
	大東島における移流霧の特性	南大東	松岡定征・他2
	マツノザイセンチュウの発生と気象要素の一考察	沖縄台	真栄田潔志
	沖縄地方の月別黄砂の出現回数	石垣島	宮里彦一・他2
	南大東島の土壌中二酸化炭素の濃度測定	南大東	佐々木正和
	1890年（明治23）以降における先島（八重山・宮古群島）海域及び周辺の大地震活動	与那国	松島寛
	那覇FIR内の着氷	那覇航	久根次清一・他
	石垣空港における大気の透明	石垣空	又吉徹実・他2
	那覇空港における視程	那覇航	西栄次郎
	低気圧に伴う強雨（Ⅰ）	沖縄台	亀谷長勇・他2
	低気圧に伴う強雨（Ⅱ）	沖縄台	亀谷長勇・他2
	大東島地方における暖域内の強雨	南大東	松岡定征・他
	暖域内の降水	石垣島	砂川信広
	1994.1.9の沖縄本島地方の大雨（検証）	宮古島	根間俊明・他G
	寒冷前線に伴う降水（第1報）	石垣島	長嶺均・他2
	寒冷前線によるメソ天気系概念モデル作成のための基礎調査	宮古島	根間俊明・他G
	メソじょう乱に伴う因子の検討	与那国	宮良武男・他5
	寒冷前線に対応する帯状エコーの発達・衰弱	宮古島	島尻勝・他2
エコー系の移動方向の変化と強雨域の位置との関係	沖縄台	野村竜一	
上空エコーの出現とエコーの発達・衰弱	宮古島	上地正秀・他G	

号・年月	項目	所属	著者
第23号 1995.3 平成7	沖縄地方の台風に伴う竜巻	宮古島	下地朝勇・他
	台風9416号に伴う宮古伊良部島の竜巻	宮古島・他	下地朝勇・他4
	竜巻の環境に関する調査（中間報告）	沖縄台	諸見里安三・他3
	冬の北陸沿岸における小低気圧の事例解析	沖縄台	樋間道夫・他
	亜熱帯の海上における台風螺旋バンドのメソ解析	沖縄台	樋間道夫・他
	熱帯の海上で長円形の眼を持った台風の事例解析	沖縄台	源河博・他
	上層寒冷低気圧の鉛直構造とそれに伴う天気変化	南大東	大田潤・他
	1994年8月下旬の上層寒冷低気圧	宮古島	池間英世・他3
	対流雲クラスターのブロークン・ライン現象	宮古島	下地朝勇・他2
	1994年12月28日のエコー域の動き	宮古島	与那覇力・他3
	石垣島における台風接近時の高度・気温分布	石垣島	堀川英春・他2
	台湾沖で発生した小規模現象の局地解析	石垣空	上原修・他
	与那国島の強風事例の検討（1994年3月19日）	与那国	砂川徳松・他
	1994年10月11日の大雨	宮古島	喜友名正義・他
	1994年5月27日の大雨	南大東空港分室	當間豊・他3
	1994年の梅雨末期の集中豪雨	石垣島	新里博美・他2
	石垣空港における短時間強雨（1994年7月31日の事例解析）	石垣空	宮里彦一・他
	石垣空港におけるスコール（第2報）	石垣空	親富祖努・他2
	石垣島地方における降水の特性（第1報）	石垣島	渡口治・他
	石垣島地方における降水の特性（第2報）	石垣島	寄合一男・他
	JSM予想降水分布の客観的手法による修正の試み	沖縄台	志堅原透
	POPの補正	南大東	金城勝重・他
	地域細分時のワークシート試案	宮古島	洲鎌昭雄・他
	大雨注・警報のためのワークシート	宮古島	喜友名正義・他
	琉球列島強雨システム	沖縄台	与那覇勲・他G
	琉球列島強雨システム（その2）	沖縄台	亀谷長勇・他G
沖縄本島沿岸の波浪予報の検証	沖縄台	屋良善福・他3	

第23号 1995.3 平成7	南大東島地方気象台と南大東漁港波浪観測所の風の比較	南大東	金城盛男・他
	1994年石垣島地方に接近した台風の潮位	石垣島	大浜賢全
	黒潮上流域における海面熱フラックス IV. 黒潮を横断するフェリー航路に沿った海面熱フラックス分布	琉大理	小賀百樹
	植栽および人工日射遮蔽物近傍の微気象に関する実測調査	琉大工	堤純一郎
	地表面における対流熱伝達の渦相関法による測定	琉大工・他	堤純一郎・他3
	INFRA-EYEによる地表面温度観測	琉大理・教	前田光昭・他
	Fuzzy推論法による台風発生数の予測	琉大理・教	河辺照之・他
	レーダーエコーセルの移動から台風中心位置決定の考察	沖縄台	神谷吉隆
	南大東島における地上風で1000hPaの風を求める実験式	南大東	神谷晃・他
	那覇の降水量の500hPa高度への依存性	琉大理・教	山田健治・他
	南大東島の30年高層データからみた月別変動	南大東	山田貞光・他2
	与那国島に災害救助法が適用された3台風の暴風の特徴 - 台風6518、7128、9413 -	与那国	松島寛
	与那国島の寒候期（10月～3月）における日照時間と曇天	与那国	渡久山春夫・他4
	与那国島空港における横風（その2）	与那国空・他	久手堅憲秀・他3
	石垣島地方における乾燥注意報の代表性	石垣島	新里博美・他2
	緋寒桜の開花	石垣島	川口弘人
	那覇FIR内の着氷（第2報）	那覇航	久根次清一・他2
	那覇における直達日射量	沖縄台	當眞辰彦
	夏至南風による宮古島地方の気象要素	宮古島	下地朝勇・他2
	日本における降雹の記録	沖縄台	仲本正隆

号・年月	項目	所属	著者
第24号 1996.3 平成8	沖縄アイルパターンマッチング法の改良	沖縄台	志堅原透
	アンサンブル予報による1か月予報の検討	沖縄台	与那覇勲・他2
	週間天気予報の降水量予報の検証	沖縄台	新屋勉・他
	宮古島地方の降雨に関する今日予報の検証	宮古島	池間英世・他2
	八重山地方における地域時系列予報を修正した事例	石垣島	前津正雄・他
	沖縄近海で発達する積乱雲の振る舞い（その1） たつ巻の環境に関する調査	沖縄台	玉城和男・他6
	沖縄近海で発達する積乱雲の振る舞い（その2） ろうと雲の環境に関する調査	沖縄台	新垣英世・他6
	長円形の眼をもつ台風で観測された気圧・風の変動の事例解析（続報）	沖縄台	櫃間道夫・他
	台風の移動速度と発達（9503号の場合）	沖縄台	根間俊明・他3
	1995年6月29～30日の本島北部での大雨のメソ解析	沖縄台	松岡定征
	急激に発達したエコーによる局地的強雨の事例解析	下地島空	下地隆義・他5
	寒冷前線の南側で発生したシビアな気象現象（降ひょう、突風、強雨） の事例解析	宮古島	亀谷長勇・他
	南大東島における地上風と海上風の比較	南大東	西原昭二・他2
	南大東島における地上風の地形効果の一考察	南大東	玉城利章・他
	宮古島地方の波浪と風	宮古島	小成英造・他4
	大東島地方沿岸における波高の再現期間	南大東	比嘉正則・他2
	石垣港の潮位偏差	石垣空	大城栄勝・他3
	東シナ海黒潮流入域の海況変動	琉大・他	小賀百樹・他2
	屋外熱環境に関する実測およびアンケート調査	琉大	堤純一郎
	樹木および壁面植栽の熱的効果に関する実測	琉大	堤純一郎
	赤外線放射温度計による地表面温度観測：予備解析結果報告	琉大	ルイス アルバリノ・他
	赤外線放射温度計による地表温度測定の意義と問題点	琉大	石島英・他
	水蒸気画像による上層寒冷低気圧（UCL）	琉大・他	泉陽子・他2
	沖縄本島の西から接近するエコー域の消長	沖縄台	大林正典
	石垣島レーダーにおけるエコー出現パターン	石垣島	寄合一男・他
	台風9514号に伴うレーダーエコー	石垣島	喜屋武一盛
	那覇航空測候所における強風のポテンシャル予測	那覇航	神里寛明・他3
那覇航空測候所における強風の短時間予測	那覇航・他	仲間昇・他4	

第24号 1996.3 平成8	那覇空港の台風時における短時間風速予測	那覇航	當眞辰彦・他3
	那覇FIRにおける乱気流	那覇航	西銘勇・他4
	慶良間空港の風の特性	那覇航	喜舎場正徳・他4
	空港レーダーを利用した突風の調査	那覇航	有銘功・他
	南大東島における雨のばらつき	南大東	登野城淳・他2
	石垣島における降水量の変動	石垣島	小菅裕司・他
	石垣島地方における降水量の特性（第3報）	石垣島	座間味忠
	盛夏期における沖縄特有の雨の降り方（「晴れ所々で雨」の現象）	沖縄台	下地朝勇・他4
	大陸高気圧南縁での晴天域の発生（基礎調査）	沖縄台	下地朝勇・他2
沖縄・札幌のオゾン垂直分布の季節変化	沖縄台	外間實喜・他9	

号・年月	項目	所属	著者
第25号 1996.10 平成8	自動作成された天気予報の検証	宮古島	洲鎌昭雄・他
	沖縄地方の雨に関するガイダンス等の精度に関する調査	沖縄台	大林正典
	沖縄本島中南部と大東島地方の降水有無の予報の検証	沖縄台	玉城眞通・他
	南大東島における雨のばらつき（第2報）	南大東	川門義治・他2
	南大東島における降水の周期性	南大東	安田修・他2
	客観解析で表現された小低気圧の南側で発生した大雨の事例解析	宮古島	亀谷長勇・他
	台風第9514号のアウトバウンド内の気象現象	宮古空	宮里智裕・他3
	楕円形の台風眼の回転と気圧分布の事例解析	石垣島	白石幸嗣
	不安定場の短時間強雨に対応したメソ現象の事例	石垣島	比嘉哲也・他
	石垣島地方のガイダンスと台湾の地形効果	石垣島	玉城潤二
	地方ガイダンスの実用化へ向けて	沖縄台	志堅原透
	1ヶ月予報の検証	沖縄台	天久建二・他2
	暖域内のレインバンド（6月22日の事例解析）	沖縄台	島尻勝・他
	1996年5月9日に発生した晴天乱気流の事例解析	那覇航	大城貞昭・他2
	宮古島地方の気温の地域特性	宮古島	真栄里玄光・他
	宮古島地方気象台における日最大瞬間風速と出現時の気温変化の統計的調査	宮古島	知念浄・他
	沿岸波浪モデルによる宮古島地方の波浪の特性	宮古島	亀谷長勇・他2
	台風の強さに関する統計	沖縄台	金城康広・他
	トロコイダル運動をした台風9609号の進路	石垣島	石川徹・他2
	台風9612号の中心付近における風の変化の特徴	沖縄台	根間俊明・他
	沖縄地方の梅雨入り・明け	沖縄台	諸見里安三・他2
	大東島地方沿岸における波浪	南大東	喜納宏之・他2
	大東島における日照特性	南大東	玉城善伸・他2
	台風時における那覇の上層風と那覇航空測候所の地上風との関係	那覇航	祖慶真行・他4
	実況監視型の短時間予測法の基礎調査 降水による視程障害の検証	那覇航	棚原聡・他
	実況監視型短時間予測法の基礎調査（事例その1） 梅雨期（5～6月）の降水に伴う視程障害	那覇航	城間正友・他
	実況監視型短時間予測法の基礎調査（事例その2） 夏期（7～9月）の降水に伴う視程障害	那覇航	仲間昇・他2
	実況監視型短時間予測法の基礎調査（事例その3） 冬期（1～3月）の降水に伴う視程障害	那覇航	東舟道博昌・他
	途中降雨による受信電力の減衰（その1） －隣接レーダー（名瀬）との比較－	沖縄台	嶺井敏男・他
	途中降雨による受信電力の減衰（その2） －アメダス雨量との比較－	沖縄台	金城盛男・他
	沖縄レーダーと石垣島レーダーのエコー強度比較	沖縄台	山川武夫・他G
	近距離補正後のレーダーエコーの出現	沖縄台	与那覇力・他
	レーダー雨量とアメダス雨量の比較	石垣島	玉城和男・他5
	東シナ海黒潮流域の海上ボウエン比	琉大	小賀百樹
地表面のIR放射率評価の一方法	琉大	ルイス アルバリノ・他	
飛行機搭載赤外放射温度計による地表面温度観測	琉大	石島英・他	

号・年月	項目	所属	著者
第26号 1997.10 平成9	RSM地上風速の精度検証と日最大風速の予想	沖縄台	白石幸嗣・他
	渦状擾乱の影響によりRSMの風予想が不十分であった事例解析	那覇航	大城貞昭
	海上の日最大風速（ガイダンス）の検証	宮古島	大立清俊・他2
	積乱雲下における風向変動（通過後ろうと雲が発生）	那覇航	喜舎場正徳・他
	台風9708号のレインバンド通過時の風速変化	那覇航	宇江城安秀・他
	低気圧通過時の突風	与那国	仲嵩滋・他
	那覇空港の気象特性 R/W18とR/W36との風向差異の出現（基礎調査）	那覇航	洲鎌博昭・他2
	宮古島地方の強風	宮古島	洲鎌昭雄・他2
	気温の下降と突風の関係	宮古島	下地政永・他3
	気温の上昇と風速変化	南大東	末吉秀樹・他2
	最高気温の予測法	南大東	石垣正祐・他2
	平年偏差からみた宮古島地方の気温の特性	宮古島	亀谷長勇・他2
	RSMに於ける「台湾東方の小低気圧」に伴う降水	沖縄台	宮良武男・他2
	降水ガイダンスの精度検証	沖縄台	上江洲久雄・他
	波照間島の集中豪雨 1997年5月1日の事例解析	石垣島	屋比久猛弥・他3
	南大東島地方における強雨の特性	南大東	玉城善伸・他
	那覇の降水量と500hPa面高度の統計的因果解析	琉大教	亀谷典子・他
	南大東島の霧の特性	南大東	仲程正・他
	航空気象予報ガイダンス（視程、雲底高度）の事例検証	那覇航	比嘉正則・他4
	梅雨期における降水を伴う視程悪化予測	那覇航	仲間昇・他3
	冬型の天気ガイダンス（晴れ・曇り）の検証	沖縄台	伊達謙二・他
	沖縄地方の天気に関するガイダンス等の精度に関する調査	沖縄台	大林正典
	週間天気予報ガイダンスの検証	沖縄台	玉城真通・他
	沖縄アイルパターンマッチング法の改良と検証	沖縄台	志堅原透
	沖縄近海に発生したテーバリングクラウドの各ステージの特徴	那覇航	比嘉正則・他2
	テーバリングクラウドの発生期と最盛期の状況	那覇航	棚原聡・他2
	テーバリングクラウドが集中発生した環境	那覇航	砂川徳松・他2
	那覇空港周辺における低層ウィンドシャー（乱気流含む）の統計的調査	那覇航	西銘勇・他2
	担当空域における晴天乱気流（CAT）発生の環境	那覇航	棚原聡・他3
	石垣島上空の逆転層	石垣島	瀬良垣均・他G
	竜巻予報プロトタイプ開発の中間報告	沖縄台	新垣英世・他2
Numerical Experiments of the Binary Interaction of Tropical Cyclone	琉大理	ナタニエル セルバンド・他	
北太平洋西部海域におけるバイナリー台風に関する観測的特徴	琉大理	石島英・他	
台湾地形による寒冷前線の変形	石垣島	金城康広・他5	
黒潮反流域の沖縄－大東間の定期連絡船を利用した海象観測	琉大理・他	小賀百樹・他4	
沿岸海域における風速及び波高の調査	沖縄台	兼次賢栄・他2	
沖縄本島沿岸の波浪概要	沖縄台	森田穰・他2	
台風9713号による高潮（1997年8月16日～18日）	沖縄台	銘苅真正・他6	
石垣島北東沖地震（1958年3月11日）における多良間村内の地震動調査	沖縄台	當間浩・他	
オゾン全量とオゾンの垂直分布の関係（第1報）	沖縄台	外間實喜・他	

号・年月	項目	所属	著者
第27号 1998.11 平成10	パターンマッチング法による本庁降水量ガイダンスの修正	沖縄台	志堅原透
	天気ガイダンス（降水）の補正方法	沖縄台	仲間昇・他2
	石垣島地方の降水確率ガイダンスの精度調査	石垣島	玉城真通・他2
	梅雨期における週間天気予報降水ガイダンスの調査	沖縄台	久根次清一・他
	石垣島地方の本庁ガイダンス（最高気温）の精度検証	石垣島	上地国男
	冬型の天気（晴れ・曇り）に関する地方ガイダンス	沖縄台	砂川友一・他2
	天気ガイダンス（晴れ／曇雨）	石垣島	天久建二
	南大東島における冬季の放射冷却の調査及びガイダンスの検証	南大東	護得久朝健・他4
	主成分分析法を用いた本庁ガイダンスの改善の可能性（平成10年度特別調査研究の中間報告）	宮古島	池間英世・他

第27号 1998.11 平成10	発雷ガイダンスと発雷の対応	石垣空	比嘉正己・他3
	大雨の表現に有効なモデルの気象要素	沖縄台	洲鎌昭雄・他2
	降水の予報で連続3日以上見逃(空振り)した事例	沖縄台	當間豊・他
	海上におけるRSM地上風速の検証(第2報)	沖縄台	白石幸嗣
	RSMにおける小低気圧の過剰発達	沖縄台	中川雅之・他2
	台湾山脈の地形効果による与那国島の気象特性(強風・曇天)	与那国	仲嵩滋・他5
	池間島灯台と宮古島地方気象台の風の比較(その1)	宮古島	小山克人・他
	池間島灯台と宮古島地方気象台の風の比較(その2)事例検証	宮古島	小山克人
	石垣島地方気象台と平久保崎灯台の風の関係	石垣島	宮城邦昌・他
	1998年8月15日の金武湾での強雨	沖縄台	伊達謙二・他
	石垣島上空の逆転層と翌日の降水	石垣島	瀬良垣均・他4
	台湾東岸から先島諸島近海で発生するテーパリングクラウド	石垣島	玉城和男・他3
	沖縄本島沿岸の波浪概要	沖縄台	松岡定征・他3
	第三世代波浪モデルの検証	沖縄台	神里寛明・他2
	南大東島における移流霧	南大東	新垣学・他4
	平成10年7月16日~17日に発生したマイクロバースト(ダウンバースト)の調査報告	南大東	護得久朝健
	平成10年4月20日に観測された露点温度の急下降	宮古島	裁吉信・他G
	宮古島地台管内のアメダス特別値の統計とデータの品質管理への利用の試み	宮古島	重村尚秀・他
	石垣島における蒸発量の基礎的調査	石垣島	新垣秀治・他
	伊原間地域気象観測所における日最高気温の極値更新	石垣島	宮城邦昌・他
	地動ノイズと気象の調査	沖縄台	本間直樹・他
	テリハボクの不時開花	南大東	兼城薫
	オゾン全量の増減と紫外域日射量の増減の関係	沖縄台	知花龍也・他3
	エルニーニョ(ラニーニャ)現象と沖縄地方の天候	沖縄台	渡真利明・他
	平良港の潮位記録から見られる特徴	宮古島	裁吉信
	熱帯の海面水温と台風	沖縄台	座間味忠・他
	バイナリー台風(BTS)挙動の強度およびサイズ依存性	琉大・他	石島英・他
	梅雨期における視程短時間予測ワークシートの検証(中間報告)	那覇航	比嘉正則・他2
	航空地方ガイダンス開発の基礎調査-RSM(風)の特性(中間報告)-	那覇航	又吉徹実・他4
	RSMの風予想がはずれる気圧配置パターン(中間報告)	那覇航	神谷保・他2
RSM降水予想がはずれた事例	那覇航	石垣正祐	
那覇空港に突風をもたらしたエコーの振る舞い(1998年2月17日の事例)	那覇航	砂川徳松	
IMC時のレーダーエコー特性	那覇航	崎濱秀晴・他2	
那覇空港周辺における低層ウィンドシャー(乱気流含む)(第2報)	那覇航	富村盛宏・他2	
1998年1月14日~15日の乱気流	那覇航	宮里義則・他4	

号・年月	項目	所属	著者
第28号 1999.11 平成11	天気ガイダンスの修正方法	沖縄台	金城毅・他3
	週間天気予報ガイダンスとアンサンプル資料の利用法	沖縄台	比嘉恒貞・他
	主成分分析法を用いた本庁ガイダンスの改善の可能性(その2)	宮古島	裁吉信・他
	石垣島地方の風ガイダンスの検証(中間報告)	石垣島	真栄里玄光・他3
	KLMを用いた風のTAF-Sガイダンス開発(第1報)	那覇航	石垣雅和・他2
	TAF-S用ガイダンス開発の基礎調査(風)	那覇航	比嘉正則・他2
	沖縄本島地方における気温の地域特性	沖縄台	杉本昌紀・他
	宮古島地方を通過する寒冷前線に伴うエコーバンドの衰弱特性とRSM予想の検証	宮古島	高嶺武・他2
	低気圧通過に関するRSM予想と実況監視	宮古空	上地正秀・他
	1999年台風第18号の高潮	沖縄台	砂川友一・他2
	石垣島における地上気温の上昇と高層気温の関係	石垣島	武島弘光・他4
	南大東島の降水量とハーベスターの稼働	南大東	砂川徳松・他
	さとうきびの収穫と雨量の関係	南大東	下地源隆

第28号 1999.11 平成11	太平洋高気圧下での沖縄本島地方のアメダス風収束とレーダーエコーとの対応	沖縄台	重村尚秀・他2
	池間島灯台、下地島空港、宮古島及び船舶の風の比較	宮古島	小山克人・他3
	石垣島地方のアメダス風の特性（中間報告） -石垣島地台とアメダス4地点との関係を中心に-	石垣島	福原兼明・他4
	南大東空港における風の特性	那覇航	神谷吉隆・他2
	平成11年7月27日の突風（強風）	石垣島	大城智幸・他2
	1999年3月13日の雷	南大東	諸見田匠・他
	沖縄の竜巻	沖縄台	宮里勝男
	台風接近時の強風の予想	宮古島	小濱俊朗・他
	南大東島の台風ノモグラムの検証	南大東	仲間則智・他
	台風時における沿岸波浪モデルの特性	沖縄台	出牛真・他
	インターネット台風検索	琉大	中村功・他3
	梅雨入り・明けの事後検討調査	沖縄台	安田修・他
	沖縄地方における天候の持続性	沖縄台	安田修・他
	生物季節観測日の変化と気候変動	南大東	喜舎場正徳・他
	南大東島における冬の季節風	南大東	寄合一男・他2
	地動ノイズと気象の調査（第2報）	沖縄台	本間直樹・他
	石垣空港で観測された乱層雲	石垣空	城間康司・他3
	沖縄本島北部地域のサーマルイメージャーによる地表面温度測定	琉大	石島英・他2
	沖縄本島北部森林地帯からの蒸発散量の算定	琉大	木村玲二・他
	定期フェリーを利用した海上風計測とその問題点の検討 （ α -Flowによる船体周辺の気流場変形のシミュレーション）	琉大	小賀百樹・他
	準リアルタイム総合予報検証ソフトの作成	沖縄台	宮城健・他2
	災害事例の分析と気象情報の改善（その1）	沖縄台	宮良武男・他2
	災害事例の分析と気象情報の改善（その2）	沖縄台	新里博美・他2
平成11年台風第18号における災害資料の作成	沖縄台	諸見里安三・他3	
那覇飛行情報区における乱気流（第1報）	那覇航	護得久朝健・他	
那覇飛行情報区における「乱気流チェックシート」の基礎調査（その1）	那覇航	與那覇康司・他3	
那覇飛行情報区における「乱気流チェックシート」の基礎調査（その2）	那覇航	上江洌司・他3	

号・年月	項目	所属	著者
第29号 2000.11 平成12	高潮予測の改善の基礎調査	沖縄台	重村尚秀・他
	大雨警報ポテンシャル予測のための基礎調査	石垣島	仲間昇
	KLMを用いた風のTAF-Sガイダンス開発（第2報）	那覇航	宮里勝男・他2
	航空気象予報ガイダンスの検証（第1報）	那覇航	神谷吉隆
	台湾地形が影響を及ぼす現象の解析的研究（中間報告）	沖縄台	白石幸嗣・他5
	冬季における沿岸波浪モデルの検証（中間報告）	沖縄台	出牛真・他2
	南大東地方気象台と南北両空港の風の比較	南大東	松原富夫・他3
	風速計の変更に伴う台風の突風率の変化	宮古島	奥平貞雄・他
	宮古島地方の海上風の推定	宮古島	小山克人・他2
	宮古島とアメダス観測所の風の特性	宮古島	小山克人・他2
	平成12年1月5日に石垣島で観測された瞬発性突風の事例解析	石垣島・他	當眞辰彦・他2
	与那国島測候所と与那国空港分室との風の比較	与那国	大田潤
	停滞前線近傍での急激な乾燥現象	南大東	砂川徳松・他
	宮古島地方を通過する寒冷前線対応エコーバンドの強度変化と天気図、衛星画像との関係	宮古島	高嶺武・他
	波照間島の集中豪雨（3月10日の事例解析）	石垣島	仲嵩滋
	台風による大雨	那覇航	山田貞光・他
	台風0012号の特徴（速報）	宮古島	垣花和夫・他2
	T0014の眼が変形した可能性を考える	名護	平良直治
	2000年4月20日の霧	宮古空	野嵩樹・他3
	石垣島における地上気温の上昇と高層気温の関係（第2報）	石垣島	城間裕喜・他
	石垣空港で観測された低い雲（St、Cu）	石垣空	比嘉健治・他4
	沖縄地方の地上気温偏差と500hPa高度偏差の関係	沖縄台	安田修・他

第29号 2000.11 平成12	レビューによる塩害に関する基礎調査	沖縄台	出牛真
	視程障害現象による紫外域日射量への影響の事例解析	沖縄台・他	上原一也・他3
	南大東島高層資料から見た入梅	南大東	玉城章・他3
	沖縄本島における都市温暖化現象の検討	琉大	木村玲二
	沖縄における都市の熱収支解析	琉大	下瀬龍・他2
	那覇飛行情報区における「乱気流チェックシート」の作成に向けて	那覇航	平良繁一・他3
	那覇FIRにおけるUCLによるCAT	那覇航	宮里義則・他3
	那覇空港における風の特性（地形等の影響）	那覇航	洲鎌博昭・他2
	気象総合データベースの開発	沖縄台	友利健
	準リアルタイム総合予報検証ソフトの作成（その2）	沖縄台	伊達謙二
	災害データベース検索ソフト	宮古島	玉城利章・他3
	業務効率化のためのソフト開発	宮古島	堀川英春
	防災情報の高度化の基礎調査	沖縄台	金城勝重・他5
	注意報・警報に係わる細分区域の設定（中間報告）	沖縄台	棚原聡・他
	津波地震早期検知網の新観測点の評価	沖縄台	本間直樹
	地震計による石垣島の地盤調査	石垣島	當間浩・他2
	有限要素法を用いた流れの場の解析	宮古島	裁吉信
バイナリー台風の解析	琉大	石島英・他	

号・年月	項目	所属	著者
第30号 2001.11 平成13	降水短時間予想図の利用	宮古島	島尻勝
	KLMを用いた風のTAF-Sガイダンス開発（第3報）	那覇航	伊礼正淳・他2
	那覇空港における視程に関するTAF-Sガイダンスの開発（最終年度中間報告）	那覇航	小山克人・他2
	那覇航空測候所における台風接近時の最大風速ガイダンス開発	那覇航	志堅原透
	夏季の沖縄本島で停滞するメソ対流雲（その1）	沖縄台	新垣秀治・他
	夏季の沖縄本島で停滞するメソ対流雲（その2）	沖縄台	新垣秀治・他
	台湾地形が影響を及ぼす現象の解析的研究	沖縄台・他	白石幸嗣・他6
	冬季季節風時における平久保埼および西埼灯台の風の特性	石垣島	仲間昇・他2
	与那国島測候所と西埼灯台の風の比較	与那国	多良間宣武・他
	南大東島地方気象台の風速の地形特性	南大東	松原富夫・他4
	建物が風に及ぼす影響の統計的調査	石垣島	伊禮義和・他
	石垣空港におけるRWY04とRWY22の風の比較	石垣空	比嘉健治・他3
	与那国空港における滑走路両端の風の比較	与那国空	祖慶真行
	宮古空港の風比較調査	宮古空	上地正秀・他2
	那覇空港におけるガストの特性	那覇航	神谷吉隆・他
	台風時の観測潮位と高潮実験式による潮位の比較	宮古島	垣花和夫
	高潮予測の改善の基礎調査（その2）	沖縄台	重村尚秀・他2
	二次細分のための風の特性調査	石垣島	崎原富好・他
	二次細分のための降水の特性調査	石垣島	裁吉信・他
	週間天気予報での降水量予想頻度分布図と日別信頼度を用いた検証	沖縄台	野村島夫・他
	MSM（メソ数値予報モデル）の検証	宮古島	洲鎌博昭・他
	南大東島における夏期のにわか雨と高層データの特徴	南大東	瀬良垣均・他4
	気温と降水量から見た宮古島の気象の変化	宮古島	奥平貞雄
	白川田地下水盆における湧水量と降水量の関係	宮古島	松瀬光太郎
	南大東島の霧等の発生と2000年5月下旬頃に断続的に発生した移流霧	南大東	砂川徳松・他2
	低高度逆転層に伴う低層雲の出現	石垣島	城間裕喜・他
	高層資料から見た那覇における出梅との関係（第4報）	沖縄台	与那城豊博・他3
	那覇飛行情報区における晴天乱気流	那覇航	上地国男・他7
	防災情報の高度化（中間報告）	沖縄台	喜納宏之・他5
	有限要素法を用いた地形効果の調査	石垣島	裁吉信
	鳩間島臨時観測点の効果	沖縄台	本間直樹
	琉球諸島周辺の海面水温変動と海面熱フラックス	琉大	小賀百樹
	沖縄本島地方の異常潮位	沖縄台	玉城和男・他

号・年月	項目	所属	著者
第31号 2002.11 平成14	台湾東海上で発生するラインエコーの動向	石垣島	友利健・他2
	宮古島地方を通過する寒冷前線の発達・衰弱	宮古島	仲程正・他2
	2002年3月14日の石垣島地方の大雨	石垣島	福原兼明・他2
	2002年7月17日の沖縄本島地方の大雨の事例解析	沖縄台	大浜賢全・他2
	石垣島近海で発生したメソ低気圧に伴う大雨	石垣島	安田修・他
	降水短時間予想図の利用（第2報）	宮古島	島尻勝・他2
	停滞前線の暖域内の降水セルによる大雨	沖縄台	宮里彦一・他2
	夏季の沖縄本島で停滞するメソ対流雲（その3）	沖縄台	新垣秀治・他3
	夏季の不安定性降水をもたらす局地風の事例調査	沖縄台	白石幸嗣・他4
	夏季における宮古島付近の風下に発生する積乱雲	宮古島	松瀬光太郎
	下地島空港で観測された竜巻と漏斗雲	下地島空	平野裕・他
	那覇航空測候所における雷予報精度向上のための調査	那覇航	志堅原透・他3
	台風接近時の最大風速ガイダンスの開発（第2報）	那覇航	志堅原透
	台風時風ガイダンスの検証	那覇航	志堅原透
	飛行場予報及び本庁ガイダンスの予報精度の検証	那覇航	當間浩・他2
	宮古空港の低シーリング	宮古空	国吉真昌・他
	那覇空港における霧発生の条件	那覇航	志堅原透
	那覇FIRにおけるCAT	那覇航	宇江城安秀・他2
	RSM気温ガイダンス（最高・最低）の検証	与那国	多良間宣武
	週間天気予報におけるアンサンブル資料を用いた降水の検討	沖縄台	野村島夫・他2
	アスファルト道路が気温に及ぼす影響	石垣島	宮城健・他
	南大東島における夏期のわか雨と高層データの特徴（その2）	南大東	瀬良垣均・他
	南西諸島における地上気温の経年的上昇と高層気温の関係	沖縄台	野嵩樹・他7
	大東島地方のレーダーエコー出現率	沖縄台	祖慶眞行・他2
	2002年3月から4月の沖縄地方における黄砂観測時の特徴	宮古島	垣花和夫・他
	大東島地方の近海の異常潮位と池の水位の関係	南大東	福原義通・他3
	高潮におけるwave setup効果の物理的研究（第1報）	石垣島	裁吉信
	高潮予測の改善の基礎調査（その3）	沖縄台	宮里勝男・他2
	地形等が風に及ぼす影響の統計的調査	石垣島	親富祖努・他2
	与那国島の西崎灯台における風観測値の地形効果	石垣島・他	裁吉信・他2
暴風・高波警戒時間帯に関する情報の現業化	沖縄台	宮里勝男・他9	
沖縄本島地方の大雨、洪水注意報・警報基準の見直し	沖縄台	新里博美・他13	
沖縄地方の天候特性と各種循環指数との相関関係	沖縄台	草野利夫・他2	

号・年月	項目	所属	著者
第32号 2003.11 平成15	上空の湿り具合と天気の関係	宮古島	上江冽司
	夏季の沖縄本島で停滞するメソ対流雲（その4）	沖縄台	金城康広・他3
	沖縄本島地方における土砂災害と土壌雨量指数の関係	沖縄台	玉城和男・他
	レーダ・アメダス解析雨量の検証	沖縄台	金城康広・他
	警報基準の雨量に関する新大雨ガイダンスの検証	沖縄台	渡口治・他9
	降水短時間予想図の利用（第3報）	宮古島	西村三治・他
	梅雨前線による伊是名島での大雨（事例日：平成15年5月15日）	沖縄台	松瀬光太郎・他2
	梅雨前線上に発生した低気圧による沖縄本島の大雨の事例解析（平成15年6月8日）	沖縄台	古謝秀和・他6
	平成15年6月6日から8日にかけての梅雨前線による石垣島地方の大雨	石垣島	重村尚秀・他
	台湾東海上で発生するライン状エコーの動向（第2報）	石垣島	友利健・他
	宮古島地方を通過する寒冷前線の発達	宮古島	仲程正・他2
	高層気象観測データとウィンドプロファイラ観測データの比較	南大東	平田稔・他3
	SATAIDとWPRを利用したUCLの事例解析	南大東	伊礼正淳・他2
	偏西風擾乱が大東島付近で弱まる現象	南大東	伊礼正淳・他
	地球温暖化時の気候 - 極端な多雨・少雨の発生頻度変化を中心にして -	琉大	米谷恒春
	沖縄地方における7月の気温と大規模循環場及び各種循環指数の関係	沖縄台	當眞辰彦・他2
2002年12月の週間天気予報降雨見逃しの事例解析	沖縄台	屋良一・他	

第32号 2003.11 平成15	1地点の観測点データが震源決定に与える影響	沖縄台	宮城邦昌・他3
	南大東島における移流霧発生の予測	南大東	八木美香・他5
	伊原間地域気象観測所における風の特性	石垣島	大城隆・他2
	大原における低温の出現	石垣島	石垣信昇
	測器変更に伴う突風率の変化	宮古島	佐喜間和夫・他
	監視レーダー「大東地方合成図」の活用	南大東	金城文正・他4
	石垣空港における気象特性（その1） - 石垣空港における風の特性 -	石垣空	宮城健・他3
	久米島空港の気象特性（風の特性）	久米島空	山口直輝・他5
	宮古空港の風比較調査 その2	宮古空	屋比久猛弥・他
	久米島空港における03側、21側の風の比較	久米島空	比嘉哲也・他
	下地島空港における滑走路両端の風比較調査	下地空	宮里智裕・他2
	那覇空港における冬季の25kt以上の季節風予測	那覇航	當間豊・他3
	2002年12月20日乱気流（CATを含む）の事例解析	那覇航	宮里正秀・他7
	雲低高度（CIG）に関する飛行場予報の精度の検証と評価	那覇航	下地源隆・他2
	視程に関する飛行場予報の精度の検証と評価	那覇航	上地国男・他2
	風に関する飛行場予報の精度の検証と評価	那覇航	饒平名辰三・他2

号・年月	項目	所属	著者
第33号 2004.11 平成16	夏季の島上で発生する強雨の鉛直プロファイル	宮古島	有銘功・他2
	石垣島地方における風の地形効果	石垣島	友利健・他2
	石垣空港における低層ウインドシャワーの基礎調査（その1）	石垣空	平良昌吉・他3
	平成16年7月9日の沖縄本島地方での大雨事例（地方共同研究その1）	沖縄台	裁吉信・他
	2004年7月4日の本島北部における大雨事例（地方共同研究その2）	沖縄台	三浦大輔・他
	台風通過後の前線帯での2004年5月23日の大雨（地方共同研究その3）	沖縄台・他	石垣雅和・他3
	平成16年4月1日の寒冷前線による石垣島地方の大雨	石垣島	前泊正純・他5
	平成16年5月13日の与那国島地方の大雨	与那国	井手和彦・他
	夏季の沖縄本島で停滞するメソ対流雲（その5）	沖縄台	金城康広・他2
	台風接近時における「防災時系列」一括修正のための地方ガイダンス開発（第一報）	沖縄台	上原政博・他
	判別分析法を用いた週間降水ガイダンスの改善の可能性	沖縄台	裁吉信・他
	久米島空港出張所におけるTAF-S風ガイダンスの検証	久米島空	西栄次郎・他2
	SATAIDとWPRを利用したUCLの事例調査（2年目）	南大東	金城文正・他7
	高層気象観測データとウインドプロファイラ観測データの比較（その2）	南大東	玉城善伸・他4
	ドップラーレーダーによるシャワーライン、マイクロバーストの事例解析	那覇航	三浦誠・他3
	空港気象ドップラーレーダーによる雷ナウキャストの可能性	那覇航・他	富村盛宏・他5
	沖縄本島地方における土砂災害と土壌雨量指数の関係（その2）	沖縄台	志堅原透
	台風が大東島地方にもたらす雨の量的見積もり	南大東	川村一広
	1分値データを用いたT0314の調査	宮古島	田村弘人・他
	台風における発雷分布	琉大	中野藤之
	台風の発達と移動の基礎的検討	琉大	米谷恒春
	北太平洋西部海域におけるバイナリー台風の経路の特徴	沖縄台風センター 研究会・他	石島英・他2
	沖縄本島近海における海面水温の異常高温	琉大	高垣吾朗・他
那覇FIRにおける「乱気流チェックシート」の作成	那覇航	伊礼正淳・他7	
宮古空港におけるGUSTの出現特性	宮古空	国吉真昌・他	

号・年月	項目	所属	著者
第34号 2005.11 平成17	沖縄地方における台風接近時の最大瞬間風速に関する研究 統計処理	沖縄台	上江洌司・他3
	沖縄地方における台風接近時の最大瞬間風速に関する研究 事例解析1	沖縄台	大城栄勝・他
	沖縄地方における台風接近時の最大瞬間風速に関する研究 事例解析2	石垣島	上地国男・他3
	海洋上台風の統合解析：雨と風	琉大	杉山卓也・他
	台風における雷活動の特徴	琉大	中野藤之
	台風接近時雨・風一括修正ガイダンスの開発（第二報） その1	石垣島	新垣英世・他
	台風接近時雨・風一括修正ガイダンスの開発（第二報） その2	沖縄台	上原政博・他3

第34号 2005.11 平成17	沖縄本島における不安定性降水ガイダンスの開発に向けて	沖縄台	金城康広・他
	宮古島の島上に発生する停滞性対流雲（その2）	宮古島	宮里智裕
	NHMを利用した那覇空港の弱風時の風の変化	那覇航	福原兼明・他3
	渦糸群相互作用による台風進路モデル	琉大・他	杉村裕子・他2
	ひまわり衛星画像による海洋上台風の雨域推定	琉大	武井千恵・他3
	SATAIDとWPRを利用したUCLの事例解析（3年計画の第3年度）	南大東	新屋盛進・他4
	NHMを用いた2004年8月のUCLの再現	南大東	新屋盛進・他2
	南大東島における霧発生の予測	那覇航	浜比嘉美香
	2004年6月9日に沖縄本島で停滞したメソβスケール降水域の構造解析	沖縄台	裁吉信
	2005年6月15日から16日の梅雨前線による本島地方の大雨の事例解析	沖縄台	友利健・他2
	2005年3月28日に沖縄本島地方を通過したスコールラインの構造解析	沖縄台	許田盛也
	2005年5月8日に沖縄本島地方に大雨をもたらした線状降水域の構造解析	沖縄台	花宮義和
	久米島空港と久米島灯台との風データの検証	久米島空	西栄次郎・他3
	衛星観測データを使用した琉球諸島周辺海域の波浪解析	琉大	水谷学・他
	定期フェリー観測資料から見た琉球諸島周辺海域の海面水温変動	琉大	小賀百樹
	ミニスーパー版NHMによる2004年10月8日本島北部の大雨の構造解析	沖縄台	金城文正・他3
	ドップラーレーダーによるシャーライン、マイクロバーストの事例解析（その2）	那覇航	三浦誠・他2
	2005年3月23日の寒冷前線通過に伴う石垣島地方の大雨	石垣島	重村尚秀・他2
	2005年5月24日の梅雨前線近傍での石垣島地方の大雨	石垣島	安田修・他2
	2005年5月14日の前線南側不安定場での大雨	宮古島	下地留吉・他2
2005年6月2日の宮古島地方での大雨	宮古島	下地留吉・他2	
街路樹の局所的気象に与える影響	琉大	堤純一郎	

号・年月	項目	所属	著者
第35号 2006.11 平成18	1998年の沖縄地方の高温現象 - 地球温暖化の実験室となった沖縄 -	沖縄台	佐伯理郎
	沖縄県における熱中症患者発生と気象の関係	沖縄台	比嘉良守・他3
	予報担当者の知見のプロダクトへの反映	沖縄台	予報技術検討会G
	雷監視システムのデータを利用した発雷確率ガイダンスの検証	沖縄台	根間幸美・他3
	2006年8月29日に沖縄本島地方で観測された内部重力波の特徴をもった気圧低下現象	沖縄台	外間宏信・他2
	那覇空港と神山島との風の比較調査	那覇航・他	長嶺泰彦・他5
	沖縄本島の降水特性 - レーダー・アメダス解析雨量を用いたEOF解析 -	琉大・他	西田浩平・他2
	平成18年6月10日のマイクロバースト及びシャーラインの解析	那覇航・他	仲程正・他4
	平成18年6月10日に糸満市で発生したダウンバーストと推定される現象	沖縄台	林俊宏・他
	-管内NHM共同調査- 2004年2月29日から3月1日にかけて、久米島付近で急速に衰弱した2つの線状降水域の構造解析	久米島空・他	城間恒彦・他4
	-管内NHM共同調査- 2004年5月9日に沖縄地方へ接近中に急速に減衰した線状降水帯の構造解析	沖縄台・他	裁吉信・他4
	-管内NHM共同調査- 2006年4月26日沖縄本島北部での前線通過前の大雨事例	沖縄台	下里明次・他4
	-管内NHM共同調査- 2006年5月25日から26日にかけての温暖前線と暖域内の沖縄本島地方の大雨	沖縄台	上原政博・他3
	-管内NHM共同調査- 2006年6月18日に本島北部で発生したバックビルディング型降雨の構造解析	沖縄台	親富祖努・他2
	-管内NHM共同調査- 2006年4月26日の石垣市の寒冷前線暖域内での大雨	石垣島	新垣英世・他2
	-管内NHM共同調査- 2006年6月8日から9日の線状エコーによる宮古島地方の大雨	宮古島・他	下地留吉・他4
	-管内NHM共同調査- 2006年5月31日の大東島地方における梅雨前線近傍での強雨	南大東	雑山浩秀・他
	与那国空港で台風通過後に発生する低い雲の事例解析	与那国	野嵩樹・他3
	台風時雨・風一括修正ガイダンスの検証	沖縄台	予報課地方ガイダンス開発G
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 2003年台風第10号	沖縄台	知念浄・他3

第35号 2006.11 平成18	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 2003年台風第14号	宮古島	池間英世・他3
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 2005年台風第14号	南大東	玉城善伸・他2
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 2004年台風第23号	沖縄台	友利健・他3
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 2004年台風第17号	石垣島	小山克人・他2

号・年月	項目	所属	著者
第36号 2007.11 平成19	再解析データを用いた沖縄の気候解析	沖縄台	上原一也・他
	Climatology of Air-Sea Interaction and Atmospheric Convection over the Kuroshio in the East China Sea	琉大	Fernando R. Cada・他
	大型耐久性浮漁礁の観測データを用いた琉球諸島周辺海域における吹送流解析	琉大・他	水谷学・他3
	宮古島地方の雷の特性と発雷確率ガイダンスの検証	宮古島・他	阿波連正・他2
	ドップラーレーダーによるシアライン、マイクロバーストの事例解析	那覇航	垣花和夫・他6
	沖縄管内航空官署における自動観測（視程、シーリング）の特性調査	那覇航	前泊康夫・他3
	地上風及びウインドプロファイラデータを用いた海上風の風速予測	南大東・他	具志幸人・他2
	冬場の東シナ海における海水温と海上風の関係	琉大工	狩俣博良・他
	極軌道衛星NOAAの降水強度を用いた南大東島付近の降水予測の可能性	南大東	神谷晃・他2
	沖縄レーダーを用いた「ひまわり」画像からの台風の雨域推定	琉大・他	三津谷恒・他2
	地表面被覆材料による表面温度の変化	琉大	堤純一郎
	背景風がもつ過度との相互作用による台風進路ダイアグラム	琉大・他	杉山卓也・他3
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 (2003年台風第10号 その2)	沖縄台	神谷保・他2
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 (2003年台風第14号 その2)	宮古島	東舟道博昌・他2
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 (2004年台風第17号 その2)	石垣島	新垣英世・他3
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 (2004年台風第23号 その2)	沖縄台	石垣雅和・他2
	台風中心部の強風メカニズムに関する基礎研究 (2005年台風第14号 その2)	南大東	富村盛宏・他2
	平成16年9月27日に名護市豊原及び今帰仁村古宇利島で発生した突風(竜巻)	石垣島・他	玉城和男・他6
	平成17年1月27日に読谷村で発生したノン・スーパーセル型竜巻	沖縄台	出原幸志郎・他4
	平成18年11月18日に名護市辺野古付近で発生した竜巻	沖縄台・他	親富祖努・他5
平成18年11月22日に東村付近で発生した突風	沖縄台	小山克人・他3	
平成18年11月26日に久米島で発生した降ひょうを伴う突風	久米島空・他	永山武彦・他4	
平成19年3月15日に沖縄本島中部で発生した突風	沖縄台・他	許田盛也・他3	
平成19年4月18日に宮古島で発生した突風	宮古島・他	友利健・他5	

号・年月	項目	所属	著者
第37号 2008.11 平成20	ドップラーレーダーによるシビア現象の監視	沖縄台	赤枝健治
	2008年4月16日に台湾東で発生したクラウドクラスタ	宮古島・他	金城康広・他2
	高気圧のへりにおける弱い雨の基礎調査	宮古島	友利健・他
	3時間雨量基準（宮古島市平坦地）による大雨警報事例調査	宮古島	渡口治
	諫早湾の潮受け堤防と広域干拓による局地気象変化	琉大農・他	真木太一・他3
	本部町備瀬のフクギが作る微気象の実測調査	琉大工	堤純一郎・他2
	日本の都市気温の長期変動にみられる地球温暖化とヒートアイランド	琉大工	堤純一郎・他
	平成19年4月18日に沖縄本島中部と北部で発生した高波災害の発生要因	沖縄台	裁吉信・他2
	波浪モデル等を用いた平成19年7月13日に沖縄本島で発生した高潮・高波災害の発生要因の解明	沖縄台	裁吉信・他2
	平成18年8月29日に沖縄本島地方で観測された内部重力波と推定される気圧低下現象の特徴とJMANHMを用いた再現実験	沖縄台	裁吉信・他2
再解析データを用いた沖縄の気象解析（その2）	石垣島・他	上原一也・他	
quikSCATを利用した大東島地方の海上風の調査	南大東	神谷晃・他3	

第37号 2008.11 平成20	アメダス雨量による那覇空港気象ドップラーレーダー雨量強度の比較調査	那覇航	安田修・他3
	地形性ウィンドシア調査	那覇航	山里米三・他5
	那覇空港の風の特性	那覇航	松長猛・他2
	那覇空港における雷の予報精度	那覇航	宮里義則・他4
	ウインドプロファイラを用いた台風の立体構造に関する解析的研究 (2007年台風第4号)	沖縄台	新屋盛進・他3
	ウインドプロファイラを用いた台風の立体構造に関する解析的研究 (2007年台風第20号)	南大東・他	川門義治・他4
	ドップラーレーダーを用いた台風の立体構造に関する解析的研究 ～2007年台風第11号の事例～	下地島空・他	岩間 陽介・他4
	平成19年12月21日の沖縄本島南部での降ひょうと突風	那覇航	仲程正・他4
	平成19年2月14日座間味漁港付近で発生した突風(竜巻)	久米島空	上原政博・他4
	平成18年11月22日本島北部の降雹	南大東	棚原聡・他2
	2008年4月17日の石垣島地方の大雨	石垣島・他	比嘉哲也・他5
	平成19年8月10日から12日にかけての沖縄本島の大雨	沖縄台	石垣雅和・他5
	平成18年6月10日の糸満市で発生した突風(ダウンバースト)	宮古空・他	長田学・他7
	宮古島近海の固有地震的地震活動	沖縄台	溜瀧功史
	臨時地震観測点(鳩間島・池間島)の震源決定(精度)に及ぼす効果 先島諸島の地震・津波(紹介)	沖縄台 宮古島	石川徹・他 福留篤男

※2009年度(平成21年度)から、沖縄気象台の調査研究発表会の共催ではなく学会単独で実施

年月日・担当	項目	所属	著者
2010.3.9 平成21年度 琉球大学	【講演】		
	沖縄4地区の降雨特徴	(株)沖橋エンジニアリング	大塚祐治
	集中豪雨の発生メカニズム～下層水蒸気場の重要性～	気象研	加藤輝之
	【口頭発表】		
	平成21年5月20日に沖縄本島で想定外の発達をした線状エコーの発生要因	沖縄台	親富祖努・他2
	ウインドプロファイラを用いたT0908、T0918、T0920の立体構造の解析	沖縄台・他	裁吉信・他7
	ひまわり画像からの台風雨域推定とその評価	琉大理	上江洲儀智・他
	台風進路の分岐要因：発生点とITCZ分布	琉大理	具志奈名子・他
	ロジスティック回帰を用いた晴曇自動判別	沖縄台	大塩健志
	沖縄県における気象情報の社会・経済的効果	沖縄台・他	浅見幸宏・他4
	【ポスターセッション】		
	夏季の日射による不安定降水の急発達に関する一考察	沖縄台	裁吉信・他2
	ドップラーレーダーを用いた台風の立体構造に関する解析的研究 (2007年台風第11号 その2)	沖縄台・他	友利健・他4
	那覇空港周辺で観測される低層ウィンドシア	那覇航	宇江城安秀・他3
	那覇空港及び石垣空港の風に及ぼす地形の影響調査 (台風接近時における最大風速の予測向上を目指して)	那覇航	小濱俊郎・他6
	南大東島の最低気温プログラムの検証	南大東	渡辺茂・他2
GPS 可降水量による監視業務の基礎調査	南大東	渡辺茂・他5	

年月日・担当	項目	所属	著者
2011.3.25 平成22年度 沖縄気象台	沖縄地方付近で盛衰する寒冷前線の特徴	沖縄台	新垣秀治・他2
	2010年5月15日から16日にかけて沖縄本島で発生した大雨の要因	沖縄台	石川美乃・他2
	風力発電の立場から見た沖縄の風の特徴	兵庫県立大学	河野仁・他
	MM5気象モデル使用による沖縄本島域の風及び月降水量分布評価技術の開発	沖縄台風センター 研究会・他	石島英・他5
	台風発生は熱帯収束帯変動に直結している	琉大	浦崎亜衣美・他2
日射受熱量の基礎的計算法	琉大	堤純一郎	
異常天候早期警戒情報による沖縄本島中南部の熱中症発生数予測の試み	沖縄台	北島俊行・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2012.2.24 平成23年度 琉球大学	2010年7月1日に沖縄本島で大雨を降らせた弧状の降水域の発生要因その①	沖縄台	石川美乃・他5
	2010年7月1日に沖縄本島で大雨を降らせた弧状の降水域の発生要因その②	沖縄台	石川美乃・他5
	2011年5月1日に沖縄本島で発生した大雨の発生要因 その①	沖縄台	永山武彦・他5
	2011年5月1日に沖縄本島で発生した大雨の発生要因 その②	沖縄台	根間幸美・他5
	ECMWFデータによる北太平洋での波浪解析	琉大工	平良明・他
	琉大千原キャンパスとその周辺の気象環境 - 気温・湿度測定 -	琉大理	鈴木竜馬・他
	近年の気象データに見られる気候変動の影響	琉大工	堤純一郎
情報通信研究機構 沖縄電磁波技術センターの紹介	沖縄電磁波技術センター	杉谷茂夫	

年月日・担当	項目	所属	著者
2013.2.19 平成24年度 情報通信研究機構 沖縄電磁波技術センター (NICT)	【口頭発表】		
	沖縄地方の梅雨期における500m高度面の特徴	沖縄台	友利健・他5
	2011/2012冬の沖縄地方における日照時間が少なかった要因	沖縄台	萱場互起・他
	台湾地形の影響で発生し東進するメソ対流系に伴う雷現象	那覇航	銘苺朝晃・他5
	ウインドプロファイラによる台風の断面構造解析	琉大工・他	比嘉健一・他
	沖縄偏波降雨レーダにより観測された対流性降水に関連する風速場および偏波パラメータの変動	情報通信研究機構・他	岩井宏徳・他8
	【講演】		
台風予報の現状と将来展望	琉大理	山田広幸	

年月日・担当	項目	所属	著者
2014.3.4 平成25年度 沖縄科学技術大学院大学(OIST)	2013年3月31日に糸満市で発生した突風の事例調査	沖縄台・他	上原一也・他
	平成24年に沖縄本島に接近した台風の構造解析	沖縄台	友利健・他6
	台風中の積乱雲が風速に及ぼす影響 - 暴風のメカニズムを探れ -	球陽高	松田留佳・他3
	単一ドップラーレーダーデータを利用した台風強度の推定 - 2012年台風第15号 (Bolaven) の事例 -	気象研・他	嶋田宇大・他2
	沖縄・奄美諸島における地形性降雨の特性と一般風との関係	琉大理	藤間弘敬・他
	気象衛星ラピッドスキャンデータを用いた沖縄周辺におけるメソ対流システムの発生過程の解析	琉大理	眞榮田憲・他
	2010年奄美豪雨の期間中に北へ伝播する降水システム	琉大理・他	山田広幸・他
	東シナ海における波の傾向とパターン分類	琉大工・他	平良明・他
雷計測のための光検出装置と擬似雷光発生装置の開発	琉大工	上原盛希・他2	

年月日・担当	項目	所属	著者
2015.3.9 平成26年度 情報通信研究機構 沖縄電磁波技術センター (NICT)	沖縄におけるフェーズドアレイ気象レーダおよびドップラーライダーの測定精度検証	情報通信研究機構	岩井宏徳・他3
	雷雲内粒子ダイナミクス計算手法の開発	琉大院・他	飯田友・他2
	平成26年台風第8号に伴う線状降水帯	沖縄台・他	田中孝・他3
	学生時代の研究紹介 - 成層圏から下部熱圏まで -	沖縄台・他	田中孝・他2
	静止気象衛星によるオホーツク海の水氷移動ベクトル	沖縄台	松本隆則
	関東平野の竜巻発生メカニズムに関する研究 - 竜巻再現実験装置の開発を通して -	球陽高	永井秀行・他3
	2013年台風6号の発生前における下層渦と上層渦の関係	琉大理・他	藤間弘敬・他6
	先島諸島において夏季の日中に発達する降水エコーの特徴	琉大理	田原和宗・他
西表島と宮古島における日射の影響を受け発生する降水雲の数値実験	琉大理・他	横山淑紀・他3	

年月日・担当	項目	所属	著者
2016.3.9 平成27年度 沖縄科学技術大学院大学(OIST)	太陽の黒点、雲量が紫外線量に与える影響に関する研究	球陽高	比嘉絵野・他4
	亜熱帯域における中規模渦と大気相互作用	琉大理	山本峻士
	沖縄を通過する寒冷前線の暖気側で発生する降水帯の特徴	琉大理	森田亜弥
	沖縄本島地方における異常低温時の気象状況	沖縄台	宮城嗣昌
	沖縄県地球温暖化対策実行計画に見られる気候変動の影響と適応	琉大工	堤純一郎
	東シナ海の高波におけるパイとモデルの相関関係	琉大理	島拓也
	ラジオゾンデを用いたPAWRのドップラー速度測定精度検証	情報通信研究機構	岩井宏徳
	日本国内における竜巻の発生環境に関する研究	放送大学大学院	惣慶靖
	2015年台風第15号の急速な発達と内部構造の関係	琉大理	田盛智翔也
RSMC Tokyo台風強度予報誤差データベースの構築と環境場を用いた統計的補正	琉大理	伊藤耕介	

年月日・担当	項目	所属	著者
2017.3.2 平成28年度 国際海洋環境情報センター(GODAC)	【講演】		
	西部熱帯太平洋パラオ周辺域における気象観測プロジェクト	海洋研究開発機構	城岡竜一
	【口頭発表】		
	台風の接近が少ないと海水温は高いのか？	沖縄台	林和彦
	Modelling sea surface current in the north coast of the Ishigaki and Iriomote Islands	琉大理	Ashari Wicaksono・他
	鉛直シアに伴う2016年台風第18号の壁雲の構造と強度変化	琉大理・他	田盛知翔也・他2
	海洋データ同化システムを用いた漂流パイの軌跡の再現と精度比較	琉大理	植原泰樹・他
	2016年9月に南西諸島において観測された伝播性レインバンドの構造と成層状態	琉大理・他	山田広幸・他2
	熱帯擾乱が関与する沖縄本島での大雨の事例解析	琉大理	江幡康仁・他
ウィンドプロファイラにおける信号処理 ーリアルタイムデータ処理とスペクトルパラメータ推定ー	情報通信研究機構・他	山本真之・他4	
人工知能による台風強度解析システムROBORACの開発	琉大理	柴田大河・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2018.2.27 平成29年度 情報通信研究機構沖縄電磁波技術センター(NICT)	2010年から2016年に沖縄地方の気象レーダーで観測した台風の強度と壁雲の傾斜の関係	琉大院・他	田盛智翔也・他3
	2017年台風第21号の発達に関する衛星観測および客観解析データを用いた調査	琉大理	藤井駿人・他
	Statistical Analysis of Tropical Cyclones in the Solomon Islands	琉大院	Edward Maru・他
	JMA-NHMによる冷気塊を要因とした顕著現象調査	沖縄台・他	根間幸美・他5
	ウィンドプロファイラによる風速観測データの品質向上を目指した信号処理手法の開発	情報通信研究機構・他	山本真之・他5
	2016年10月12日与那国島での大雨事例解析	石垣島	佐藤幸隆
	2017年台風第18号のアウトターレインバンドに対する台湾地形の影響	琉大理	細川椿・他
	梅雨前線帯の変動に対する外部強制の影響	琉大理	前川いつみ・他
	沖縄フェーズドアレイ気象レーダーで観測された積乱雲の3次元構造	情報通信研究機構	佐藤晋介・他5
	冬季海水温は気温を変えるのか？	沖縄台	林和彦
	Variabilities of the Sea Level Anomalies in the Upstream Areas of the Kuroshio Current	琉大理・他	Yusuf Jati Wijaya・他2
陸面加熱により宮古島と西表島で発達する対流雲の超高解像数値実験	琉大理	伊波恵・他	
沖縄本島での夏季における対流性降水の予測精度の解像度依存性	琉大理	比嘉康貴・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2019.2.28 平成30年度	インド洋と大西洋の海面水温が北西太平洋の台風発生環境場に及ぼす影響	琉大理	新垣優治・他
	気象庁非静力学モデルを用いた台風進路予報の大外し事例の研究	琉大理	比嘉未雅・他
琉球大学	近年の気象庁とJTWCとの台風強度解析比較	沖縄台	林和彦
	航空機観測データを用いた台風強度推定手法の検証	琉大理	知花聖香・他

2019.2.28 平成30年度 琉球大学	2018年台風第24号におけるOcean Feedbackの影響	琉大理	久保昌也・他
	2018年台風第24号の内部コア領域における微細構造の解析	琉大理・他	山城来奈・他2
	台風に先行して発生する大雨イベントの日本列島とその周辺における統計的特徴と環境場	琉大理	荒関晋・他
	平成30年7月豪雨に先行する沖縄地方での大雨の解析	琉大理	伊藤典子・他
	2016年1月17日に先島諸島で発生した線状降水帯の発生要因の解析	那覇航・他	田中孝・他
	梅雨前線と平成30年台風第6号の大雨顕著事例のJMA-NHM調査	沖縄台	平仲裕一・他4
	2018年に沖縄本島地方で発生した竜巻	沖縄台	石川美乃
	沖縄沿岸における波浪の長期変動傾向	琉大理	Zheng Wanzhou・他
	験潮データから見る高潮位トレンド	琉大理	古宇利友哉・他
平成30年台風第24号により沖縄本島で発生した高潮・高波災害に関する調査	沖縄台	友利健	
東シナ海の黒潮流域における表層ベクトルの空間変動	琉大理	真栄田幸平・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2020.2.7 令和元年度 発表会中止 (書面開催)	台風予報改善のための研究の取り組み	気象研	川端康弘・他
	台風の急発達に伴う対流バーストの検出方法の検討	琉大理	久保美晴・他
	航空機観測のデータを用いた2017年台風第21号の構造解析	琉大理	高村堯宏・他
	2016年台風第18号の上層雲に伴う微気圧変動	琉大理	新垣喜恵・他
	2018年9月28日に発生した台風に伴う竜巻現象の再現	沖縄台	根間幸美・他2
	2019年台風第19号の海面水温偏差に対する感度実験	琉大理	市川花・他
	寒冷前線近傍で発生する対流雲の発達に黒潮が与える影響	那覇航	田盛智翔也・他2
	ドップラーライダーで観測された寒冷前線に先行する気流構造の変動	琉大理	川中子ひかる・他
	沖縄本島の地形の影響による短時間強雨に関する調査	沖縄台	當眞嗣淳・他2
	デジタルカメラレンズのF値の相対変化による結像面の照度変化の評価	琉大工	中野貴大・他
	針端コロナ放電検出用電流センスアンプの開発	琉大工	下平悠聖・他
雷雲検知用針端コロナ放電検出器を用いた暗電流観測	琉大工	下平悠聖・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2021.2.24 令和2年度 沖縄気象台 オンライン (コロナ対策)	2018年台風第8号(マリア)の地形性降雨強化の過程	琉大院・他	細川椿・他
	盛夏期に琉球列島で大雨をもたらす停滞性降水システムの発生要因についての解析	琉大院	伊藤典子・他
	2020年5月に北西太平洋上で発生した切離低気圧に対する対流活動の寄与	琉大理	又吉征伍・他
	2015-2020年の6年間ににおけるアフガニスタンの降水特性と総観場の調査	琉大院	Shoaib, Mohammad Tariq・他
	台風通過時にみられる速報MGDSSTのバイアス	琉大理	伊藤耕介
	令和2年台風第9号による高潮予測3.5mの検証	沖縄台	古積健太郎・他2
	インドネシア・リアウ州における遷移季節の潮汐ボアのADCP記録	琉大院	ULUNG JANTAMA WISHA・他
	遠距離海洋レーダーと気象庁が開発したMOVEシステムとの表面海流の比較	琉大理	長嶺由稀・他
	東シナ海の黒潮の経年変動と太平洋変動との関係	琉大理	知念陸・他
	マカロフ海盆周辺海域における1990年から1999年にかけての9月海水面積の推移と北極振動との関係	琉大理	河野慧・他
	多良間島海域における海上風速の推定に関する調査	宮古島・他	渡口椋・他2
	大気海洋相互作用の不完全な表現に起因する台風強度予報の誤差	琉大理	竹本祐太郎・他
	高解像度大気海洋結合モデルによる2017年九州北部豪雨の予測精度評価	琉大理	城間貴大・他
	2017年台風第21号のアウトレーンバンドと非地衡風との関係	琉大理	大城展・他
	2018年台風第24号に伴うミニスーパーセルで観測された高気圧性渦	琉大理	関和宏・他
いわゆる「先行台風型」の台風発生について	琉大理	山内健司・他	

年月日・担当	項目	所属	著者
2022.2.24 令和3年度 沖縄気象台 オンライン (コロナ対策)	フラット光源の開発とレンズ光学系生成像のF値による照度変化分析	琉大工	上地慧・他
	大気中降水粒子、砂粒子、火山灰粒子の帯電状態における落下運動	琉大工	王丹・他
	放電現象観測用 UHF アンテナシステムの構築	琉大工	田島大雅・他
	北西太平洋における「亜熱帯低気圧」の特徴	琉大理	渡部太閤・他
	台風環境場の成層安定性と強度変化の関係	琉大理	當山也斗・他
	The North Equatorial Countercurrent reaction to three types of El Nino in the west of dateline	琉大院	YUSUF JATI WIJAYA・他
	The Influence of Climatic Factors on Triggering Sea Level Anomaly in the Equatorial Malacca Strait	琉大院	ULUNG JANTAMA WISHA・他
	東シナ海における海面水温と降水量の関係	琉大理	甲斐基希・他
	近年の台風の発生及び発達状況に関する調査	沖縄台	河原恭一・他
	4月の南西諸島近海における雷活動	琉大院	市川花・他
2020年の梅雨に対する東シナ海の海面水温の影響	琉大理	小平優希・他	
民間航空機観測データを用いた台風構造の解析	琉大理	伊藤耕介・他	

～ 編集後記 ～

小職は令和3年度から沖縄支部の事務局の担当となり、学会関連実務の中で来年が支部創設50周年にあたることを知りました。2021年度支部総会において、創設50周年記念事業のひとつとして記念誌の作成を提案し、理事の皆さまからご快諾をいただきました。

本誌の作成にあたっては、寄稿者各位および前任の担当者、理事の皆さまから資料のご提供や編集に関するご提案をいただくとともに、ご指導も受けつつ無事完成に漕ぎ付けることができました。過去の資料で一部確認できない事項もございましたが、本誌の作成を通じて支部活動の推移や活動内容を確認できるとともに、先輩方の多大なるご尽力やご苦勞、ご活躍に触れる機会となりました。

今般、新型コロナウイルス感染症による社会的情勢の変化を受けて、支部事業の一部が思うように実施できない状況が続いておりますが、オンライン方式を活用した会合の開催など多様な実施方法も模索しながら、今後も支部活動が活発化していくことを期待しております。

最後に、本誌が今後の支部活動を進めていく上で参考となれば幸甚です。

(2022年3月 沖縄気象台防災調査課 大城 隆)



日本気象学会沖縄支部の50年

2022年（令和4年）3月刊行

（公社）日本気象学会沖縄支部

<http://www.msjok.com/wiki/>

〒900-8517 沖縄県那覇市樋川1-15-15

沖縄気象台内（事務局）

TEL 098-833-2186

FAX 098-836-8081